

それに個別的調査方法は米國の理想を背景とし、それを一般的法則とし規範とするから、異なる感情と思想とを有つ異人種の混合としての米國人の間に容易に流通することができた。諸國より米國に移住せし移民の子はアメリカニゼイションによつて容易に米國化し、適應性鈍き兩親に米國の解釋者説明者となる。かくて、米國の理想、一般的規範は國を通じてよく普及し、従つて、個別事業方法をも容易に全米國に傳ふることができた。これ國を擧つて個別事業を採用し、これを米國固有の社會事業方法として確定せし所以である。

二 米國個別事業の方法

A 合理化

個別事業とは一定の方法によつて、個別化の原則 (Grundprinzip der Individualisierung) を實現するものに外ならぬ。社會的障害の輕減除去には個別化を要し、個々適當なる處遇をなさなければならぬ。これに對し、一定の救助方法が發達しなければならぬが、これ即ち個別事業である。

個別事業は (一) 合理化、(二) 深化、(三) 統制及批判の三の原則の上に立つ。

個別事業は個性の認識と、その改善とにわたり、力めてそれを合理化しやうとする。個別事業に於ては單に認識の故に認識するのではなく、認識の上に立つて適當な處遇をなさんとするのである。合理化とは認識と處遇との

合理化を意味する。この場合、實は合理的な認識は合理的實行の前提たるまで、合理的で正確な處遇をなさなければならぬ必要上、合理的な認識を要求するのである。リ女史に據れば 社會診察とは或社會的要求をもつ人間の境遇と人格とに能きるだけ正確なる限定をなすことである (Social diagnosis then, may be described as the attempts to make as exact a definition as possible of the situation and personality of a human being some social need) の場合、能きるだけ正確なる限定をなす理論的要求による認識は in some social need なる實際的要求即ち取扱の必要から起る要求に應ぜんが爲めである。理論的認識は實際的處理の前提たるべきである。理論的認識は situation と人格とにわたるが、これは要救護者が何等か他の個人に從屬する關係と、他の個人が要救護者に交渉する關係と、要救護者が社會の組織に關係することを含む。

理論的認識は實際的な取扱の前提であるが、この兩者の間には社會的診察が来る。恰も醫師が理論的に病原因を探求するため能きるだけ綿密に資料を蒐集し、病體の形像をつくり出し、それを診斷に用ゐるが如く、個別事業家は先づ理論的に能きるだけ綿密に要救護者の原因に關する資料を蒐集する。この場合、個別事業家の理論的認識は科學者の如く理論の故に理論につくるのではなく、その理論たるや、やがて實際化せんとする動機によるものである。すなはち、個別事業家の理論的認識は實際に向けられる認識である。これが科學者の認識及其その目的と異るところである。そこで、個別事業家の認識は必ず社會診察 (social diagnosis, soziale Diagnose) に向け

られる。社會的診察は理論的認識の次に來り、處遇の前に來る。

正當な正確な認識に達するには、(一) 認識と處遇との交互作用と (二) 認識の總和とを具備しなければならぬ。救助の實際的活動に於て最初から完全な認識に到達することはできないし、従つて、不完全なる認識と診察とによつてなされる處遇の完全なるを期することはできない。最後の診察といふようなものはない。診察は徐々に材料の蒐集と整理と統一によつて完全となるが、最後の診察といふようなものは稀有である。人間の内外の條件は雜多であり、紛糾して居り、更らに刻々變化し創造するから、これを靜的に眺むることはできず、必ず動的に見なければならぬ。従つて、最後の診察といふようなものは多くの場合ありえない。そこで、診察は徐々に成熟するといふ見解に達する。診察の徐々に成熟を期するのは個別事業に於ては直ちに取扱を開始しなければならず、診察の完了をまつことができないからである。認識は徐々に進むから直に其完了を期することはできない。觀察と認識と取扱とは交互作用をなしつゝ進まなくてはならぬ。すなはち、認識が徐々に成熟すれば取扱の上に影響を與へ、次に取扱が進めば經驗に基き更らに認識を完全ならしむる類である。そこで、診察は取扱が進行する間絶えず成熟するといふことになるが、又認識が進む間は絶えず取扱も新たになりまざるわけである。認識と取扱とはどこまで行つても交互作用をつゞける。そこで、性急な最後の診察なるものは有効に處遇することの能力なき未熟なもの、未完成なものといふことになる。これを one word diagnosis といふ。かくの如き一方的

診察は一要素一側面を強調するものであり、一要素一側面に没入するもので、その全觀全景をつくすが如きものではない。認識と取扱との交互作用によつて兩者は各成熟し完成するので、認識と取扱とは一步步交互に他を成熟せしめ完成させる。取扱の始めにあつては、その刹那得られたる認識によつて處遇する外はなく、各刹那各瞬間認識と取扱とは一步步交互作用をもつて進んで行く。こゝに認識と取扱とは不可分な關係をつくる。認識は認識作用のみによつて完成されるのではなく、取扱の上から經驗によつて豊なる知識を加重する。かくの如くにして得られたる知識によつて再び取扱が一層完全になる。

個別事業に於ける診察の特質はこゝにある。それは單なる理論的認識にもあらず、根據なき取扱ひでもない。診察は理論と實際との交互關係、交互作用によつて發展するのであるが、これによつて始めて個々理解し個々處遇することができる。實際は理論によつて貫通され、これによつて個々有効適切なる處遇をなすことができ、處遇は又認識を一層肥大せしむる性質のものである。認識と取扱とを靜的に見ないで、動的に見るのが、個別事業の困窮を見、人間を見る方法である。私は自分の歴史的な學論を通じて、救助の對象としての人間とその困窮とを一度かぎりなもの、刻々變動し創造するものと解する。歴史的な存在は法則によつて律することはできないが、定型化するもの Typisierung するものと見る。

次は個別事業には認識の總和を要する。個々人の特質を明かにするには個人のもつ要件、特性を總和しなければ

ばならぬ。これが個人をして個人ならしむる所以となる。個人のもつ要件、特性を列挙し、これを總和する方針は衆個人を貫通する概括を以て應ずることはできない。よつて、個人をつくる要件と特性との總和は繰り返へざる歴史的なものとなつて現はれてくる。こゝに個人の獨特 (unique) なものとして取扱はるゝ理由が成立する。個別事業は他と置き換へられざる獨特な個性と個人とを對象とする。

個人を獨特なものとしてその特殊性を顯現せんには要件と特性とを能きるだけ綿密に列挙しなければならぬ。これに對し、個別事業方法は抱括的でなければならぬ。それは個性に對し、その要素となるものを一もあまさず摘出して列挙しなければならぬ。但し、それは一々要素特性について深く知らなければならぬから、百人藝によつて完全に枚擧することはできぬ。深き洞察と理解とを得るには各種専門家の協力をえなければならぬ。心理的側面は心理學者、精神病的側面は精神病醫、醫學的側面は醫師、教育的側面は教育者といふように個人に顯現する困窮、障害をつくる總ての要素、特性は専門的に分析され理解されなければならぬ。かくて個性を深く了解し、社會環境と、それと個人との關係をも専門的に分析理解し、以て個人の個人たる全觀全景をつくり出さなければならぬ。こゝに個人の Gesamtheit がつくられる。個別事業では認識の總和をうるために、從業者會議 (staff-conference) を開く。何故、個別事業に從業者會議が要るかと言へば、個人がもつ總ての特性を列挙し、これをまとめて總體形象をつくらなければならぬからである。總體形象は獨力を以てしては得がたきもので

ある。強いて獨力でなし遂げようとするれば、百人藝となり、百科全書的となり、廣く淺くて用をなさぬ。個別事業は深き認識を豫想し、それを前提とする。個人的總體的特質 (individuellen Gesamtsituation) は個々の要素個々の特性を知るに堪能なる専門家の合力によつてのみ知りえられる。こゝに各方面に詳しい從業者を集め合議する必要が起り、從業者會議なるものが開かれるのである。從業者會議は監督 (supervisor) によつて指導せられるが、監督は一々の方面に詳しい從業者によつて批評されたるものをまとめ、個人の總體的特質をつくり出す。

個別事業家は總體形象をうることにつとめるから、個々の要素や特性のうち、その若干を知るを以て満足せず、總ての要素と特性とを知らなければならぬ。その上で、これを個人がもつありのまゝの組織、構造にまとめなければならぬ。要素、特性を完全に枚擧すること、これを個人のもつありのまゝの構造に組み立つることが個別事業家の任務である。但し、この困難なる任務を果すには單に技術をもち合すだけでは足らず、同類に對する同情と人道的な人生觀とを有たなければならぬ。個人の何であるや、その困窮の何であるやを知るには、他人の位置に身を置いて考へて見る心情がある。恵れたる位置にあるものゝ立場より見るが如き方法を以てしては病めるもの腦めるものを如實に理解することはできない。不遇者の完全なる理解には必ず不遇者の位置に身を置いて思ひやる心情がある。他人を理解するは感情移入 (Einfühlung) の作用により、深き感情の力にまたなければ

ばならぬ。感情移入によつて他人を自分のものとして寫し出す。こゝに自分の心鏡に他人があらのままの姿を現はす。imaginative sympathy のはたらくところに如實な對者の姿がうつる。個人の總體形象をつくり出すことは困難な作業であり、殊にそれが複雑で大なる知力と認識とを要するが如きものにあつては一層想像的同情による感情移入が大切である。これ個別事業には個人を知る技術と共に同情と人生觀との必要なる所以である。但し、感情移入をなすからとて事物の客觀性を失つてはならぬ。感情のはたらくところ主觀的となり、事物の客觀性を破り易い。然るに、同情や感情移入は正確にして如實な形像をうるために用ゐられるのであるから、これによつて客觀性を失ふが如きはその用ゐる刀に自から伏するような愚擧となる。感情移入には大なる危険が伴ふことを思ひ、個別事業家は常に客觀性を確保することに力めなければならぬ。

かくの如き複雑で困難な個別事業を遂行するには必ず一定の學習を経なければならぬ。個別化の方法は學校に於ける技術教育に依るを要する。方面委員制度は素より個別事業によつてなされるが、我國では方面委員に對し教育を行はざるのみならず、時にこれを無用とさへ考へてゐる。方面事業吏員にも専門教育を受けしものを用する習慣未だ發達せず、庶務や會計と同一に見て無資格な吏員を採用する有様である。米國では個別事業家教育を特殊社會事業學校で行つて居るが、近時一流大學は殆んど悉く個別社會事業家を養成しつゝある。我國では社會事業吏員は専門教育がなければならぬ程宜いといふ意見が流通してゐる。米國では個別事業教育として直接の

教育と一般的基礎教育とが與へられてゐる。社會學、心理學、精神病學といふような學科を教授すると共に、少年保護、保健事業、家庭保護といふような特殊知識をも授けて居る。米國では個別事業は理論的知識と共に實際に習熟するように教育されて居る。その上、生徒と教授とは寄り集つて實際調査の結果を報告し合ひ、意見の交換を行ひ、衆智を集めて總體形象をつくり出すに力めつゝある。

以上説述せしが如き複雑なる過程を経て個別事業は合理化 (Planmässigkeit) を行ふ。

B 深化

個人を形ちづくる要素や特性は無數であり、更らに要素は再分され、再々分たれて、原素にまで追及される。個別事業には深化が大切な要件となる。個人を構成するいくらかの要素や特性が知れただけでは未だ以て個性を知りつくしたといふことはできぬ。個人を知るには完全に要素や特性を枚舉しつくさなければならず、更らに、その細分をもなさなければならぬ。かくて個性を残りなく探求するのであるから、通り一遍の探求や申譯的な調査位では個別事業に所謂調査とはならない。個別事業にいふ調査とは深化せし調査のことである。

米國の個別事業は驚くべき程度に於て深化が加へられて居る。殊に調査の中に熱情と同情とが普く入り込み、調査をして生きた如實なものたらしめて居る。向きに述べしが如く、感情移入は主觀的となつて事物の客觀性を破却する虞れがあるけれども、それによつて始めて如實な合理的な個性を浮き出させることができる。米國の

如き人道的氣魄の豊かなる國柄に於て始めて個別事業を行ひうるのであつて、その他の國に於て果してよく個別事業を移植しうるや疑なき能はず。個別事業を形の上では移植することもできても、魂なきものたらしむれば、畢竟個別事業を入れない結果となり、失敗に終らざるをえぬ。我國の如く萬事形式一天張りで内容を盛りぬ國柄に個別事業の如き形よりも魂であるべき人道事業が果して移し植えられうるや奈何。我國の社會事業は一般に形式的存在で、同情も愛も人道的氣魄も全く脱出した木乃伊そのものである。

個人が如何なる環境に人と成つたかといふことを調べるのは、やがて個人を解する所以であるが、米國個別事業は環境を分析し、殊に綿密に家庭を調査する。家庭は個人をつくる坩堝である。家庭によつて被調査者が如何なる性質のものであり、實質のものであるか、洞察される。本人と父母との關係、父母の勞働狀態、本人の學校に於ける成績などを調べ、更らに微より細に入り、本人の好惡、性癖、玩具までも取り調べるとすれば、個性の何であるやを明かに知り、その障害の内秘に分け入ることが出来る。これによつて、家庭の總體形象をつくり上ぐると共に、本人の總體形象も亦従つて明かになる。個人を全體として、全體たる家庭によつて了解し、そこに動かざる個性をつくり上ぐるもの即ち個別事業である。更らに、家庭を近隣と切り離さないといふ見地によつて近隣の狀態を明かにすることも進み、一般社會の實相をもそれに附け加へる。近隣を調べれば、兒童に與へし影響を一層精細に摘出することができる。

個別事業方法は單なる分析や調査でなくそれを深化し微より細に入つて事物の客觀性を露出する方法である。

C 統制及批判

被調査者の素質と環境とを調査するだけでは未だ以てそれが確實な調査たりうるか否かが分らない。感情の下に行はれし調査は正確なる能はず、一時の印象によつて判断せしものも亦確實なものかどうか分らない。直接觀察せしものと雖も、直接的印象によつて反應せしものは、衝動的で十分反省が加へらるるにいたらず、それが客觀的に正確であるかどうか分らない。そこで、確實なる調査をなすには必ず被調査者の素質と環境を正確に分折するのみならず、調査者の調査そのものに批判を施し統制を加へなければならぬ。自己批判を欠く個別調査は正確なものとなりがたい。個性と環境とをよく調査すると共に、自己批判を行ひ、客觀的に正確な判断をなさなければならぬ。個別事業では素質と環境 (Anlage und Milieu) との兩者を調べ、個人の素質が何であるやに基いて個性を定め、又環境の何であるやを調べ、これによつて改善の方法を發見せんとす。この場合、個別事業は素質と環境とを二と解せず、一として取扱ひ、兩者を全體にまとめる。個別事業では素質と環境とを一なる全體として取扱ふ見地から、これを Individual and Background (個人と背景) として表示する見地に依る。環境に適應することが人格の發達となるが、個別事業にいふ adjustment には二の意味がある。すなはち、一は個人が環境に適應すること、他は環境をして個人に適應させることである。個人が環境に適應することを得ずして落

伍せし場合にはそれを助けて環境に適應せしめなければならないが、惡家庭といふが如き環境の悪いものは、その環境をして個人に適應せしむるが如く改善を加へなければならぬ。そこで development of personality とは個人の素質を開發すること、個人をして環境に適應せしむること若くは環境をして個人に適應せしむることによつての性格の開發であると言ふことになる。

個人と背景(素質と環境)とをありのままに調べ上げるには自己批判の作用にまたなければならぬ。被救助を見た刹那の感情に攪亂せらるゝことなく、又自己の感情に捉はるゝことなく、ありのままに認識せんとすれば、自己批評の作用にまたなければならぬ。被救助者を客觀的に見るには自己批評を随伴させなくてはならぬ。調査者はいつでも客觀的に見るが如き習慣を獲得しなければならぬが、たゞ客觀的態度を持すべきだとするやうな固定する精神的態度では未だ足りない。調査者には絶えず客觀的たるべしとし意識的に焦心する態度がいる。意識的に客觀的ならんと焦心する態度は被救助者を客觀的に見せしめ、それと共に、絶えず自己批評をなさしめる。

正確なる調査をなすには、(一)被救助者の個性と、その環境とに統制を施し、正確な結果を得なければならず、(二)自己の反省によつて更らに統制を加へなければならぬ。調査には個人に關する資料を綿密に蒐集しなければならぬ。即ち、正確に事實を固定しなければならぬ。但し、如何に事實を正確に固定せんとするも、これ

に主觀的着色を帯ぶれば客觀性はそれだけ失はれる。それ故、事實の正確な固定には主觀的着色を極力除去しなければならぬ。客觀的な事實の固定には資料を彼此比較し、それをありのままの序列にをかなければならぬ。個々の事實は被救助者の認識に基き、その何であるやに従つて排列するようにする。正確なる診断をなすには、ただ資料を多く蒐集するだけでは足りない。それを一定の序列につくり、病患の何であるやを明かに表示するようになくなくてはならぬ。個々資料の正確は第一條件であるが、次にこれが排列して如何に全體をつくるかが大切な條件となる。眼を開いて事實を明かに見る必要あることに關し、カボット博士は *must learn to shut them and think* と教へ、反省作用、自己批評の大切なことを強調して居る。個人をありのままに理解するには個人に關する資料を綿密に蒐集し、部分を交互に關係せしめ、かくて全體を造り上げなければならぬ。個々の事實によつて個人を知ることができない。個々の要因は彼此關係せしめられて全體をつくり、組織的序列をつくらなければならぬ。個人を判断するには要素の上に於てせず、全體の上に於てなし、統一したる組織の上に於てなきなければならぬ。個人を批評し、資料を批評し、資料の結合を批評し、その取扱方を批評し、自己批評をなし、個人の解釋に参加する諸團體を批評的に見るなど、個別事業はできるだけ個人を正確に知り、それを *unique* なものとなし、他人と置き換へられない獨自性を發揮させなくてはならぬ。こゝに個別化的原理 (*Prinzipien der Individualisierung*) による個別事業の意義が明かに表はれる。

個別事業は合理化と、深化と、自己批評とによつて、固有の個別化的方法をつくり出す。

三 米國個別事業の應用

米國の個別事業はその國に特有なる傳統と文化との産物であるから、直ちにこれをその儘他の國に移植することはできない。日本や獨逸の如く官僚組織がよく發達し、米國の國狀と正反對にある國に於て果して米國の如き個別事業をその儘移植することができるや疑なき能はず。但し、救助は究極に於て個人的ならなければならず、歴史的な存在物としての人間に對しては救助と取扱とは竟に歴史化しなければならぬ。従つて、社會事業の究極は個別的でなければならず、個別事業は救助學の中心を形つくるであらう。如何なる國に於ても個別事業は發達しなければならぬ約束のものであるが、米國の如き着色と性質の個別事業は傳統と文化を異にする他の國にその儘復現することができるとは考へられぬ。

我國にはデモクラシイ觀念は米國の如く發達して居らぬ。従つて我國では人間は器物の如く取扱はれ、人間の尊嚴とか人間性や人間禮讃とかといふことは米國あたりの眞似した空念佛に過ぎないであらう。人間と言つても、人間性と言つても、米國の如き内容と意味とを盛るものではない。人間の價値と、従つて、その自由なる發達をはかるなどは *our common humanity* の國たる米國にはふさはしいが、日本人には鵠の眞似をする鳥の類

で、寧ろ滑稽であると思はれる。日本では、子供は器物の如く取扱はれ、教師は恰も學童を兵隊でもあるかの如く取扱つてゐる。我國では教師と生徒との關係は士官と兵卒との關係である。親と子との關係は所有主と所有物との關係で生殺與奪の權が親の手に握られてゐる。妻は妻ではなく、女奴隸である。我國に於て人格と言ひ、人間及人間性と言ひ、その自由なる發達といふは西洋の眞似で、そのうちに同じ内容と意味とが盛られて居ない。そこで、人格の發達 (*development of personality*) を目的とする個別事業は米國によくうつるが日本の如く人格を尊重もしない國に於て人格の發達を目標として個別事業を行ふことの果して似合はしいかどうか、米國では個別事業の對象は人格の發達であるが、日本や獨逸ではそれは人格の發達ではなく、器械的に科學的に個人を正確に救助し、その福祉を増進することである。米國の個別事業は人道的な「人格の發達」を目標とするが、我國では個々人の器械的な社會的障害の輕減除去と福祉の増進とを目的とするであらう。人格などいふ措辭を用ゐることさへ我國狀には適せず、従つて人格とその尊重とは我救助界に於ても適當でない。よつて同じ個別事業を用ゐても、米國のものと我國のものとは内容と意味とを異にするであらう。

Mitsuwiken として救助に協力することも米國には似合ふが、日本や獨逸には似合はない。民主々義的精神の表現としては「助けてやるのだ」といふ形式は避けなければならぬから、同じ助けるにしても被救助者が救助に参加して自から助ける形式をとらせる。参加 (*participation*) とか協力 (*cooperation*) とかが米國の救助に

は大切な要件となるが、日本では上より下へ恩恵を下すのであるから、参加ではなく、優者と強者の慈恵であり憐愍であるまである。日本では協力ではなく、優者と強者との専断による救助であるまである。米國には人間と人格と人道とにまつわる理想と無限に人間の進歩するてふ樂天主義が輝いて居り、救助世界にも人格の意味は甚だ深く且つ廣い。リッチモンド女史の如く個別事業の對象を人格とその發達と見て、これを中心として環境に適應させることは米國にはふさはしい。恐らく米國の如き個別事業、社會事業は我國には繁昌もしなければ、その儘移植することもできないであらう。我國や獨逸に行はれる個別事業は外形では米國のものと類似して居ても、その内容と意味とは全く別のものであらう。

獨逸では我國の如く國民間の關係は從屬關係上下關係となつて居るから、そこには米國の如く参加や協力による救助思想は發達せず、従つて、それに當る救助形式の發達を見ることができない。獨逸では被救助者は獨立な人間と見られず、又獨立な人間といふ意識もなく、終始他力の上に立つて居る。そこに助けるものと助けを受くるものとの間に從屬關係が起る。被救助者は獨立自助のものではないから、救助者に相談もし、忠言も受け、指導もされ、乃至反對給付なくして恩恵として施與せられる。こゝに人間が人間を支配し、他の人間を從屬せしむる關係が生ずる。我國の救助形式もこれと同一で、被救助者の参加とか協力とかといふやな獨立自助による意味は全く欠け（ありとすれば眞似である）貧民に號令を下し病者を叱り飛ばすといふ流儀である。

次に日本でも獨逸でも官僚組織がよく發達して居るから、變化と創造と個性とに基く個別事業はその羽翼を伸ぶことが能きず、従つてよく發達することができない。官僚組織は無論個々變化しうるやうな仕組でなく、規則や形式のやかましいものである。生命の代りに形骸、内容の代りに形式、變化の代りに固定で、十分その中に變化と創造と個性とをいふことができない。官公社會事業は集團的で、個別事業の個別化と正に反對である。官公社會事業では規則だの形式だのといふことがうるさく、一々救助の實際に適應することができがたい。規則に照らし、思案してゐるうちに病人は死亡し、失業者は餓死するといふ類で、到底、個々に即して適當なる手段を動かし方策をめぐらすことができない。我國では私團體事業と雖も兎角官僚化する傾きがある。大なる私團體は役所風に構成され、理事とか、監事とかといふようなものは役人振つたり、又役人の古手が多く、恰も官僚が私團體に引越して來た觀がある。それに我國では個人を輕視し團體を重視する風あり、如何に優秀なる個人と雖も個人たるからには社會が信用せず、團體となり、役所紛ひたるにいたり始めて信用もし尊敬もするといふ有様で言はゞ我國民は一種の團體狂である。獨逸でも集合的統一體に敬意を拂ふこと我國の如く、國家、教會、その他の關心團體は凡て個人の上位にあり、如何なる個人よりも尊敬せられてゐる。我國や獨逸では救助吏員までも集團の機關であると見、團體の代理人の如く扱ひ、救助吏員も亦集團の代表者の如く振舞ひ、恰も役人でもあるが如く想ふて意氣揚々たる有様である。米國では被救助者と雖も獨立自助の人格を有し、救助者は獨立自助たるべ

き被救助者の自立に手傳をするといふ態度である。我國や獨逸では團體中心、官僚萬能であり、これ等の團體が責任をもち、個々の人間を從屬關係によつて律し、これに助けを與ふ。こゝでは、原則として、國民は一視同仁に取扱はれなくてはならぬから、救助に於ても國家が主權を握り、その治下にある國民は責任として一様に救助せられる。米國對日本、獨逸の救助形式が斯くの如き正反對の立場にあり、全く異つた心理的條件の上に立つからには、米國に於て發達せし個別事業をその儘日本や獨逸に移植することも亦不可能だとも考へられよう。團體萬能な國と國民とは集團的社會事業がふさはしいが、個別的原則の上に立ち個々取扱をなす社會的個別事業に適するとは思はれない。

米國の社會事業家は友愛をモットーとして進むけれども、日本や獨逸の社會事業家は萬事號令を下す。我國では貧民や失業者に對しても常に士官と兵隊との間柄にあり、上より下に號令を下しつづける。官公社會事業は法によつて號令を下す仕組である。官公社會事業全盛なる我國では愛の社會事業は行はれがたく、法の社會事業のみ羽翼をひろげて居る。官僚組織の社會事業は硬化して生命なきものとなり、民間社會事業は支離滅裂無組織なものとなる。理想的な社會事業組織は法と愛とを合せ、官公社會事業と民間社會事業とを合體するもので、私の所謂統合社會事業がそれに當る。官公社會事業は規則と形式によつて強大な大規模な組織と救助とをなすことができるが、私的社會事業精神たる個別化をこれに求むることはできない。米國の民間社會事業の隆盛を以てし

て、私的社會事業精神を代表する個別事業の發達盛なる蓋し偶然にあらず。恐く米國の如き民主主義と人間尊重の觀念と、私的精神とを所有せざる他の國に個別事業をその儘移植し、形骸と共に内容と生命とを移し植えることは困難であらう。實は我國の如き官僚國は萬事集團社會事業本位で行くべきであり、又行かなければならぬ、よつて、我國では既に第一步に於て個別事業とは正面衝突をして居るものと見なければならぬ。集團的精神は概念社會事業を生み、私的精神は個別事業を生む。彼と此とは全くその繁昌する土壤を異にする。徒らに他國に繁昌して能率と効果とを擧ぐる救助形式を無意味に移植するも益なかるべく、移植にあつては先づその性質を吟味し、彼と此との本質を明かにしなければならぬ。私は米國個別事業をそのまま我國に移植する積りでもないし、又そのやうに慫慂もしない。個別事業の形式と内容との中、我國に移植しうるものは獨り形式あるのみ。その内容にいたつては精神であるから、國の特殊な傳統と文化とに依存するであらう。米國の如き異なる傳統と文化とを有つ個別事業を内容として我國に移し植えることはできぬ。それ故、我國に移植しうるものは個別事業の形式だけであり、形骸だけである。すなはち、形の上で、個々意識的に素質と環境とを整理し、若くは、變改して、社會的障害を輕減除去し若くは福祉を増進する救助形式を移植することができるだけである。個別化的方法(individualisierende Methode)を形式として移植することが我國に於ける個別事業の導入の實體である。

次に我國に個別事業を導入する界限となるものは教育をうけ訓練されたる社會事業家の拂底である。我國には

個別事業の學習をうけ素養をもつものは極めて少ない。個別事業は深化を條件とし個別的作業をなさなければならぬが、救助を深化しうるが如き働き手が我國には頗る乏しい。我國に個別事業を導入しても、これを動かす人がなく、恰もわけの分らぬ器械を輸入して運轉するに困惑すると同一である。然らば我國に於ても個別事業を移植せんとすれば、その前提として人物の養成に取りかゝらなければならぬ。現今、我國の社會事業教育機關はその數に於ても少いが、その質に於ても甚だ劣つてゐる。かゝ機關とかゝる仕組によつて難澁にして紛糾する個別事業を動かすことはできない。その上、個別事業の施行には夥しき人がいる。米國では夥しき個別事業家があるから個別事業を行ふことができるが、我國では全く人的條件を欠いて居る。

方面委員制度は官公社會事業組織と民間社會事業組織とを融合せし統合形態の一で、優れたる社會事業組織である。社會事業の運営には統一と分散とが同時にはたかなければならぬが、個別事業運用の見地よりすれば一層特志家制度の領分を自由に且つ廣くしなければならぬ。方面委員制度は官公團體と特志家との合體によつてなされるが、現行のものでは大都市に行はるゝ方面委員の勢力は漸次大となる傾向あり、従つて、委員會の勢威と權能とも大となりまさりつゝある。委員及委員會の勢威と權能との過大となるは無論弊害があり、統一作用を薄弱にし、支離滅烈ならしむるが、これを善用すれば特志機關としての意義と効果とを増大することができ、特志家及特志機關は個別事業を代表し、官公團體は集團事業を代表する。方面委員と委員會との權能を大に

すれば、やがて個別事業を行ふことゝもなり、妥當であると思はれる。我國に於ける個別事業機關として現存するものゝ中、方面委員制度は最も代表的なものである。

然るに我國の方面委員は何の社會事業教育を受けず、専門的素養をもつものは極めて少ない。それに、方面委員に社會事業教育を行ふ風習未だ發達せず、我々はこの數年來荐りに社會事業教育を提唱し、方面委員教育にも言及したが、何の反響を見ず、殆んど顧るところとならない。わづかに非組織な講演をなすか、何の素養もない大都市の方面委員の經驗談でも聽かす類で、未だ組織的な方面教育を慣行するにいたらない。

方面委員制度を以て個別事業機關となさんとすれば、その前提として方面委員の個別事業教育を行はなければならぬ。方面委員救助方法は個別事業方法であるから、方面委員はその資格獲得の條件として先づ個別事業に關する知識を獲得し、その上、個別事業の實驗を積まなければならぬ。

四 個別事業の研究方法

A 社會心理學的方法

個別事業は心理學的に研究せられるが、殊に社會心理學的研究方法に據るべきである。近時ウロンスキイ女史は *Methoden der Fürsorge* なる小冊子に於て個別事業の分析を始め、心理學的に研究する方法をとつてゐ

る。獨逸に於ても米國の影響によつて個々の事件 (Einzelfälle) を取扱ふ方法の研究が開始せられ、ウ女史はその先頭に立つて獨逸流の個別取扱方法 (deutschen individualisierenden Behandlungsmethoden) の研究を開始してゐる。獨逸の個別的取扱方法は先づ國家救護法 (R.F.V.) に取入れられ、獨逸個別事業の基礎をつくつたが、その外、米國個別事業の反響の下に獨特なものとして發達しつゝあり、殊に、新心理學的、醫學的認識方法によつて研究し構成せられつゝある。これに従つて、個々社會事件に關し社會診察 (sozialen Diagnose) 豫斷 (Prognose) 治療 (Therapie) の技術が開拓されつゝある。診察は既にある程度の開拓を見たが、豫斷並に治療はわづかに開始されたのみで、今後研究の結果にまたなければならぬ。

ウロンスキイ女史は現代の心理的内容と心理的方法によつて個別事業の研究を始めたが、マネス、スヘルンル氏はこれによつて獨逸の救助方法に變革を齎らすことができると言ひ、ウ女史の研究を高く評價して居る (Diese Feststellung der Autorin, die lezlich eine Forderung darstellt und wohl auch sein will, kann verschieden bewertet werden. Unter dem Gesichtspunkt der sozialen Praxis würde die Erfüllung dieser Forderung wahrscheinlich ein weitgehende Revolutionierung bedeuten, die insbesondere das Wesen des Ausbildung der neuen Fürsorger-Generation zum Teil grundlegend verändern würde) 伯林には Zentrale für private Fürsorge に於てウロンスキイ女史指導の下

に社會心理學的研究團體が社會心理的方法によつて研究を行ひつゝある。米國と露西亞とは社會心理學的實驗所がつくられ、個別事業の社會心理學的研究が積れつゝある。

個別事業は先づ心理學的に研究されなければならぬ。社會事業に於てはその主力が個別事業の研究に傾倒され、これを歴史現象として研究し、定型化 (typisieren) することによつて、人間の苦痛と福祉とが法則となり體系化されて科學となると信ずる。私の學論では個別的な歴史現象は了解作用によつて法則化すべきものである。社會心理學的方法によつて今日未だ十分研究しつゝされざる反社會的要素、心理的異常者を定型 (Typologie) につくり上げ、これを法則的なものに轉化すべきである。歴史的な個別現象は個性と創造と變化とに終始すべきであると考へられるが、それは竟に定型によつて法則に變化せられるであらう。歴史的研究、殊に、個性と創造と變化とをめぐり、了解作用によつて法則化することは社會事業研究上今後なされるべき一大事業である。

社會心理學的方法と個人心理學的方法と、社會學的方法と心理的醫學的方法 (psychotherapeutischen Methode) 即ち心理的治療方法とは彼此關係し、若くは、社會心理學的方法にまとめられる。個人心理學的方法と社會學的方法とは社會心理學的方法に参加し、若くはその要素をなす。ベルゲル、フハルク女博士 (Dr. Margarete Perger-Falk) は心理的治療的研究方法をとつて居るが、その界限に達したときは社會的治療 (soziale Therapie) によつて補充することができると思へてゐる。すなはち、心理的治療 (Psychotherapie) は社會的

治療 (soziale Therapie) によつて補足し擴張することができる。そこで、醫學的治療と、心理的相談と社會保護 (sozialen Fürsorge) とは彼此結合するといふ見解を生ずる。こゝに於て、個人心理學的方法と社會學的方法と社會心理學的方法とは彼此回顧し結合すると考へられる。

形態心理學は全體の見地によつて人間を見る。全體の見地に立つ心理學は人間を以て有機的性質と心理學的性質と社會的性質との融合する不可分な統一體と見る。この見地に立つて Alfred Adler 氏は Zusammenbeharrung の名の下に全體的に心理研究をなし、人間を以て人格的全體 (Totalität der Persönlichkeit) と見、特殊化を克服して、人間を以て個別現象と見ず、社會に影響せられたるもの即人間を活動と反對活動と生活と能動との結合 (Gesamten Zusammenhang von Wirkungen und Gegenwirkungen, von Erlebnissen und Aktionen) と見る。かくて、人間を以て個人的現象と見ることはできず、社會に影響せられて成立する不可分な統一體とする全體の見地を打開する。こゝに於て、個人心理學の見地は改められ、個人的心理はたゞ社會化の基礎の上に成立すると考へられ、社會心理學の見地に立つにいたる。Einzelerkenntnis durch Ganzheitsschau の主義により、個々現象は全體的に把握認識せられ、特殊化を克服するが、これ即ち社會心理學の見地である。個々の心理現象を研究する態度から、全體としての人格を研究する態度に一轉すれば、心理學の見地は回轉し、その一部分は社會學的のものとなり、社會心理的見地に達する。社會心理學的見方は形態心理學的

なもの、更らに、全體の見地に據るものである。個別事業に於て個人心理學が社會心理學によつて改められたやうに、個人心理學は又有機的乃至生物的に基礎づけられると見なければならず、かくて個人心理的見地は社會學的見地と有機的生物的見地 (soziologischen und organisch-biologischen Grundlagen) との加入により、それ等を融合して一體たるものと見られる。個別事業の研究方法を純粹心理學的なものとするは誤りで、これに社會的有機的生物的見地が加入するであらう。個人心理學、社會心理學、社會學、生物學的方法が個別事業研究方法となり、又、社會事業研究方法ともなる (社會事業對象は個人心理的對象と共)、社會心理的現象、社會學的現象、有機的生物的現象である) かくて、個別事業、乃至、社會事業研究の中心は社會學的方法であると斷定することができやう。すなはち、個別事業の研究方法としての個人心理學は社會化しなければならず、従つて、社會心理學となり (社會學の加入によつて) これが個別事業研究方法として中心をなすが、それに、有機的生物的見方が加つてそれを補足するであらう。

社會事業に取扱困窮と福祉との觀念は一見個人的たるが如く見えるが、實は社會的である。ペルゲル、フハルク氏が Die Vorstellung von Krank- und Gesundheits sind gesellschaftlich bedingt und wandeln sich daher mit dem gesellschaftlichen Aufbau と云ふものはこの義である。個人と言つても純粹個人たることはできず、従つて、社會事業、個別事業に於て取扱ふ個人も亦純粹個人ではない。それはいづれも社會

個人 (Sozialindividuell, Sozialis) たるべきものである。そこで、個人の經濟的不如意と言つても、社會事業に於てはそれを個人的のものと見ず、社會的のものと解す。たとへば、プロレタリアが經濟的に不如意だといふことは個人的の意味をもつよりもプロレタリア階級に屬し、その一人であるとする社會的見地による。そこで、個々の社會事件をも社會學的に取扱ふ態度と主義とが生ずる。個人心理學的に研究を進める場合にも、個人の困窮と福祉とは個人心理に社會的要因、生物學的要因、教育的要因といふやうなものゝ加はつたもので、その總計を指すのであるが、こゝにも社會的要因が強調されるから、個人心理的なのは社會心理的なものとなり、個人心理學は社會心理學に轉ずる。

社會事業、個別事業にあつては社會心理學的に一と先づ繰り返へすものとして把握固定し、これを了解的方法によつて定型に造り上げる。こゝに規範が生ずる。社會心理的現象としての個々の社會事件は歴史的なもので、獨自なものであり、繰り返へさるものであるが、それを繰り返へすものと見、定型に固定すれば、そこに規範が生ずるであらう。この規範は無論社會心理學的なものであらう。この規範は無論社會心理學的なものであつて、倫理的乃至宗教的要求によるものにあらず、従つて、倫理的規範若くは宗教的規範ではない。個々の社會事件はこの規範のまわりに排列する。これに基づき、個別事業に於ける診斷は規範を中心とし、それを上下する差異的診斷 (Differentialdiagnose) によつてなされる。

個人心理的見地は個人が環境の影響によつて出来上ると見るときに社會心理學的見地に改められる。社會事業や個別事業は個人心理的に研究せられるよりも、一層よく社會心理的に研究せられる。個人心理的現象も亦社會的性質をもつが故に社會心理的のものと見られる。かくて、個人心理的研究方法は社會心理的研究方法に改められる。これに従つて、社會事業、個別事業の研究方法の中心は社會心理的研究方法だといふことになる。社會事業、個別事業に用ゐる研究方法は個人心理的技術に依るよりも、社會心理的技術に依るべきである。たとへば、失業したといふ場合個人心理的には個人の性格や、をい立ちに因り、既に幼年少年時期より失業の素因が内在したのであるといふやうに解釋をするが、社會心理的解釋はこれを個人的に取扱はず、失業の原因は環境のためであり、周期的不景氣のためであり、生産過程の變動によるものであり、乃至、産業状態の變更に因るといふやうに解釋する。これに従つて社會心理的治療法を提供するであらう。かくて、何づれにしても、社會心理學は現代的な心理的研究に基く社會技術、殊に個別事業の基礎であるといふ斷定に達する。

社會心理學によつて研究されたる社會技術と、その法則とにより、社會の困窮は輕減除去せられ、福祉は増進せられる。

但し、社會心理的見地は單なる環境説と見られざるを要する。個人はその素質と個性との産物であること、それが社會的産物たると同じである。社會心理學的見地は哲學、倫理、宗教倫理によつて補足されなければなら

ぬ。社會心理的には人間は環境の産物であり、器械的に實質的にこれを取扱ふべしとせられるが、哲學的、倫理的には人間は創造する自由なる人格で、義務と責任とをもち、自己の造り出したる困窮に對しても責任感を捨てず獨立自助たらんことを欲するとせられる。

B 社會心理的調査表

社會心理的研究の結果を表示するため、ヘルケル、フハルク氏の社會心理的質疑表 (sozialpsychologischer Fragebogen) を引用する。ヘルケル、ハアク氏の調査は (一) 身體調査、(二) 精神調査、(三) 社會調査に區分せられる。

社會事件一〇——一五を調査して、非社會的 (asozialen) と、反社會的 (antisozialen) 人間の一致せし特徴を發見し、これを定型となし、それを定型表 (typologische Bogen) にまとめる。たとへば、不良少年、知識プロレタリア、貨幣膨脹によつて困窮する市民、經濟的に困窮する市民、衰頹せし貴族といふやうなものに對し一致せし特徴によつて定型をつくる。次に、これ等範類の人間の精神的構造をまとめて、それと經濟的困窮との關係をたづねる。かくて身體と精神との關係を闡明する。最後にこれ等のものを社會に關係せしめる。例へば、職業問題と社會序列 (sozialen Einordnung) との關係や、社會の構造や、その主要機能としての社會的感情を調査する。

社會的整調に關する調査は最も重要である。個人を個人心理的に把握するよりも、それが如何なる關係を社會に有するやの調査が最も大切であり、これによつて要救護者を調整して再び社會に適應させることができる。社會的並に精神的に異常なる精神病者は社會機關の機能に適應せざるものである。精神病者にあつては内的生活と外的生活とが一致せず、現實と性慾とが一致せず、運命と人格とが一致しない。社會的に危險なるものの中には重荷を荷ふ能力がないのに、過分な運命が加はり來り、これに堪えないやうなものがある。

個人の何であるやを正確に了解するには身體と精神と社會との總てを通覽し、それによつて非社會的若くは反社會的病狀を診斷しなければならぬ。

獨逸中央私的社會事業協會の用ゐる社會心理的調査表は左の如くである。

姓名	年齢	身分	宗教關係

取扱指示	總括 (内生活外史)	成績	取扱	査検	陥欠	診察
		身精神會	身精神會	身精神會	身精神會	身精神會

五 精神治療の界限

精神治療 (Psychotherapie) として精神によつて身體に影響を與へ、それを治醫する方法は心理的方法によつて要救護者を取扱ふものである。但し、如何なる有機的疾患でも精神的影響によつて治療することはできないから、そこには一定の界限があるわけである。精神治療の界限は精神的態度の有機的疾患が特定の範圍と特殊の場合とに限らるゝことにある。疾患のある人間が精神治療の對象であるが、それは一定の條件の下にさうなのである。一定の條件は遺傳的素質と環境の影響に依存する。素質は無論重要で基本たるべきであるが、環境の影響も亦輕視することはできぬ。不幸な不如意な環境にある人間を治療するにはその精神を作興しなければならぬ。然らざれば治療の効果をあらはすことができない。患者が先天的後天的な強き動向をもち、治療者の影響に反應しないやうなものならば、それは治療の効を奏することのできないやうな難物である。但し、患者と治療者との間には能動的な關係があり、治療者が患者に感情の移入をなす程度に應じ、患者と治療者との位置が略同じである (英國貧救法に於て救助吏員と略同一な身分と見做すべき退役兵士を任用するが如き——拙著「貧民政策の研究」一七四—一八頁参照) 治療者の同情が患者に反映するが如き場合には精神治療の効果は著明となる。かくて患者と治療者との關係が大切な條件となる。

治療を加へるには患者を全體としてその人格を把握しなければならぬ。人格の構成が異れば治療の効果も異つて現れる。感情的で知能の低いものに對しては冷靜で沈着なものよりも注意して調べ且つ取扱はなければならぬ。患者の人格によつて治療の効果が區々たるは免れがたきところである。患者の中には人格の界限が狭いため、それに及ぼす影響の範圍も狭いものがある。精神貧弱にして無差別状態にあるやうな患者は感應にぶく、治療者の暗示と治療とに反應しない。精神治療の力及ばざるものは道德盲といふやうな道德的觀念の鈍いものであるが、これに對し、積極的な性格をもつ者は精神治療によつて容易に影響を與へ教へ導くことができる。精神治療では、精神的な異常状態が生じ、それが身體に影響を與へるといふ條件が具備さるゝにいたり、治療法を適用するを原則とする。精神治療は身心の交互關係を入念に探究し、それに基づき治療を加へるのである。近時、身心の交互的影響は明白となりつゝあり、藥劑を以て人體に影響を與へ如何なる影響が兩者の間に現はるゝやを見つゝある。これによつて身體から精神に影響を與へることが漸次明白になりつゝある。今日までに分りしことは藥劑によつて刺戟を與へし場合、それが身體に反應を起すといふことである。併し身心の關係は頗る複雑であるから、なか／＼その交互關係を如實に露出することはできない。同一なる外的影響によつて種々異つた疾患が現はれるといふこともある。殊に素質と環境との關係を仔細に限定することが大切である。如何に外的な影響を與へても殆んど變化せざるが如き素質があるかどうか明定するを要する。どの程度まで素質は外的に變化しう

るか、若くは、變化せざるかを研究しなければならぬ。素質が性格や人格を形づくりをるとすれば、それを動かし變化することは容易ではないであらう。また、一定の身體的素質が遺傳する場合、それに伴ふて一定の精神が隨伴するやうなこともある。人格の精神的特質が遺傳するかどうか、研究の結果分りしつゝある。たとへば、神祕的非合理性や、乾固な論理的術學的性質や、感情豊かな性質などは身體的特質の如く遺傳することが證明せられた。ある場合には身心の關係に於て一定の身體が一定の精神作用を惹き起すことありとも、そはたゞ身體の變化によつて了解されるやうなものもある。併しいつれにしても精神治療は身心の交互關係の上に成立するといふことは動かない。

精神治療の研究は日尙淺き故を以て、醫學的治療によつて身體を通じて如何程精神に影響を與へうるものなりや未だ十分明白にならない。そこで、精神治療の界限なるをも今のところ撤去することはできず、精神治療の効果も過大に見積ることはできない。精神治療の界限を狭くするには醫學者の外、教育學者、心理學者、社會學者などの協力により、共同研究にまたなければならぬ。社會學が精神治療に入り込むにいたれば、患者と社會との關係を明にし、社會的な治療 (soziale Heilung) をなすことができ、一層有効に患者を治療することができるやうになる。(醫學的治療と社會事業との關係については著者執筆の「病院社會事業」参照——濟生會發行)

六 個別事業の方法

A 個別的救助

人間は歴史的存在物である。人間の一事一動は個性と創造とにつきまとわれて居るから、自然現象の如くこれを概念化し、法則として一律に取扱ふことはできない。人間によつてなされたる先例や歴史的由來なるものは單に後世の参考となるが如き性質のもので、それを頼りとして嚴密に一定の條件の下に一定の人々を同一に取扱ふことはできない。但し、歴史的法則といふようなものもあり、歴史的現象も亦多少法則にまとめることができ。素より歴史と法則とは矛盾する觀念で、兩者を結合して「歴史的法則」などは言はれないけれども、一と先づ歴史を定型によつて法則化すれば、歴史も亦法則に支配せられるものとなる。歴史的存在物としての人間はなるべく歴史的に取扱はなければならず、従つて、人間の困窮及福祉は他と共通ならざる獨特なものとして取扱はれ、個別的方法を以て律しなければならぬ。

産業革命以來、文明國には等しくこれまで知られなかつた新たな困窮が頻出した。住宅問題、不良少年問題、婦人の戶外労働、保健問題、榮養不良、少年労働といふが如き新たな困窮が續出したが、現代人はこれに對し如何なる取扱をなすべきやに困迷した。そこで、新たに科學として社會事業學の出現成立を促かし、既に學

として組織することが現代人の任務たるにいたつた。素より困窮者側に於て、これ等新困窮に對應することはできず、無力な浮草に等しき状態にあるが、救助者側にあつても、如何にこれを處遇し救助するか明かならず困迷を極めて居る。かくの如き現状に於て、困窮を適切有効に取扱はんとして、社會的技術の發達を促進する必要があるは自明であり、殊に歴史的存在としての人間に對し個別的に取扱はんとして個別的取扱方法の發達し來るべき約束ものであるは何等理解しがたきことではない。

今日の個別事業は醫學的、心理學的、社會學的分析を總收せしもので、個別的に診察をなし、豫測をなし、治療を加へんとするものである。救助にあつては、(一)被救助者の人格如何、(二)被救助者の社會に對する態度如何、(三)救助の社會的方法如何を究めなければならぬ。救助にあたり、被救助者の何であるやを知るは救助の前提であるが、救助には被救助者が社會に如何に適應するや、社會に對する交渉態度は如何なるや知らなければならぬ。被救助者が社會的存在物として欠陥のあるところに、救助さるゝといふ事實も現はれるのであるから個人が社會に如何に交渉するか、社會に如何に關係するか、社會に如何に適應するかを見免してはならぬ。社會に適應するには、社會心をもち、社會的義務を遂行するを要する。たとへば、怠惰で労働精神のないことや、家族的精神の發達せざることや、經濟的能力の乏しいことなどは、社會的義務を遂行する能力なきを表示するので、茲に救助の必要が生ずる。更らに、救助とは單に衣食住の需要を充たす義ではない。人間の生活は時代に

よつて、場所によつて異り、千變一律に救助することはできない。たとへば生活程度のやゝ低い朝鮮人を内地人同様救助することはできぬし、それでは又失當な救助となる。そこで救助は單なる救助より社會的救助に進まなければならず、當時の社會に關係さして如何に救助するかを見定めなければならぬ。救助は凡て最低生活標準によつてなされるが、こゝに謂ふ最低生活とは私の文化的標準即ち生存原理による最低生活標準の義である。救助は現實救助と理念救助と社會救助との合成である。實現救助とはその當時の生活標準によつて物質的救助（衣食住）などをなす謂であり、理念的救助とは救助者が倫理的・要求倫理義務心を満足させることであり、同時に被救助者の獨立自助の精神を作興するなど倫理的に影響を與ふることである。社會的救助とは社會がその成員を救助する必要や成員の社會に適應する必要によつて社會的に影響を與ふる謂ひである。

現時の救助は複雑多岐となりまざりつゝある。經濟の發展に應じて人間の生活は變化し、前代未聞の紛糾錯綜を呈露したから、諸種の新たな窮が頻出したが、最早、これまでのやうな無組織な方法や單なる善心によつて救助することのできないことも漸次分明し來り諸家によつて思ひ／＼な救助方法が提供せられた。たとへばウアルネルや、ロツホヤ、ミュンステルベルヒヤ、クルンケルや、フリダ、ヂエンシング（Frida Duensing）アナ、パプリツ（Anna Papritz）ヘレネ、ステツケル（Helene Stocker）が出で夫々新なる窮を取扱ふ方法を發見したが、これ等の取扱方法は獨立して彼此矛盾するものでもあつた。こゝに於て一個統一する取扱方法な

るものゝ發見がやうやく急を加へて來た。これに應じ或は醫學的に、或は生物學的に、或は心理學的に、或は社會學的に研究せられ、醫學的方法、生物學的方法、心理學的方法、社會學的方法が順次に登場した。醫學に於て用ゐられる方法は社會的方法を促進したが、心理學に於てはフロイドやアドラの心理研究が影響して個人乃至社會的關係が人間の欠陥に姿を現はすことが分り、社會的取扱方法を整備する端緒をひらいた。救助は素より社會的に取扱はなければならぬから、新救助術は社會學の影響をうけて新たな衣を着けた。かくて、醫學的方法、生物學的方法、心理學的方法、社會學的方法が綜合して一の新たな取扱方法即ち個別事業方法を打開するにいたつたのである。

個別事業方法は（一）診察（Diagnose）（二）豫斷（Prognose）（三）治療（Therapie）の三部門に分れる。この三の中、診察は米國に於てリツチモンド女史などによつて精細なる分析を加へられ、今又新たに獨逸の理論と方法とによつてウロンスキイ女史は新取扱方法（Methode der Fürsorge）を提唱し始め、その研究方法は漸次、ウロンスキイ、ザロモン、フハルク、スベルベル氏などによつて明かにされつゝある。但し、今のところ、豫斷と治療との研究は殆んど着手せられず、わづかにザロモン女博士は *Soziale Therapie* なる小冊子に於て治療に關する若干の研究を發表して居る現状である。よつて、豫斷と治療との研究は今後に屬すると言はなければならぬ。

B 社會診察

社會診察はリツチモンド女史によつて精細に研究記述され、Social Diagnosis なる五百頁近くの大冊として發表されて居る。

社會診察に謂ふ診察は無論醫學のそれを移したものであるが、社會的救助に於ても醫術の如く疾病を診察して然る後治療する方法を定むる方針をとつた。社會的疾患をもつ個人の素質とその環境とを診察し、困窮の何であるやを知り、その徴候を探り、その發生を究め、病原因に對して診斷を下すのである。

多くの場合、困窮者自づからその困窮の何であるやを知らないであらうが、その徴候によつて何か社會的疾風に陥つて居ると思ふであらう。この徴候は一見明白であるから、先づこれによつて困窮者の社會的記録 (soziale Anamnese) をつくり、その困窮史を編むのである。この記録は困窮者取扱の基礎となるべきものである。困窮者の示す徴候はその何であるやを知る資料で、それによつて困窮者が如何なる種類のもの如何なる種類のものがあるやを決定する。記録によつて困窮者の種類を決めるのであるが、これを心理的に見て (一) 感情的種類、

(二) 意志の種類、(三) 知的種類の三に分つ。

感情的種類の困窮者は主として感情的で、感情に制せられ、感情によつて病狀を發する。この場合、記録には感情的に病狀を呈する徴候を列挙するのである。感情的困窮者は一見環境に適應するを欲するとするも、それは感情がよく働かないで受動的でもあるから、かゝる者に對しては先づ感情を作興して能動的態度を持せしめなけ

ればならぬ。婦人の如く感情移人によつて他の人格に入り込み、その位置に身を置いて考へる態度をとれば、容易に感情を整へることができる。感情的徴候により區別して記録に載せることにすればそれによつて一見感情的種類に屬する困窮者たるを知ることができる。意志の種類に對しては潜在する意志をはたらかすことによつて、その境遇を改變する動力をうることができ、それによつて合理的行動を開發し、その運命を改善することができる。知的種類の困窮者は意志も感情もない受動的的存在であるから、固有な力を利用して改善を行ふことができない。

社會的記録により蒐集せし資料によつて個性と環境とに對する適應を知ることができるが、更らに、社會的研究を遂げ、個人の本質を一層明かに露出しなければならぬ。社會的記録の次ぎには社會的研究が成し遂げられなければならない。

社會的研究は (一) 個性の研究、(二) 環境の研究とに分れる。

個性の研究

個性の研究は身體並に精神に及ぶ。身體並に精神検査は醫師、心理學者によつてなされるか、若くは醫師と心理學者の指導と監督との下に行はれるかである。なほ、殘存して居る能力がどうか、減衰せし能力がどうか、破壊せし能力がどうかを調べ、その恢復力を明かにしなければならぬ。たとへば筋力があり、記憶がよいといふ

ような類は恢復力があると見られるが、胃の消化機能が減退するとか、視力が減衰するとかといふようなものは、恢復力の減衰を指示するであらう。個々の機關や機能が明かになつても、その間の關係が明かにならなければ、全體として如何あるか分らない。よつて、身體諸機關の關係及それと精神との關係を探究し、一體としてそれが如何あるや如何にはたらくやを明かならしめなければならぬ。全體が調和して居るか否かによつて身體並に精神の状態をつくし、個性を明かにすることができる。

今、ウヰリアム、ヒイリイ博士の個別研究をなせし不良兒ジョン、スミスについて例示を求むれば左の如し。スミスは十六年九ヶ月の少年でイングランド人とアイルランド人とを兩親とする混血兒である。

身體 健康で、強壯の如く見えるが、小形で肥へて居ない。容貌は生き／＼として居り、眼は絶えず回轉し、頭はよく整つて居るが、一見して正常な少年でなく健全な精神の持主でないことが分る。體重一二〇ポンド身長五尺二寸、咽喉はよく發達し、筋肉も亦然り。皮膚の色もよい。齶齒三あるが、先天的な異常状態や不整形はなく、特殊な欠陥はない。反應作用には異状がない。たゞ腹部の反射が遅緩で不整である。視力と聽覺とは正常、鼻と口腔とも整、時に頭痛をうつたふるが眩暈なし、花柳病にかゝつてないといふ、心臓の鼓動は消極、春期發動少年状態、その他すべて消極的。

精神や態度は快適で、協力はするが、注意散漫、検査中しきりに虚偽を申立つ。知能八八點、視的記憶良、聽的記憶良、言語は言葉に於ても發音に於ても不良、語による統覺不良で、形象資料乏し、手の早きこと、正確なことは普通を超ゆ、反應や遅鈍、視覺表象良、具體的資料による働き中、學習はやゝ佳なれど遅緩、書方不整なれど明瞭、計算不良で誤謬多く、やゝ長き除算をなす能はず、歴史及地理の簡單なる知識を有す。經歷不良であり、一方に偏傾して居るが、精神の平均は良、不良な社會環境に養育せられしものとしては著明な不平均なく、意志及判断の欠陥は著るしくない。五才の頃家庭より二回逃走、始めて感興を起すが如き事物に接す。十年前には甚だしき虚言家であつたが、父はそれまで著明な特徴なく、ただ取扱に困難な少年であつたと言つて居る。罰しても平氣、他人の評判にも無頓着であつた。罰せられても、少しも改善の實が擧らなかつた。感化院に收容せられること久しきにわたり、善行表彰などいふことには全く無頓着であつた。つねに、他の少年と交り、十才前には同年輩の兒童と遊んだ。兩親によればこの少年には家族愛着の精神が欠け、感化院より歸つても家族に對して愛情を表はさず、たゞ幼弟を抱きキッスする位であつた。怠け者で、無頓着であつたが、家に居た頃には友誼的で快適であつた。感化院より歸つてからは復讐の念強く母親に對しても粗暴であり、どんな結果が來ようとも無頓着で平氣であつた。

以上は個別調査にあたり身體並に精神検査の一例であるが、身體並に精神検査は専門家の監督又は指導の下に行ひ、個性を明かに露出すべきである。

個別事業に於ては、個人が如何に環境に影響するか、環境が如何なる作用を個人に及ぼすか、乃至、如何にそれが個性を開発するか、改善すれば如何に環境に適応するか、重要な問題である。これに應じ、個性の探究はたゞに身體と精神検査とにつくるのみならず、個人が如何に環境に作用するかを見、更らに、個人が他の事物に如何に反應するか、交渉するかを見なければならぬ。

個人の何であるやはその表出によつて知ることができる。個人の表出が活潑であるか、不活潑であるか、元氣であるか、沮喪して居るかを見ればその當時その瞬間の個性を知ることができる。表出は身振、言語、文字などに表はれる。表出に基き大體三の範類に分ち、沮喪せし個性、調和的個性、不明瞭なる個性といふようにする。

沮喪せし個人の表出は行爲が不活潑で遲鈍であり、身振不活潑、言語重苦しく、文字は長引いて縮りが無い等沮喪するものは消極的態度に終始する。かゝる個性を正道に戻し、環境に適應させることは容易ではない。調和性の個人は活潑で、元氣よく、自力によつて欠陥を矯め、境遇を改善し、運命を打開することができる。曖昧型の個人 (Die ehostische Persönlichkeit) は動作不確實で、身振に活氣がなく、行動に自信がない。その表出は何づれも不確實となり、言語は急ぎ込んで、或は高く、或は低く、或はどもり、時に喚叫するなど不確定であり、文字は不並びて明瞭を欠く。衣服は人柄に似てもつかぬやうな不調和なものを用ゐ、凡て不秩序で、無組織な性情を曝露し表出する。かくの如き個性の持主を改善することは決して容易ではない。かゝる個人は無組織で

目的をもたないから、常に動搖し、改善に反應はするが、定着を欠き、正道に引き戻すことは容易ではない。

個性の探求は身體並に精神の分析と表出とによつてなされるが、又、事物との關係によつても、個性の何であるやを捕足することができる。個人が事物と結びつけば活潑ともなり、若くは、その反對に遲鈍ともなる。事物とは他の人間、物、並に思想である。他の人間と結びつけば、家族朋友社會と結びつくこととなる。家族、朋友、社會に結合する状態及程度に應じて色々の感情が發露する。夫々場合に應じて、愛、利己、尊敬、輕蔑、憎惡、反撥、牽引、親和などいふ感情が表出される。これに應じて、個人の行動が區々になり、環境に適應する能力を或は高め或は弱める。消極的な結合形式を積極的なものに改め、個人の能力を高め、元氣を作興し、適應力を増大することは大切である。要保護者を家族に結びつけるだけでも、愛と情との影響を蒙り、正道に引き戻すことができ(放蕩息子を親に引き合せ、犯罪少年を親の懷に抱かせる場合の如き)兄弟、親戚などに引き合せて、心理状態に變化を促すことができる。朋友に引き合せれば友情により感情を柔げることができる。この場合、朋友は廣義に解し、教師、宗教家、社會事業家、醫師など、すべて日常交際接觸するものを並せ含める。宗教家が個人の煩悶を拭ひ去り、教師が教へ導いて疑惑を除き、醫師が病床にまつわる憂懼を除く等、宗教家、教師、醫師等は不遇者の境遇を改善するに與つて力あるであらう。社會、團體の個人に加へ及ぼす影響は著明である。寺院、教會で信仰を復興し、歡喜に溢れ、神も佛もなきものかの惱める心理を一變して幸福なる思ひにひた

らしむることができる。俱樂部、セツトルメント、救世軍、藝術協會など個人がそれ等に結合する程度と態様に應じて、或は個人を作興し、或は沮喪せしむるであらう。職業團體も亦同様なる影響を及ぼす。職人仲間の感化若くは影響も輕視することはできぬ。

その外、物に結合する場合、いろいろの程度と性質との影響を與へ、或は被救助者を作興し、或はこれを沮喪せしむる。器物、衣服、書籍はその含蓄によつていろいろの影響を加へる。愛人の所有せし器物、先代遺愛の書籍、歴史的意味のある器物など、夫々個人に影響を與へずにはをかない。動物、植物、庭園、家屋など夫々個人に影響を及ぼしその心理を變化する。個別調査を行ふにあたり、會見の場所が夫々別の意味をもつのもこれが爲めである。會見の場所は(一)居宅、(二)事務所、(三)中性の場所となし、夫々適當なる場所で會見をなすのである。居宅調査は安易の情を生じ、役所風となるを避け、有りのまゝに調査をなすに適す。そこでは、安易に自由に質疑し應答することができる。事務所會見は祕密を保つに都合がよく、正確を期することができる。時間を節約することができる。客觀的調査には事務所が最も都合がよい。居宅でも事務所でも會見することのできないようなものに對しては、特に中性の場所で會見するようにする。たとへば不良兒調査にあたり、居宅で調査をすれば祕密を嚴守することができぬし、事務所では裁判所に引き出されし如き感を生じ硬化するであらう。よつて不良兒の如きものに對しては隣保館といふが如き中性の場所で調査するのが最も穩當で都合がよい。これによつ

て物と結合する態様如何によつて個人に變化を與へ影響を及ぼすべきは明かである。思想が個人に影響を與ふべきは自明である。個人が思想に結びつくことの如何によつて、或は精神を作興し、或は沮喪せしむる。樂天的な世界觀をもつ哲學、宗教、倫理團體は悲觀的なそれと正反對な影響を個人に及ぼす。社會改良團體も亦いろいろの主義と思想とをもつ。社會改良主義團體と社會改革團體とに屬すれば夫々正反對の態度を現はすであらう。人間は客觀に制せらるゝ如く、主觀に制せらるゝ生物である限り、思想によつて態度を異にするは明かである。

環境

個人の發達にはそれを促進するような環境がある。少くも個性の發達を阻害せざるが如き環境が個人の生存の必須條件である。困窮は素質からも現はれるが、環境の不良なことが屢々その原因となる。素質と環境とが個性を造るとする思想により少年犯罪者に關する思想は既に一變し、今や成年犯罪者にもこれを及ぼさんとしつゝある。先天的な身體的疾弱や疾患、それに不良なる環境が加はつて不良兒を生むとすれば、少年犯罪者は處罰すべきものでなく、善導し教育すべきであるとする構想に達する。但し、成年犯罪者に對しては、かような思想は未だ開拓されて居ないが、將來恐らく成年犯罪者に對しても身體並に精神検査が施され、環境が調査されることにもなれば、現今恰も少年犯罪者に對して行はるゝような教育的處遇が加へらるるにいたるであらう。個別事業では、冷かなる理性によつて個性と環境とに分析を加へる。不良なる環境個が性に影響を與へ、發達

を阻害して社會的障害の原因となることが明かになり、相次いで環境を改善變化することによつて障害が軽減除去せられるのであるとする見解が生じた。かくて、改善の前提として環境の調査が行はれるようになった。住宅、職業、營養、通風、採光といふが如き手近な環境から、社會の風儀、傳習、産業、といふが如き遠き社會環境にいたるまで調査が施され、相次いで個人を取巻く自然環境にも調査が進められるようになった。かくて、個性の何であるやが明かになるが、やがて如何なる環境に個人を置かなければならぬかといふことも穿鑿せられるであらう。リ女史の所謂個性の發達は環境に適應することだといふ義がこゝに明かになる。

さて、さきに引用せしジョン、スミス少年について環境調査の例示を續けよう。

母親について聞取り調査が行はれ、これに、Judge Baker Foundation の調査を加へ、個性の分析が進められてゐる。

父 父親は四十五歳、南部の州の生れで、不完全な村の學校で十二歳まで教育せられた。それからミツシツピイ河通ひの汽船で勞役に就き、千五百弗貯めた。當時、相憎その父が慢性病に罹つたので、のこらず使ひはたした。父死亡後北部の州に移りそこで結婚した。瘦身で、小造りで、愛嬌がある。紐育の活動寫眞館の運送人となつたが、その後ポストンに移つた。そこでも同じ職業に従事したが、修養を積んで向上しようなどといふ氣は少しもなかつた。落付いた人づきのよい人間であつたが、頑健ならず、事物に興味をもたなかつた。夜はいつでも家に

居た。幼少の折り父は英國より移住して船頭をつとめ、善い人間で中年まで健建であつたが、その頃喉頭結核に罹つた。父親の母は落付いた女で、夫の死亡後は子供の面倒を見、給仕女として働いた。高齡にいたつて死んだ。両親には二人の子供があり、何づれも正常で、非難すべきものがなかつた。これ以外には家族の經歷から知ることはできない。

母 母親は四十五歳、中等學校まで進んだが結婚するまで工場に働いて居た。子供が大きくなつてからは一つ所に六年も小商賣を営んでゐた。世話女房であつたが時々頭痛を催した。この女の父親は結婚後アイルランドから移住して來たので、いろ／＼の職業に轉々従事し、時に船頭もやつた。家族の扶養を怠らなかつたが、名譽心を欠き、少々飲酒もした。災害にかゝり五十三歳で死亡した。この女の母親は無教育で、學校教育とはうけず、善い女で當今六十八歳で矍鑠として生きて居る。夫の死後娘の家に同居して居る。この娘といふのは一人娘で、結婚して居り、健康で、中位の智能を有す。

子 この家族はジョンを頭に四人の子供があるが、一番目は七ヶ月の月足らずの子供で、三男ミハエルが一歳(つねに健康で、勇敢な子供であり、六學年生である)四男は九ヶ月目に營養不良で死んだ。

經歴 母は妊娠に際し病氣勝ちで神經質であつた。當時生めるジョンは健康で體重五ポンド、生後一ヶ月目に傳染病にかゝつた。直きに乳が上り、十八ヶ月目まで營養障害がつゝいた。いろ／＼の病氣にかゝつたが、

皆癒えた。二年前ひどいインフルエンザにかゝつた。十二歳の時に腹部の手術を受けたが全治した。時々事故に出會ひ、十一歳の折り椽側から落ちて脳震蕩を起した。後年頭痛をやみ、屢々就床した。その爲め神経質となり、落付かぬ氣持の持主となつた。

家庭並に近隣

家族はボストンに移住以來、貧民區域に在る三階建の最上階に住んだが、そこには過群状態といふ程のこともなかつた。家は穢なかつたが、ボストンに来るまで矢張りこんな穢い家に住んで居たと看護吏員 (parol officer) が言ふて居る。父親はよく働き、祖母は家庭を整へ、母親は家計を節約するにつとめた。そこで家内は前よりも清潔となり、整理せられた。當時五室をもち、子供には五人に一室が與へられた。近隣状態は子供に消極的な影響を與へるやうな悪いものではなかつたが、さりとて積極的に改善的影響を與へるやうなものでもなかつた。近くに青年會もなければ、慈善團體もない。近隣に遊戯場や運動場はあつたが、さりとて組織的な保護設備があるでもなかつた。父母共に終日勞働に行くので、子供は祖母が看護した。祖母はよく看護するけれども、ジョンなどを制御することができなかつた。父母は家に歸つても疲れて居て子供の模様などを聴く餘裕がなかつた。かゝる状態で六七年つといた。母親は子供の世話を他に依頼したが、子供達は輕蔑してかゝり何の影響を與へることもできなかつた。家庭に軋憐といふ程のものもないが、さりとて調和して居ると思はれない。家庭内に温情が漲りゐると思はれず、父親は子供と嬉遊するなどいふやうなことはなく、母親は子供の

信用を得ようといふような氣もない。家庭にはリンコン傳といふような良書はなく、玩具や娛樂設備もない。

母はつねに教會に行くが、たえて、ジョンを連れて行くとか、日曜學校にやるとかといふようなことをしなかつた。

朋友

両親はジョンが十歳になるまでその友達について何の與り知るところなく、ただ時々ジョンが往來で友達と遊びをるを見受けしのみ。これに對し何の苦情があつたことを聞かない。ジョンには友達がなかつたが、十歳の頃ジョンよりやゝ年老けしマツクといふ評判の悪い少年と交り始むるを見た。ジョンは時々マツクと喧嘩口論をしたが、これを遠ざけることができなかった。ジョンはいつでもマツクと一緒に遊んだが、ジョンが感化院に送らるゝまでマツクとの交友關係はつといた。感化院では尙一人の悪友と交はつた。

興味と習慣

幼時ジョンは往來で知り合ひになつた子供や學校友達と交つた。ジョンはつねに往來で遊んだ。フットボールには堪能で、中學校の生徒と競技などした。活動寫眞は好きで、殊に刺戟の多いものを喜んで觀た。暇さへあれば晝夜の別なく活動寫眞館浸りをした。善い本は讀まないが、少年雜誌や俗悪書を耽讀した。幼時より落付きがなく、浮浪癖があつて、遠出する習いであつた。女には特に氣をそゝらなかつた。性慾は未だ潜在の状態にあつた。よく眠つたが朝はきちんとききた。よく食ひ、三度とも茶を飲んだ。煙草も好きであつた。感化院から歸つて以來、手姪をつとけて居た。祖母も母も感化院で手姪を覺えたと信じてゐるが、過姪に流

れた。

學校と労働の経過 ジョンは六歳の時學校に入り、一年間は正常であつた。移轉のため他校に轉じ、そこに六ヶ月居た。それから怠惰となり、學校を休む習慣ができ、それが漸次甚だしくなつた。かくて學校に興味を感じなくなり、勉強もしなくなつた。教師はかなり伶俐であるが努力をしないといつた。その後、感化院へ送られたが、普通の少年よりも進級遅く、力めて進歩しようなどいふ氣もなかつた。十五歳の時放免されたが、學校へは戻らなかつた。本屋の配達となり、一週八弗貰つた。二三ヶ月はその儘勤続したが、その頃逃走し、轉々流浪し勤め口をかへた。どこでも二三日で逃げ出して居る。少年審判所で審理されし時には既に六ヶ月間無職であつた。

感化院の経過 最初審理され所罰されたのが十歳の時であつた。母の語るところによれば、一ヶ月一回位は審判所の手にかゝり、引きつゞいて保護司看護の下にをかれた。最初拘引されたのは自動車内の器物を窃取したからであるが、それは例のマツクと共犯であつた。その後鐵道の信號を弄び拘引せられた。引つゞき頻々窃盜をなし、幾日も家を明けた。學校に二回放火したが、二回目に學校に損害を與へた。審理中もごまかして放浪し、犯罪を重ねるといふ悪性になつた。當時校長や警察官の言ふところによれば、ジョンは伶俐で快活であるが、未だ曾て見たことのない大虚言家である。感化院長によれば、ジョンは非常な悪性で改善することができないた

め、二年六ヶ月といふ長期間收容されてゐた。感化院でも盗んだり打つたり悪行を重ねた。感化院の成績は甚だ悪く習慣的犯罪人といふ斷定が下されてゐた。放免後二三ヶ月間は兎に角良い報告が來たが、その後勤め先きを逃走し、放浪生活を送つて居ることであつた。それから善良な家庭に委託せられたが、三日目に時計を盗み、鍵を外づして部屋を捜しまわつた。それを見付けて止めたところ、打ちかゝつて來て脅迫をした。そこで又實家へ戻された。ジョンは家に居ることができさへすれば改悛すると言つた。當時ジョンの家族はマッサチユウセツツ州に移住したが、ジョンも連れて居つてくれとせがんだ。ボストンでも絶えず悪行をつづけ、窃盜をなし逃去しつづけた。かくて、ジョンは再び拘引されて身體並に精神検査に付せられた。

會議の協同審理 事業家會議 (staff conference) に於けるジョンの協同審理の結果は左の如し。

悪行 十歳より十二歳の間に屢々大小の窃盜をなし、鐵道の信號を弄び、放火を敢てし、怠惰で通學をなさず、瀕に逃走し流浪した。感化院では、窃盜、逃走、同性愛の悪行をなし、放免後は絶えず放浪して、家宅侵入をなし、家族や雇主の金品を盗み、最近窃盜を行つた。

身體 小柄であるが丈夫であり、眞直で輕快、容姿粗野、眼差は一種特別、底光あり、饒舌、三の齧齒あり、近時頭痛を催す。

精神 全體としては有能であるが、學校の成績悪く、談話不明瞭なり。精神検査によつて學習力あれども

注意力なきことが分つた、動作は頗る輕快、精神は全體として特に不良と認むべきものなし。性格は強情で落付なく、虚言家で感情鈍く、反應なし。近時、破廉耻で、みだりな言葉を平氣で使ひ、殊に家族に對して無頓着である。身體的な活動を喜ぶ。その舉動より判断すれば金箔付な習慣的犯罪人たるべし。

環境 (a) 遺傳——兩親並に家族は素質優良ならず、(b) 發育——生れてやゝ小さく、生後一年半は屢々消化不良に苦められ、時々重病に罹つた。十二歳の時、腹部に手術をうけた。(c) 家庭——平穩であつたが、陰濕であつた。母親は戶外労働に従事し、祖母が家事を見た。(d) 習性——十歳十一歳の頃より殊に粗暴で甚だしき手姪癖現はる。

原因 (一) 十歳頃の道德廢頹が不良化の主要原因である。(二) 有害なる性教育殊に三人の悪友と同性愛に陥つたことが第二の原因である。(三) 悪友、(四) 快適な家庭ながら監督不行届で、兩親の子供に對する理解が足りない。家族が餘り寛大で、控制の作用足らず。(五) 著明な反社會的行動や犯罪の傾向は上記の諸原因によるが、更らに、(六) 近隣及家庭の建設的改善的影響のないことにも因る。(七) 感化院で受けし悪友からの感染も與つて力がある、(八) 性格がその原因に加はる。

豫斷と處置 矯正の効現はれず、性格形成後なれば改善の見込乏し。ある期間入念な取扱と教育とを受けざれば常軌を逸せざらしむること不可能なり、家庭に戻すも益なく、最良の方法は感化院にをき、善良なる感化を加ふることである。本件は監督者並に教育者がその實質をよく了解した上で惡癖を矯正し、性的惡習を除去しなければならぬ。頑固な性癖であるから、なま優しい手段では如何ともすることができない。但し、今後、再び改善の見込を生ずるあらんか、委託する家庭を嚴選しなければならぬ。ただこれによつてのみ、この難物を社會に調整させることができる。

個性と環境とを仔細に探明し、個性の何であるやを知ると共に、それが環境に如何に反應するか、如何に調整するかを見なければならぬ。個性を知るにはその背景その環境の何であるやを知らなければならぬ。個人と環境とが如何なる關係にあるやを個々の場合について入念に探究し、これに基いて治療の方法を定めるのが個別事業の個別事業たるるところである。

C 豫 斷

個性と環境との探究の結果は豫斷として取りまとめられなければならぬ。社會的豫斷 (Social Prognose) は如何に處遇するや如何に治療するやの豫測であり、取扱の結果に關する豫測である。豫斷に於ては、個性の分析と環境の探究とに照らし個性に影響を與へて改善し、生活状態を改め、環境に改善を施し、個人と環境とを調査し、一體として困窮を輕減除去するのである。困窮を輕減する方法は時に經濟的であり、時に教育的であり、時に保健的であるが、これ等の方法は人間の綜合的全體なるに顧み、竟に綜合的たらなければならぬであらう。こ

れに應じ、困窮を除去する方法は同時に經濟的であり、倫理的であり、教育的であり、保健的たるであらう。これ等の方法、手段がまとめられ、一體として成立するところに有効なる綜合的方法が現れる。

D 治療

治療は被救助者の能力欠乏とその原因となるものを除去することにより、若くは環境の社會力をはたらかせることによつてなされる。

困窮は個人の欠陥のためであり、能力の欠乏に由來するから、個人の能力を補足し、欠陥を除去すれば、やがて困窮は治癒せられる。困窮の除去には保健的、經濟的、倫理的、教育的手段を動かし、最後にこれ等を綜合するを要する。困窮の軽減除去は他力と共に自力に依る。これまで救助者の力が過分に見積られて居たが、自づから水を飲まぬ馬に水を飲ませることの難事たるが如く、自づから改善し、自づから欠陥を除去しやうとする氣のない被救助者を改善することは實にむづかしい。被救助者の改善は他力に依ると共に自力に依らなければならぬ。自力に依る改善方法は米國のものであるが、米國ではデモクラチックな觀念によつて救助者獨り自づから高しとせず、被救助者の参加若くは參與の形式により、自力を通じて改善する方法を採る。かくの如き自動的改善方法は今後益々擴張しなければならぬ。自づからその足らざるところ欠けたるところを補ふ精神が発現しなければ眞に有効なる救助をなすことができない。

救助は主として物質的手段を通じて行はれるように考へられて居るが、これは重大なる誤解である。物質によつて助けうるものは人間以下の動物であり、人間の欲求するところのものは頗る複雑である。人間に對しては諸々の欲求の綜合によらなければならぬ。物質的救助はその方法宜敷きを得ざれば却つて個人に障害を及ぼし、殊に濫救の弊に陥る。物質的救助はいつでも生産的改善をモットーとしなければならぬ。生産的なる場合に於てのみ物質的救助は遂行さるべく、非生産的なことが分れば、却つて障害を與へ、若くは、濫救となつて被害の上に被害を加重するから力めて避けなければならぬ。人間的救助は物質的救助の外、教育的救助、倫理的救助であるが、これ等物質的、教育的、倫理的救助は彼此綜合され、文化的救助にまとめられなければならぬ。こゝに謂ふ、文化的救助とは綜合的な生産原理によつての救助である。すべての救助方法をまとめれば一體としての救助——人間生活を完成しうるやうな救助方法となる。かくの如き救助方法は綜合的なものであり文化的なものである(拙著「社會事業學原理」一篇七章参照)

環境の力をはたらかせば (durch eine Aktivierung der Umgebungskräfte) 今まで環境に適應しようともせず、その儘不適應となつて居たものが、環境の力に刺戟され、それに氣付いて調整作用をはじめ。かくて個人が環境に調整するにいたれば、それによつて障害を軽減若くは除去することになるが、環境の力はかくの如く積極的建設的にはたらくのみならず、又消極的破壊的にもはたらく。今まで環境の有害なるに氣付かず生活を破壊

するが如きものなるを知らなかつたが、俄かに力の加はるを知るにいたれば、その意識によつて環境を脱れ出でんとするはたらしきとなるであらう。かくて環境の變化が企てられるが、是又環境の力のはたらしきによる消極的な機能である。積極的には勿論、消極的にでも環境の力がはたらしきさへすれば、要救護者の適應力を高めて治療の効を奏するが、自己の力を意識して、はたらしきだし、環境によく調整すれば治療の効果は一層著明となるであらう。環境乃至社會に入り込み、その部分となり、調整の實が擧がれば茲に困窮は除去せられることとなる。

社會的治療の研究は今後に屬する。疾病に對して醫學的な治療術は高度の發達をなして居るが、社會的治療の研究は初期に屬し、如何にして治療すべきや、今に於て實に無智と暗愚とに閉されて居る。

参考文献

1. M. E. Richmond, Social Diagnosis, 1917.
2. M. E. Richmond, What is Social Case Work ? 1922.
3. A. Salomon, Soziale Diagnose, 1926.
4. S. Wronsky, Methoden der Fürsorge, 1930.
5. H. Scherpner, Formen persönlichen Fürsorge in der Vereinigten Staaten, 1930.

6. M. Sperber, Methoden der Fürsorge und Individualpsychologie, Deutsche Zeitschrift and Wohlfahrtspflege 5 Jahrgang 1930 Nr. 12 Ausgabe A.
7. A. Kronfeld, Über Beziehungen zwischen der Psychotherapie und der sozialen Fürsorge. Deutsche Zeitschrift f. Wohlfahrtspflege 6 Jahrgang 1930 Nr. 1 Aufgabe A.
8. Perger-Falk, Grenzen der Psychotherapie. Deutsche Zeitschrift f. Wohlfahrtspflege 5 Jahrgang 1929 Nr. 2 Aufgabe A.
9. Joel und Fränkel, Soziale Psychiatrie, Deutsche Zeitschrift f. Wohlfahrtspflege 4 Jahrgang 1929 Nr. 10 Aufagabe A.
10. Witkower, Grenzen, Möglichkeiten und Erfolge poliklinischer Psychotherapie. Klinische Wochenschrift (Januar 1929)

第八章 個別的方法と綜合的存在

一 個別事業の綜合性

個別的な存在はその限りな存在で、獨自な存在である。獨自な、そのもの限りな存在は歴史的存在である。個性と創造と變化とに終始する歴史的存在としての人間はその諸々の側面に分斷することはできない。人間を分斷して經濟的側面、教化的側面、保健的側面、倫理的側面などとしても、畢竟、人間はこれ等諸側面の綜合する不可分體なるが故に彼此分離分斷することは不可能である。

私は「社會事業學原理」に於て社會事業の綜合性を論じて、かういつて居る「人間を對象とし、人間生活を目標とするものは、その部分に分斷することのできないものであるから、經濟的欠陥の除去は身體的欠陥の除去以下に關係し、必ず綜合しなければならぬ性質のもので、全體として人間的見地に於て社會的障害の除去を行ふ主義によらなければならぬであらう。人間的見地に於ては各種の困窮が綜合され、一體となつて存し、これによつて人間を全體として *normality* の状態に達せしむるであらう。經濟的正常状態、身體的正常状態、精神的正常状態、倫理的正常状態、形而上學的正常状態は彼此關連して一體となり、よつて以て、人間的正常状態を形ちづ

くるであらう。人間的見地に於て正常状態と言はるべきものは、たとへば經濟生活にのみ關するといふようなものではなく、それは他のものと不可分の關係をつくり、よつて以て、全的な人生として表現するものである。身體的欠陥と精神的欠陥とは必ず關連すべく、互に兩者は經濟生活に反映すべく、それは又倫理生活にも、形而上學生活にも影響するであらう。欠陥と言へば、たとへ、人間的欠陥あるのみ。如實に存在する欠陥は人間的なもので外にはない。各種欠陥の分立は單に取扱の便利や學の便宜に従ふに過ぎず。現實としては、各種の欠陥は錯綜關係をつくり、單り人間的欠陥を表現するのみ。福祉に於ても困窮の場合と同一で、經濟的福祉とか、身體的福祉とか、精神的福祉とか、倫理的福祉とか、形而上學的福祉とかといふ分斷的福祉なるものは存しない。これ等の福祉は綜合し一體として人間的福祉を形ちづくる。それ故、困窮と同じく、福祉も亦不可分で、個性、人格歴史に對して言はるべきで、福祉の故に福祉とかいふような無意味なものではない。福祉は歴史的な人間の生活を表現するものたるのみ。かくて、一切の困窮と福祉とは必然的に綜合状態に達しなければならぬ。これ社會事業が概念社會事業として成立するのではなく、必ず歴史社會事業たらなければならぬ當然の歸結である。歴史社會事業に於ては個性、人格、人間、生命、全體、無限の結合、全一といふような歴史的對象を取扱ふから、經濟とか、身體とか、精神とか、倫理とか、形而上學的生存とかといふように分斷することはできない。分斷されたる困窮や福祉は全體の要素として、第一、有機的結合をなすべきものであり、第二、全一として一如的状态に達

すべきものである。」

二 個別事業と歴史

個別的であるといふことと総合的であるといふことは同一である。それ故、個別事業は如何にしても総合的た
らなければならず、人間を *one whole* として取扱ふ具象的なものでなければならぬ。個別的であるといふこと
と総合的であるといふことは相関係するが、この二は又歴史的事であるといふことと相関係出入する。社會政策や
社會主義は集團的であり、全體であるから、竟に歴史と相容れず、個性と變化と創造とは矛盾するものとなる。
人間を人間として把握し、人間的價値を基準として、道德と宗教と藝術とを高く評價する主義からは社會政策や
社會主義といふが如き抽象的非人格的立場を強調するものに依據することはできない。これに對し、個別事業は
個性に基く歴史的なるものである。

私は「社會事業概論」のうちで個別事業が総合的であり、かねて歴史的であることについてかく述べて居る。
「個別事業としての *case work* の方法は総合的なものである。近時社會事業の發展に於て著明となつた二の傾
向がある。一は *institutional synthesis* で、他は *method synthesis* である。機關の綜合に關しては私は綜
合社會事業として本書などに論明したが、これによつて、これまで事業團體間の硬化せし境界を柔軟なものとな

し、彼此融通することを可能とした。方法的綜合 (*method synthesis*) によつては、それは社會事業が社會的障
害を對象とするものならば *maladjusted individual as whole* としてそれを處遇するものとなつて現はれる。
不適應個人の部分を抽象してこれを集團にまとめ、部分救助をなすのではなく、それを *one whole* として個人、
個性の見地に於て救助せんとするもの即それである。それと同時にそれは最も入念な調査を行ひ、個人の欠陥及
その要求を明かならしめんとする。この精神及主義は *social case work* となつて現はれる。

個別事業 (*case work*) は個人の *many sided problems* に關するもので、近時個別事業は工業、法律、教育
及宗教の領野に導入せられ、その認識をうるにいたつた。個別事業は精神生活、政治生活及經濟生活にその適
用をうける。ケース、ウォークは社會活動及社會教育の中樞となる可能をもつ。部分的救助は抽象による不完全
救助であるが、集團事業を以てしてはかくの如き個人を部分にほぐし、よつて以て救助する外はない。部分的救
助は個人を *one whole* として救助するのではないから、それは個人を一の生命としたもの、一側面に附着する
救助で、言はば生命ある一個人に對しては外的救助である。ケース、ウォークは *individuals in concrete situ-*
ations on the basis of an intelligent social case history に於てする救助であり、*one whole* に對するもの
であるから内的なものである。外的救助と内的救助との價値に關し、Porter R. Lee 氏はS. P. 法律に於ても
救助に於ても、醫學的取扱に於ても、工業上の改良の活動に於ても、人間の正常なる要求に外的に對應せんと

し、内的に自己の要求に對應せんとせざるものは社會事業の低劣なる側面を代表するものである。自助の力を開發し、直接的不能を認め、かつ、これに處遇することは社會事業家に重要な問題であると言つてゐる。外的に救助し、障害を軽減除去せんとするものは負擔を除き去る能力を獲得せずして、單に環境を除去せんと焦るだけである。この場合、必要なことは不適應なる者の能力を高め、その創意を發達させ、個人的努力と責任とによつて自づから重荷が軽くされ除かれること之れである。内的な人間の力と環境とが共同で個人を *reorganize* ならしむる。

三 體驗としての個別事業

かくて、個別事業は *one whole* としての體驗に究るべきものである。この事については十分論證されなければならず、従つて、精細なる分析闡明を要する。よつて、次章以下に於て、歴史現象として將又綜合的全體としての社會事業（この場合、主として社會的個別事業）を精細に論述することとする。私は本書に於て始めてこの問題を首尾一貫分析するから、入念なる用意を以て理論的と實際的との二の側面より社會事業の個別現象たり、歴史現象たり、綜合的全體たる所以を提示するであらう。

よつて、先づ社會事業全體を歴史現象として解し、次章に於て「歴史現象としての社會事業」を述べ、相次い

で形態心理學的に社會事業を分析し、重ねて、その綜合的歴史的たる所以を示し、更に一轉して社會事業の研究方法としての了解的方法を述べ、益々社會事業の個別性を明かにし、第十二章にいたり、社會事業が科學たるべきものなる所以を論明せんとす。更らに社會事業を實際的側面より見る場合と雖も綜合的全體たるべき所以を示し、これに對し、社會事業教育が近時多くの光りを投げつゝあるに顧み、社會事業教育の何であるやを論述し（普通の分科的教育と異り綜合的教育なるが故に）全體として社會事業現象が（一）個別的、（二）綜合的、（三）歴史的なる所以を示さんとす。

参 考 文 籍

1. 海野幸徳「社會事業學原理」
2. 海野幸徳「社會事業概論」
3. 海野幸徳「貧民政策の研究」

第九章 歴史現象としての社會事業

一 意識的統一體としての社會事業

社會事業の對象は何であるか。

社會事業對象の究極的分析といふが如き廣汎なる題目は諸多の關係題目を豫想し、それに關連するが、茲には先づ社會事業對象の基本的特質たるべき綜合性の何であるやを分析闡明することとする。この困難なる目的を達するためには單に論理構成によることは能かないから、主として獨逸社會事業の發生史的開展を追及しながら、その眞髓の何であるやを露出する方針をとる。

拙著「社會事業概論」の分類論に於て（第三版、第三篇第壹章、一七九―一九二頁）社會事業分枝分斷不可能の原則（Prinzip der untrennbaren Zusammengehörigkeit der einzelnen Zweige der Wohlfahrtspflege）なるものを設定せしは（同書、一九二頁）社會事業對象の綜合性を豫想し、それに照應するものである。社會事業對象はその本質として把握する限り全く分斷と相容れず、既に始めより分斷なる觀念と矛盾して居る。社會事業の對象に分析を施すが如きは逸早く社會事業の本質を曖昧にするものである。

社會事業に於ける諸形態はいづれも歴史社會事業に溯らなければならぬ。人間より人間への救助（Hilfe von Mensch zu Mensch）と云ふが如き歴史的なものゝみが究極保存せらるべきものであるから、人間の困窮や福祉は體驗形態によつて取扱ふ外はなし。Social case work method は體驗的方法と相通するものであり、無限の綜合としての個別形態によるものである。少くも、社會事業對象はその本質の上から體驗的か個別的かに取扱はなければならぬものであるから、現時歐米諸國及我國に發達しつつある法的強制による社會事業及任意的動作による社會事業は一程度の發達をなし、その諸分枝を施設として形象化するや、徐々に無限の結合による形式に改鑄せられ、社會事業對象に照應するものとなる。この命題は現今獨逸社會事業の發展によつて最も明かに證據立てられうる。

社會事業が一定の發達を成し遂ぐれば組織をつくるが、組織とはブレンダ氏の Bewusste Lebenseinheit aus Bewussten Teilen のことである。組織には意識的な全體があると共に、意識的な部分がある。これは一社會事業分枝の場合にも「社會を一體としての社會事業」の場合にも共通である。一機關はそれを組織として見る場合 Geschlossene Einheit であり、それがいくつかの部分に分れるが、更らに、部分は全體にまとめられる。

「社會を一體としての社會事業」は單獨社會事業が一期間續くにあたり、公私社會事業團體の亂立となつて現はれ、それ等の間に再び組織をつくる必要を感じるにいたつて出現する。私はこれを「綜合社會事業」と呼ぶ。單

獨社會事業の外に、公私團體を組織して別に社會を一體としての社會事業をつくる要求は、いづれの國に於ても社會事業が一定程度の發達をなすや心然的に現はれる。獨逸では既に一八九一年にミュンステルヘル博士は綜合的傾向を指摘し、Das eine irgendwelche Verbindung zwischen den verschiedenen Bestrebungen der Wohlfahrtspflege ein unabweisbares Bedürfnis ist (Die Verbindung der öffentlichen und private Armenpflege. Schr. d. D. B. f. A. u. W. Heft 14, s. 24) と言つて居るが、この事は一般化の趨勢にもつたと見、Deutschen Vereins für Armenpflege und Wohltätigkeit が一八九一年發表せし年報に、das Zusammenwirken zwischen öffentlichen Armenpflege und organisierter Privatwohltätigkeit eine Hauptpunkt des Tageordnung bildete (Schr. d. B. f. A. u. W. Heft 15) なる文字を以て當時の形勢を要約してゐる。當時獨逸諸都市の採用せし綜合方法を、氏は三つに分類し

1. gegenseitige Vertretung der beiderseitigen Organe in der Verwaltung,
2. Zusammenfassung verschiedener Zweige der Wohltätigkeit,
3. geregelten Meinungsaustausch

として居る。單獨社會事業より社會を一體としての社會事業に轉成するにいたるは必然的な進化ではあるが、それは能率と効果との上に及ぼす影響にも關係してゐる。獨逸では戰後集團的困窮百出し、財政の窮乏と相まら社會事業の能率と効果を増大しなければならぬ必要から、社會事業を綜合形態によつて組織しなければならぬとする思想に達した。ホーリヒカイト氏が組織化するものとして den Organen einer Arbeitsgemeinschaft die äusseren Bedingungen schaffen, damit sie die ihnen abliegenden Teilleistungen im Rahmen der Gesamtleistung so zweckmässig wie möglich erfüllen können (Die äussere und innere Gliederung der Kriegswohlfahrtspflege. "Concorda" von 15 Januar 1917) と言つて居るといふものは組織を能率と効果との上より眺めし場合である。公私諸團體の綜合はその特性を保存しながら、個々としては成し遂げがたき働きを、社會を一體としての組織によつて成し遂げんとするものである。そこに組織的概念としての個々の機關を意識的有目的に結合する意が表現される。公私團體に於ける變化と雜多とは活動力のある有目的な純一體としてまとめられ、bewusste Lebenseinheit aus bewussten Teilen となる。

意識的部分は「無限の結合」に於ける要素であり、この要素が意識的の生活統一體たるところに「無限の結合」そのものが現はれる。無限結合は全一よりも不完全なる社會事業對象ではあるが、それは單獨社會事業と綜合社會事業とに通じて必然的な對象として現はれる。單獨社會事業に於ける集團的困窮は最初定型社會事業として取扱はれるものと雖も漸次それを個人的困窮へ、竟に、それを體驗的困窮へ還元せざるべからざるものなるが故に(拙著「社會事業概論」第貳編、第四、五章)いづれにしても無限の結合か全一かによつて取扱はなければならぬこととなる。社會を一體としての社會事業は孤立の形によつて存続することは許されないから、機關の間

に關係をつくるが、この關係は竟に無限の結合によつて表示さるゝに於たる。

社會事業の社會化は即ち一體として社會事業を組織することである。デーヘル氏は社會事業の Kommunalisierung とは Leistung und Durchführung der sozialen Einrichtungen und der wohlfahrtsflegerischen Arbeit durch städtische Beamte のことだと言つてゐる。更らに、社會化とは公私社會事業を同一價值のものとして綜合する主義によるもので、私團體を無視し若くは驅逐するやうなものではな^らず、この事について、デーヘル氏は Kommunale Hilfeleistung an die Vereine und Hilfeleistung der Vereine an die Kommune のことだと斷つてゐる。社會を一體としての社會事業はいつれにしても Sozialisierung 又は Kommunalisierung によつて、出現するものである。單獨社會事業より進出し、綜合社會事業にいたるものは、いつでも一體として社會化することにその努力が向けられる。私は今後「社會を一體としての社會事業」を「社會化的社會事業」と呼ぶことにする。公私社會事業が一定の方針に基き秩序ある結合をなすとき、かくの如き形式に於ける社會事業は凡て社會化的社會事業である。獨逸に於ける社會化的社會事業が特に戦後に現はれし所以のものは、これによつて、獨逸がたゞに社會事業の陣容を建て直ほし雜多な困窮を輕減除去せしのみならず、それによつて更らに國家再興を促進せんとしたからである。社會化的社會事業は一切の社會事業をその特性に従つて組織するから、私的社會事業の特質を無視するやうなことはないが、我國の現状

に對し殊に獨逸が私的社會事業を重視する所以のものは社會事業を社會化し、これによつて國家再興を圖らんが爲めである。私は夙に獨逸の社會事業は單に困窮を處遇するが如き界限の狭小なるものにあらず、それはムセシウス氏の所謂 Gesanter Wiederaufbauarbeit an Volk und Staat nach einheitlichen Gesichtspunkten を目的とするものであることを指摘した。これによつて、獨逸社會事業は消極的社會事業より積極的社會事業に進出し、私の學論を裏書するに於いたつた。

社會事業の社會化に對しても同様な考察を加ふべきである。獨逸は社會事業を社會化し、それを國家再興に使用せんとする。私的社會事業の機能は無論公的社會事業の機能と異なり、これを公的機能に加ふれば、一層ムセシウス氏などの國家の再興に資しうるのであるから、獨逸の私的社會事業の重視は又復國家再興の見地からくる。たとへば、ポウリツヒカイト氏は卒直に eine große Torheit... ein Verbrechen an dem Wiederaufbau unseres Volksganzen と言ひ、私的社會事業の輕視を排斥してゐる。更らに、この事については、プロシヤの福利大臣 Stegwald 氏は一九二〇年 Wege der Volkswohlfahrt なる文書を公にして、公私社會事業の理解ある結合を以て國家再造の要件となし、それを基準として社會行政を定むべしとして、

Es drängt mich den freien Wohlfahrtsorganisation für ihre seitherige wertvolle Arbeit den wärnsten Dank anzusprechen. Ohne sie wäre das Wohlfahrtsministerium ein schwerfälliges

Rumpfministerum といひてゐる。

社會事業が國民及國家の福利を目標とすることに關し、それが明かに意識されると否とは國民と時期とに關すること、いつでも社會事業は國民の困窮と福利との二に關心してゐる。ゲーヘル氏は獨逸社會事業の使命をもつて…… müssen wir nach einer neuen Gebietsabgrenzung zwischen behördlicher und freier Wohlfahrtspflege suchen, gleichzeitig aber unsere gesamte Wohlfahrtsarbeit auf ein gemeinsames Ziel, das allzemeine Volkswohl, einstellen となし、單にそれが消極的なる困窮の輕減除去にあらずして、國民の福利なる一層廣汎なる觀念によつて置き換へられなければならないものであるとする。ゲーヘル氏が果して自覺して消極的觀念より積極的觀念に進出して居るかどうか分らないが獨逸社會事業の一般的趨勢は社會事業を積極的なものとして理解し始めんとして居る(昨春、公刊の名著「社會事業學原理」に於て入念にこれを取扱ふ)ただ併し社會化的社會事業の目的を在來の範圍のものとなし、Putzer 氏の如く einzelnen Fürsorgezweige unter eine einheitliche, und zwar städtische Leistung stellen zu sollen, weil dadurch die Interessen der unteren Bevölkerungsschichten besser gewahrt würden und eine rationelle Ausnutzung der Arbeitskräfte eher möglich sei といふものと免れがたきところである。

社會化的社會事業は綜合することによつて、單獨社會事業の如く要素の無限結合と、要素的機能交換の二の現象を生み出し、かくて社會事業對象の綜合性を一層明かに表示し始めた。この事については獨逸社會事業の發生的分析によつて最も明白に理解することができると思ふ。

二 獨逸社會事業の發生的開展

獨逸に於ける福利局 (Wohlfahrtsamt) の發生史は統合社會事業の發生史で、これによつて獨逸社會事業が對象の綜合性に照應して無限結合に進み、かつ、要素間の機能交換に進みつゝある所以を知る。

Franz Memelendorf 博士は福利局を限定して Unter einem Wohlfahrtsamt versteht man die organische Zusammenhang der in einem bestimmten Bezirk vorhandenen Stellen und Einrichtungen der wohlfahrtspflege となし、その運載者としては國家でも都市でも宜いとしてゐる。ポルトオ氏は福利局を 1. amtliche, 2. freie, 3. gemischte System となし、私團體に於ける綜合機關をも福利局と見做すことができる。併し、獨逸では福利局と言へば、大體公的のものと解釋されて居り、私的のものは中央局として意味をなさぬと考へられてゐる。獨逸に於ける Wohlfahrtsamt は種々に用ゐられ一定しては居ないが、一般の用語によれば公的のものである。既に Amt なる稱呼が公的性質を帶ぶる限

り、福利局は大體公的なものであると言ふべきであらう。但し、嚴密に公的なものとすることはできないから、諸家に於ても夫々限定を異にして居る。たとへば、Wirz氏は曖昧な言表を用ひ、nur amtliche Organisation oder solche mit amtliche Einschlag としてそれを公的なものであると言つて居るかと思へば、次に als wohlfahrtsamtler „Organisation mit nicht rein privaten Charakter” と言つて居り、公私混合であると解釋してゐる。恐くゲーベル氏の如く Nur den rein amtlichen Organisation die Bezeichnung Wohlfahrtsamt vorzubehalten, geht allerdings auch zu weit と云ふのが正しく、大體、公的であるけれども、純粹公的だとして嚴密に限定することもできないと言ふべきであらう。然らば、メルスドルフ博士の限定は正確と言ひがたいであらう。

福利局は一定の範圍に於ける公私社會事業を有機的に結合して社會化的社會事業を行ふ所であるが、その發生史は諸々の團體が一定の場所に集合して、要素として存在せし状態より要素の關係として存在する状態に轉じ、更らに、要素間の機能の交換にまで進み、それが無限の結合若くは全一の状態に還元するとする私の學論を如實に反映してゐる。特殊化し専門化せる社會事業は集團的なものとして部分救助に終らざるべからざるもので、如何にしても完全救助にいたりえず、又、完全救助の面影を備ふることもできるものでもない。(拙著「社會事業概論」策貳編第一章第五節「完全救助と不完全救助との本質」参照)併し、救助は是非共完全救助ならなければ

ならないから、因果的なものは漸次に歴史的なものとなるべく、特殊化せしものは漸次綜合的なものとなり、同種異種の社會事業及團體は各々綜合し、全的な姿に一步接近するであらう。體験的全一の状態より概念的全一にいたる無数の階級に於ては、社會事業は分裂し分斷して特殊化し雑多なものとなるが、これは再び體験的状态に復歸すべき性質のものであるから、特殊化して要素となつたものは再び要素の結合となるであらう。これが私の還元と稱する過程であるが、獨逸社會事業の發展は私の還元過程及還元論を全體として最も明かに表示してゐる。

戦前の獨逸社會事業は大體 Armenpflege なる文字を以て表示することが能きだが、その後七分枝を分ち(拙著「社會事業とは何ぞ」一八頁参照)益々複雑なものになりつゝある。これ等複雑多岐になる社會事業はもう一度特殊状態を綜合状態に返へし、福利局の構想となつて現はるる次第はまことに興味あることである。蓋し、社會事業對象の性質を中心として必ず還元過程は起り來らざるをえぬであらう。これに對し、獨逸の社會事業は豊かにして明かなる材料を提供する。

福利局は綜合を使命として居るが、この使命の何であるやについては更らに限定を加へなければならぬ。ゲーベル氏は福利局の使命を限定して Es soll alle zweige der sozialen Fürsorge zu einer Einheit zusammenfassen, ein harmonisches Zusammenarbeiten aller privaten und öffentlichen

Organe der Wohlfahrtspflege herbeiführen, ohne die Selbständigkeit der privaten Liebestätigkeit einzunengen, und stets auf die Förderung und den Ausbau der Wohlfahrts Einrichtungen in einzelnen und in ganzen bedacht sein unter dem Leitgedanken der allseitigen Hebung der in seinem Bereiche wohnenden Bevölkerung in körperlicher, wirtschaftlicher, geistiger und moralischer Hinsicht und zu sprechen. ところで福利局は公私團體を綜合するものとなるが、綜合のためにその獨立性を脅かしてはならないとする。この形式により綜合は身體的、精神的、經濟的、倫理的發達を目的とする。福利局の課題はこれまでの發達によつて判すれば統一と事業 (Vereinheitlichung und Ausbau der Wohlfahrtspflege) とである。但し、福利局は主として統一の任務をつくり、事業は輕んぜられて居るが、恐く獨逸諸學者の反對にも拘らず、私は機能の交換なる使命が將來重大なる福利局の任務として發展し來るであらうと思ふ。福利局の任務の統一であることについては、諸家に異論はないが、それが事業 (praktischen Fürsorge) であることについては意見が一致しない。この異議は事業が統合する諸團體と同一なものであると解するからのもので、若し、獨逸諸學者が私の如く機能の交換を重心として、これから無限の結合及全一としての機能を表現し、綜合的機能を福利局に分擔せしむるならば、福利局に於ける Praktischen Fürsorge は一層明確となり、それが福利局に獨持なものとして解決せられるにいたるであらう。

Blaum 氏は福利局を eine Geschäftsstelle zu errichten, die alle zentralen gemeinsamen Angelegenheiten erledigt と言つて居るが、その中でも特に社會的交換所たることを以てその主要の任務とする。福利局の實際的救助事業は例外だといふけれども、機能の交換に集中する綜合的機能は福利局の重要な任務であると思ふ。ゲーヘル氏は實際的救助事業は例外だとしながら、私の所謂福利局の分擔すべき綜合的機能に氣付かずして、それに接觸して、かくの如く言つてゐる。Durch die Vereinheitlichung soll nicht nur ein zusammenwirken des einzelnen Fürsorgezweige in ihren grundsätzlichen Maßnahmen und Veranstaltungen herbeigeführt, sondern auch bei der Fürsorge im gegebenen einzelnen Fall, insbesondere bei der Familienfürsorge ein einheitliches Vorgehen der verschiedenen Fürsorgeorgane erstrebt werden といふ流儀である。こゝに謂ふ綜合的な家族保護は私の綜合的機能によるもので、單獨社會事業では特殊化的機能の外よく遂行することを得ないから、全一或は無限の結合としての人間の救助を遂行する必要上、綜合的機能を分擔するものとして福利局が現はれたのである。私は獨逸諸學者に反して福利局は綜合せざれば表現し得ない綜合的機能を分擔する必要上出現するにいたりしものと見做す。獨逸諸學者は單に公私社會事業及公私團體の綜合に着目するだけで、綜合社會事業獨特の praktischen Fürsorge たる無限の結合乃至全一の形ちによる救助には未だ注意するにいたらない。もし、一度び、これを視野の中へ入るれば、福利局

の任務は綜合的機能によつて救助するといふ單獨社會事業とは全然別の *Praktischen Fürsorge* のあることに直ぐ氣がつくであらう。サーベル氏は無意識ではあるが *Familienfürsorge* に於て私の説に接近してゐる。氏が若し社會事業對象の本質を明かに認識するにいたれば綜合社會事業の限定も亦蓋し一進するであらう。

公私社會事業の一切を綜合するところの集合的課題が綜合社會事業のものだとすれば、諸分枝が外的にも内的にも繁雜多様となりつゝある現時に於てその諸機能を總收することは困難であらう。單に外的にも内的にも繁雜多様となつた特殊社會事業を綜合するだけだとすれば、綜合社會事業には特殊社會事業以外何の新たなものがある筈なく、従つてその生存權をも主張することはできないだらう。特志家は質的救助を可能にし、特志家によつて具象的救助を遂行することを得せしむるが、かゝる *Qualitätsarbeit* は一切を集合する綜合社會事業によつては不可能である。それ故、單位としての社會事業の機能を保存し、特志家的機能を持続することゝすれば、綜合は單位の獨立性を許すが如き極めてゆるやかなものでなければならぬ。一九二四年、獨逸で制定發布せられし *R. F. V. (Reichsfürsorgeverordnung)* は公私社會事業の獨立性を認め、各その固有性によつて綜合する主義を採つてゐる。公私社會事業の *planmäßiges Hand-in-Handarbeiten* をなし遂ぐるには、私的社會事業の獨立性を脅かすことなく、私的社會事業はその經營方針を自から定めその運営を自力に於てなし、その活動範圍を自づから定めなければならぬ。この任務の遂行には私的社會事業は公的社會事業と同一價值であるとする原則によら

なければならぬ。綜合社會事業はゆるやかなる公私社會事業の結合を原則とし、參加諸單位の獨立と價值とを認め集中機能の制限を通じて綜合を可能ならしめなければならぬ。特殊機能と特志家的機能とによつて *lebendige Arbeit*, „Arbeit von Fleisch und Blut“ たることができる。集中的機能の強調は社會事業の生命を殺す。かくて生命ある機能をもつ *ehrenamtliche Tätigkeit* が綜合し、一には具象的活動を可能ならしむると共に、二には綜合することによつて雜多な實際的活動を統一的原則によつて結合することができる。ゲーベル氏は

Praktische Fürsorgearbeit soll das Wohlfahrtsamt nur in Ausnahmefällen und nicht selbst Wohlfahrtspraxis には實際的活動範圍として残されたるものなく、……das Wohlfahrtspflege auch selbst Wohlfahrtspraxis

fliege treiben soll. wird von anderer Seite auf den Widerspruch hingewiesen und sagt: „Der Herr“ 氏は他のところでは綜合的な家族保護は綜合社會事業の分野であるとなし、自説を裏切つて居るやうな口吻である。

綜合社會事業は單位の分野たる特殊範圍の綜合ではなく、單位の特殊的機能の交換によつて生ずる綜合機能をその分野となすとせば、ゲーベル氏の *praktischen Fürsorgearbeit* として一種獨特なるものが綜合社會事業の分野に現はれるであらう。家族的保護は或は兒童局或は保健局といふが如く分斷的見地によつた達せられないもので、諸機能の綜合によつて可能となるものである。然らば、かくの如き單位の特殊機能の綜合はその他のものも一切擴張適用すべきもので、こゝに單位機能とは別異なる機能の交換によつて生ずる綜合的機能なるものが存

在する筈である。單獨社會事業が特殊的機能によつて特殊的な praktische Fürsorgearbeit に當るが如く、綜合社會事業は綜合的機能によつて同じく實際的救助活動をなすものとすることができる。これによつてゲーベル氏の福利局の實際的活動は例外であるとする考察の誤つて居ることが明かにせられる。更らに、眞に謂ふ Praktische Fürsorgearbeit とは單位の特殊機能の綜合によるものより外になく、分斷的見地によつての救助は假設的のものに過ぎない。眞の救助は經濟的と倫理的と身體的精神的とが結合し、機能の交換によつて生ずるもの、外にはない。かくの如き救助を綜合的救助といふ。然らば praktische Fürsorgearbeit なるものは綜合形態による外なく、福利局の誕生も亦ここに淵源すると考へなければならぬ。但し、獨逸の現業界と學界とは未だこの點にまで進出して考察を進めざるもの、如くである。これゲーベル氏が Es sei der Tod der privaten Liebestätigkeit, wenn die Wohlfahrtsämter die „mit grossen staatlichen Mitteln ausgestattet“ seien, dieselben Zweige bearbeiten wie die Vereine. Darum müsse sich das Wohlfahrtsamt auf die eigentlichen zentralen Aufgaben beschränken und dürfe praktische Wohlfahrtsarbeit nach dem Vorschlage von Blaun nur in Ausnahmefällen vorübergehend betreiben と云つて居るところによつて知らるべく、一知半解たるが如き觀なくんばあらず。既に私的社會事業によつて成される事業を福利局で取り上げるならば二重となるべく、かくて福利局や綜合社會事業の出現の一原因たる施設の重複を除

去する目的は失はれることとなる。それ故、綜合社會事業は特殊社會事業と同一なる實際活動をなすものではなく、従つて、特殊社會事業の活動範圍に入り込むのではないとする見解は正しいが、それによつて、綜合社會事業の實際的活動は例外であるとする見解は誤つてゐる。それよりも、特殊社會事業では眞の體験的救助は遂行しがたいから、對象の綜合性に基き綜合社會事業が現はれ、その機關として福利局ができ、全一的救助若くは無限の結合による救助を可能ならしむるにいたつたのであるとの方が正しい。集團形態と個別形態を結合して統合形態となし、これによつて同時に個別形態の量の界限を超越し、集團形態の質の界限を超越する統合社會事業によるものが、集團事業の全盛なる現時最も進歩する方法であると見られるが、「社會事業とは何ぞ」第五章第七節参照）これ即ち集中機關と特志家との協力する混合經營である。現時に於ける一切の社會事業運營は混合形態たる統合形態によらなければならぬことを私は既に明かにしたが、この統合形態による經營は集中機關と特志家とが各異る側面を分擔し、これを合せて、實際的救助活動をなさんとするものである。然らば、こゝにも集中機關（福利局もこれに同じ）が實際活動に入り込むのであつて、福利局に於ける實際活動を否拒するゲーベル博士も亦同一論法により Immer aber ist es zweckmässig, besonders bei dem Bezirkssystem, neben ehrenamtlichen Kräften auch amtliche zu verwenden, um dadurch eine möglichst innige Verknüpfung der öffentlichen und privaten Betriebsform auch in der Aussenarbeit zu erreichen

chen. Aus einer solchen Durchsetzung der sozialen Arbeit mit beiden Elementen kann das gesamte Fürsorgewesen nur Nutzen ziehen. Vor allen bleibt die enge Verbindung zwischen Amt und der praktischen Arbeit, zwischen den beschließenden und ausführenden Organen gewahrt. Nur so ist erst eine vollkommene Durchführung der gemischten Betriebsform möglich zu sagen.その他、福利局の實際活動に入り込む範囲があるので、ゲーベル氏は eine Mitwirkung des Wohlfahrtsamtes auch in der praktischen Fürsorge notwendig und zweckmäßigと言ふを餘儀なくされた。

福利局は一切の公私社會事業を結合し、これを統一と實際的活動との二から綜合の機能をつくす。プロシヤでは人口一萬以上の都市の七一・五%に福利局が設置せられ、それ以外では六六・七%に開設されて居る。戦前福利局の如き機關はなかつたが、戦時中顯著なる發達をなし、戦後にいたつてその頂點に達した。かくて、一九二四年獨逸救護法によつて福利局なるものも限定せられ、Das Wohlfahrtsamt soll Bindeglied zwischen öffentlicher und freier Wohlfahrtspflege sein und drauf hinwirken, das öffentliche und freie Wohlfahrtspflege sich zweckmäßig ergänzen und zusammenarbeiten (5, Abo. 4 R. F. V) と法的に定められた。プローム氏は福利局の本質として die organisatorische Verbindung der in ihren

einzelnen Teilen bis ins feinste ausgebauten selbständigen Sonderzweige der sozialen Fürsorge in örtlichen Einrichtungen darstellen muss と言つてゐる。獨逸でかくの如き本質の福利局をつくらざるをえなくなつたのは、たゞに身體的經濟的精神的乃至道德的に改良の實をあげ、困窮を輕減除去する必要を戦時及戦後にいたつて痛感するにいたり、公私社會事業の綜合による思想に到達せしのみならず、更らにそれによつて、國民を全體として Gemeinschaftsarbeit の主義によつて lebendige Schafftenkräfte auslösende Mittelpunkt として獨逸國の再造を目論むにいたつたからである。

社會事業の對象は綜合的なもので、體驗的方法によつてのみ、接近しうべきものであるから、對象の本質に照應して公私社會事業は開展しなければならず、機關や施設も亦對象の綜合性に從つて竟に體驗的たる外はない。この事は單に論理構成によつて示さるゝのみならず、社會事業の現業の發展により、いつでも迂餘曲折の後かよふな着陸點を見出すのである。公的社會事業は固定的形式 (starre Form) で集團的たらざるをえないから、社會事業の目的たる具象的な困窮や福利に對應するに堪えるものとなることはできない (抽象的處遇は眞の處遇ではないから) これ現時集團社會事業の時期に殊に特志家的機能及女子の機能を必要なりとして社會事業に導き入られる所以である。特志家や女子の機能は一般的な soziale なるよりも具象的な karitative なるにある。現代社會事業に於て殊に具象的な karitative の作用が必要だとせられ、これを集團社會事業に加へて、それ自づ

からでは固定的形式ならざるをえざる窮状を緩和する所以のものは、もとゞ社會事業對象が綜合的だからである。エルバアフェルド制度では一方には公的な soziale な機關と機能とがあり、それに救護委員 (armenpfleger) によつて示さるゝ私的な karitative, bewegliche Form が加へらるゝ所以のものは特志家によつて社會事業の本性的たる綜合的機能を恢復せんがためである。この事は福利局の場合と雖も同一である。

そもぐ、社會事業の機能は二つある。集團的機能と個別的機能と。Marie Baum 女博士はその有名な論文に於て (Die Wohlfahrtspflege, ihre einheitliche Organisation und ihre Verhältnis zur Armenpflege) In den Gesamen Wohlfahrtspflege, sei behördlichen oder privaten Charakters, unterscheiden wir mehr und mehr zwei Formen, die ich als die starre und die „bewegliche“ Form bezeichnen möchte (s. 2) と言ひ、社會事業の機能を流動的形式と固定的形式とに分つてゐる。

私はいつでも、固定的形式を流動的形式に還元せんとし、「社會事業概論」では第二篇第五章に於て集團的困窮を個人的困窮へ還元し、更に第五章に於て個人的困窮を根源的困窮へ還元して居り、「貧民政策の研究」では第一篇第一章に於て一切の救助を歴史的なるものに歸入せしめ、第五章統合的救助方法に於ては個別形態を目的とし、これに手段として集團形態を統合し、第貳篇にいたり、歐米諸國の救貧法制に於てそれ等の法制が個別形態を基本としながら集團形態を手段として加へるものとして發展しつゝある所以を入念に分拆提示し、第三篇に

於ては救貧制度の構成を個別本位とし、院外救助主義に重きを置き、個別的集團的經營主體説を主張し、特志家制度を強調し、一切を擧げて救貧組織の個別主義に歸入還没せしむる構想の下に精論してゐる。この事は近著「社會事業とは何ぞ」第六章に於ける統合救貧事業學論に於てその達すべき終局の着陸點を求め、拙論の基礎づけを行つた。勿論、かゝる學論は私獨自のもので、専ら自分の責任に歸するけれども、獨逸諸學者の中にも集團的なるものを凡て手段と解し、個別的なるものを目的と解するものはある。たとへば、先程引用してゐたホーム博士は最も明確に Einheitlichkeit ist stets mir von formalem Wert, niemals Selbstzweck と言ひ、集團的なるものを單に手段として解すべきものだといふ意を明かにして居るが、更に、Aber, ich sagte es schon oben, diese organisatorische Vereinfachung und Vereinheitlichung ist niemals Selbstzweck, sie ist auch niemals Erfüllung, stets nur Mittel と最も明かに集團形態を手段として解すべき義を宣明してゐる。この事は現今の社會事業學論に於て最も重要な學論にまで進展すべき契機を包蔵するもので、私はいづれの學者よりもこれに關し精細なる分拆を進め、その研究の成果は既に「社會事業概論」、「貧民政策の研究」、「社會事業とは何ぞ」などによつて發表せられて居る。私の學論が歐洲の學壇に將來如何なる影響を興ふるものであるか知らないが、歐洲の學論も亦畢竟漸次に私の學論に歩調を合せて進み來るものゝように觀測せられる。一九一八年 Heinz Marr 博士によつて (Verhandlung der Zentralstelle für Volkswohlfahrt

in Berlin am 13. und 14 Juni 1918) 發表せられて居る所説は僅々五頁にわたるに過ぎない短文であるけれども、その中に驚くべき慧敏なる分拆が加へられ、將來社會事業學論に一轉機を與へるものだと思ふが、未だマイヤ博士の所論はその當然要求すべき十分なる認識を得てゐないやうに思はれる。

マイヤ博士の *beweglich Form* と稱するものは *was ich die „bewegliche Form“ der wohlfahrtspflegerischen Arbeit nannte* : die Berührung von Mensch zu Mensch der persönliche erzieherische Einfluss kulturell höherwertiger Schichten auf die in ihrer Entwicklung aus irgendwelchen Gründen noch zurückgebliebenen Massen. Niemals kann das durch eine „Einrichtung“ eine „Appart“ allein erzielt werden; unentbehrlich ist hier die warmherzige und verständnisvolle Mensch, der, sei es in amtlicher, sei es in caritativer Tätigkeit, es vermittels seiner verfeinerten Kultur und Wissensart versteht, die Brücke zu schlager zwischen gesellschaftlichen Klüften, der es verhindert, das anderer Not zu einer „Nummer“ einer *bloshn Fall*“ erstarrt *と云ふことである。*

福利局の事業は第一 *technischen Teil* 第二 *fürsorgersischen Teil* となるが、兩者を通じてマイヤ氏の流動的形式がその基調をなす。この事は同じく對象の綜合性に照應するものと解せられる。福利局の技術的部分は集中

機能によつて現表せられるものである。それは公私社會事業團體を集中し統一することであるが、この集中及統一は固定的形式へと導く。それは固定的形式として抽象的形式的のものとなり生命なきものなるにいたる。技術的部分は副利局を單なる *Sammelpunkt* として參加團體及其の特殊的功能を殺さない條件の下に行はれるから、單位とその特殊的功能とはその僅存續する。福利局の技術的功能の遂行は參加單位を獨立なものとしてその特殊性を發揮させる主義に則り、聯合する形式によることとしてゐる。プロシヤ福利大臣ステゲルヴァルド博士はこれを *Föderalismus* と呼んで居り、これを第二職能たる救護的職分から區別してゐる (*Dem erstem muss die Zentralisation die vielleicht besser Föderalismus genannt wird, zum Nutzen gereichen, vom Zweiten soll jede acktenmäßige Behandlung sich frei halten*) かくの如き福利局の聯邦組織はなるべく普遍性に對して、特殊性を失はざる用意を以て成つて居るので、社會事業の原則たるべき具象性をなるべく去らない意識の發現たるまでである。福利局の第二の職分たる救護は形式的官僚的たるをえないから文書や規則による取扱方法を排し、抽象機關たる福利局に於てこれを取扱はず、單位機關をしてこれに當らしめる。是又社會事業の具象性に照應するものである。救護的部分と雖も個人的教育的意義の乏しきものは公的救護に委ねられる。但し、公的機關と雖も個人的具象的な *Karitative* な機能を欠くことはできないとして、かゝる個人的具象的な作用を公的機關の中へ導き入れることを主義としてゐる。ステゲルヴァルド氏は大臣としての施政方針

を吐露して、Ich werde es mir angelegen sein lassen, darauf zu halten, das der Geist der sozialen

Gesinnung in der öffentlichen Wohlfahrtspflege als oberste Forderung gilt と言ひ、すべての社

會政策は社會的心情なくしては無効であるとなし、歴史的にも自由なる愛のはたらきは國家的保護の先驅をなし、無数の微小な私的な福利實驗が集合して現時の國家的保護を促したのであり、愛のはたらきは官公の中へも入り込まなければならぬ意を力説してゐる。ポウリツヒカイト氏は肺結核、乳兒、飲酒保護の場合を擧げて

ohne eine nachhaltige, persönliche Einwirkung auf die zu betreuenden Personen wird auch

in diesen Fürsorgezweigen keine erfolgreiche Arbeit geleistet werden können と言ひ、私的社會

事業精神が公團體の中へ入り込まなければならぬ意を明かにしてゐる。これによつて、獨逸社會事業に於て公的なもの、中へ私的なものが加はり、抽象的形式的な機關と機能の中にも具象的精神と心情とが入り込み、一體として社會事業を具象化するを見る。これ又、私の學論に於ける對象の綜合性が證明せられる一例に過ぎない。S. グーニル氏は so muss auch die behördliche Arbeit mit dem Geiste der freien Liebestätigkeit durchdrängt werden と力強く斷定して居るが、恐く、かくの如き見解は獨逸學者の主流としての見解であり、また、獨逸社會法制の精神であると思ふ(救護法などに於ける)。

福利局の職分はミュンステルのものがその範例たりうるが、ミュンステルの福利局は(一)官公私團體及私人

の協力によつて綜合せらるゝ職分(Vermittlungsbait)(二)希望者に材料及情報を分配する職分(Auskunftsarbeit)

(三)宣傳及教化の職分(Aufklärungsbait) (四)經營的職分(Verwaltungsbait)としての年報の發行及豫算表の作製、材料の分配、統計の作製などである。

綜合的職分としては單に公私團體の綜合が企圖せられるだけけれども、獨逸社會事業はこの職分の下に一層私の所謂綜合的機能による職分を勵行しなければならぬ。綜合的機能は福利局に最も重要な職分となる。對象の綜合性と困窮の體験性とに顧み、特殊的機能では完全救助たりえない窮狀を超越し、凡ゆる特殊機能を綜合して完全救助にいたらなければならぬ。この事は特殊機能をもつに過ぎない官公私の特殊専門機關によつては如何ともすべからず、かゝる特殊機關の存在のみによつては眞の救助たるべき綜合救助は成し遂げられぬ。よつて、ここに綜合機關の必要を生じ、福利局を生み出せしものと解釋しなければならぬ。福利局が特殊社會事業の特殊機能を單に併合するに過ぎないならば、それは一切を集合する萬屋的なもの、外何の意味もないもので、恐く特殊社會事業以外その生存權を主張することができなからうと思ふ。綜合的な Familienfürsorg. を一例として綜合社會事業は成立するが、若し、かくの如き綜合機能を前提となし、又これを必要とせずば、特殊社會事業以外、綜合社會事業の存在する理由もなく、従つて、その生存權を主張することもできないであらう。福利局の職分は單に特殊機關と特殊機能との綜合ではなく(かくの如きものは特殊機關と併立し重復するから、その存在の

理由を失ふ)特殊機能と全く別なる綜合機能を認識し、これによつて全一として具象的個性と個人との救助を可能なものにする主旨に外ならぬ。獨逸の學者が未だ十分この思想に到達しないのは恐らく單に時期尙早であるに過ぎないだらう。獨逸では家族的保護を以て兒童保護と保健保護と經濟保護との三者を抱擁する綜合的なものとなし、地區保護 (Bezirksfürsorge) を以て特殊な専門的な保護と解してゐる。たとへば Flotho 博士はこの二用字を解釋して Der Sprachgebrauch bezüglich der Ausdrücke Bezirks- und Familienfürsorge ist in der Fachliteratur sehr unklar. Im Folgenden wird die Bezeichnung Bezirksfürsorge nur für die fachlich, die Bezeichnung Familienfürsorge aber für die Gesamtfürsorge auf allen drei oben Genannten Gebiet gebraucht と言つてゐるが、上の三の範疇と言ふものは兒童保護と保健保護と經濟保護とを指す。獨逸に於ける特殊保護としての地區保護と綜合保護としての家族保護に關しては賛否區々であり、これが實驗の結果も齊一ではない。一九二二年、獨逸七十都市について調査するところによれば、その中、三十六都市は家族保護を採用し、二十六都市は地區保護制により、その他は準備中のものであつた。ゴットスタンでは家族保護を支持して居るが、ヘルグハウス、クラウトウキツヒ、ウエンデルブルグではこれを否認して居る。キールでは一九二〇年家族保護の實驗を開始した。フロット氏は家族保護と地區保護との得失に關し

Wie weit aber blos Bezirks-, wie weit Gesamtfamilienfürsorge durchgeführt war, ist aus dem

Ergebnis nicht zu entnehmen, da nur die Bezeichnung Bezirksfürsorge gebracht wird und sagt zu sein.

獨逸に於ける地區保護と家族保護との得失に關する論議は恐らく兩者を同一性質のものとして取扱ひ、同一基準を適用して居ることからくるが、兩者に對し同一標準を設定することは恐らく失當であらう。地區保護と家族保護とは分業の觀念によつて取扱はなければならぬ。特殊保護たる地區保護の目的は特殊な社會的障害に關して適用すべきもので、特殊な疾患は特殊の専門的方法によつて處遇する外はない。但し、眞に社會的障害を輕減除去するといふような場合には、特殊な疾患は一切その他のものと關係し交渉をつくり有機的全體として存するから、綜合的方法によらざるべからざるべく、従つて、家族保護を必要とするであらう。たとへば、家族保護の如き allgemeine Fürsorge を保健保護に適用すればディレンタンテイismusに陥る外はないから、専門的な特殊な ärztlichen Leistung によらなければならぬといふものがある (Redeker in Beitr. z. Kl. d. Tuberk. EG. Bl., s. 421) 勿論、この場合、特定の疾病に對し取扱ひを開始せんとすれば、何でも屋たるべき綜合保護としての家族保護によるべからざるは明かである。これに關しては、たゞ、特殊的方法を動かし特定の疾病を治療しさへすれば宜いのである。たゞ、かくの如き特殊的方法によつてのみ特定の疾病は治療される。但し、特定の疾病がその他のものに關連して居り、それをも同時に取扱ひ治癒しなければ該特定の疾病も亦如何ともする能

はざるが如き個人的見地によるにいたれば再び綜合的方法を動かす外はないこととなる。そこで、處遇方法は特殊と綜合的との二となり、夫々の場合に適當なる方法を動かすのであるが、これ等は終局如何にしても全體的見地によつて社會的障害を輕減除去する外に途のないことを見出すであらう。ボウム博士は特殊的方法に反對し、*Spezialisierung hat ihre Berechtigung an vielen Plätzen, nicht aber in der Fürsorge. Bei ihr handelt es sich nicht um eine riesige Reparaturwerkstatt für kranke, Gebrechliche und Entgleiste, in welcher bei weitestgehender Arbeitsteilung das Höchste erreicht würde, sondern um Menschen und Menschenschicksale, die zu beeinflussen nur von einheitlichen, unverrückbarem Standpunkte möglich und erträglich ist. Wir Vertreter der Familienfürsorge kämpfen hier für die heilige Unteilbarkeit des Lebens*と言つて居る。ボ博士は生命の神聖なる不可分を押し立て、綜合的方法を提唱し、その他のものでは如何あらうとも、救助には特殊化するものは妥當でないと宣言してゐる。勿論、救助の終局の意味はこれ以外のものではなく、救助は凡て生命の神聖なる不可分の原則によらなければならぬが、特殊の社會的障害をもこの不可分なる生命によつて取扱ふべしと主張すれば、そこに何でも屋たり萬づ屋たるデレンスタンテイズムに陥る外はない。よつて、特殊な社會的障害に對しては特殊な方法と専門的な方法とによることとし、よつて以て特殊的方法を保存するが、それは終局、人間といふが如き不可

分なるものを取扱ふ方法でないことを明かにし、一轉して綜合的方法の外、救助と名付くべき價值あるものは存しないことを明かにしなければならぬ。然らば、社會的障害の輕減除去は結局 *heilige Unteilbarkeit des Lebens* の主義による外ないこととなり、綜合的方法が最終のものであるとする見解に達する。總ての欠陥は個人的人格的性質のもので、疾病の如きものも單に醫術を用ゐて千變一律の方法によるべきではないから、保健保護と雖も疾病者の個人的取扱によつてその健康を保全し且つ恢復する主義をとらなければならぬ。これ、一切の救助政策を集中組織より分散組織となし、集團的取扱を個別取扱となし、官公吏を特志家と婦人にと改めなければならぬとする所以である。

福利局の第一目的は單に機關の綜合にあるだけでなく、機能交換による綜合たるべきであることについては、今や明白であると信ずる。綜合の要態がかく如く開展する所以のものは社會事業對象が綜合的なもので、それは神聖なる不可分としての生命であるからである。個人並に家族の雜多な社會的困窮は同時に出現して結合して居るから、諸種の社會事業團體は同一の個人及家族に對し同時に出勤し、一の人間一の家族に對し一以上の團體が關與することは異例といふよりも常態であらう。この場合、單獨社會事業の形で、一以上の團體が個人並に家族の社會的障害の輕減除去に當れば、無組織に集合するに過ぎなかつたり、併立となつて重複したり、乃至、時に矛盾となり、反對となつたりするであらう。これに對し、福利局が現はれ、これ等の救助を一所に綜合すれば、

かくの如き弊害を除去することができる。異種の社會的障害が一の人間一の家族に現はれる場合、雑多な社會事業團體がそれに向つて集り來り併存となるが、その外交互關係が生じなければならぬ。併存となつて諸團體が無組織に併立するものに對し福利局は *Zusammenarbeit* の職能をつくすが、私の主張するところのものは、それが交互關係に一轉し、一の人間一の家族に對し同時に出勤する雑多な社會事業團體の雑多な機能を交互關係によつて組織し、これをして機能の交換なる形式をとらしむることである。こゝに、*Familienfürsorge* を始めとする一切の綜合的方法が生ずる。福利局も亦かくの如き綜合方法の一種たることを期さなければならぬ。福利局は公私社會事業團體を *Nebeneinander* の形ちによつて綜合するにつくるが如きものたらざるを要する。これ、獨逸福利局の更らに慎思熟慮しなければならぬ要點である。異なる機能を異なる團體によつて一の人間一の家族に對し加ふるものは併存であるが、これ等の機能を相互に關係せしむれば交互關係となる。機能の交互關係は社會事業對象の無限の結合たることや全一たることからくる。現時の獨逸福利局は機能及團體の併存なる形式によつて綜合せんとするもので、綜合形式は主としてそこまで進んでゐるものゝように見受けられるが、今一層機能の交換による交互關係の綜合形式に進まなくてはならぬ。私の體驗社會事業の觀念が一般化し、更らに、形態論的研究が盛になれば、期せずして交互關係の上に綜合の目標を置き換へ、若くは、現時に於けるが如きぼんやりした状態よりこれを意識の焦點にもち來すことになるだらうと思ふ。

福利局事業は特殊化と綜合化とが同時に行はるゝとき始めて完全なる發達をなす。それに關しゲール氏は *Die erste Voraussetzung für die Vermittlungstätigkeit des wohlfahrtsamtes ist, das es über alle Wohlfahrtseinrichtungen und-organisationen seines örtlichen Wirkungsbereiches, ihre Spezialaufgaben und ihre Mittel genau unterrichtet ist. Nur so wird es ihm möglich sein, im einzelnen Falle ein einheitliches zusammenarbeiten herbeizuführen und ein vertrauensvolle Verhältnis der privaten Organisationen untereinander und mit den Behörden zu erreichen* と言つてゐる。

勿論、獨逸に於ける福利局なるものは所によつて、その内容を異にするので、統一されたものがあるのではない。それは地方の事情と、歴史と、社會事業の發達と、政治關係、宗教關係によつて異ふものとなつて現はれてゐる。それ故、福利局と言つても諸々の範類に分れ、これを齊一なものと見做すことはできない。フランク氏は *Es sind Zweckmäßigkeitsfragen* で、所により異ふもので、一定の形式に當て統一的とができないと言ふ。Appelius 氏は *Die Frage nach der Form der Organisation aber lediglich als eine örtliche oder Persönlichkeitfrage* だとして、これを統一することに見かぎりをつけて居る。一九一四年には福利局と言はるべきものは六十二あり、一九一七年には七十に達したが、眞に福利局と言はるべきものは三十に過ぎ

なかつた。一九一九年の調査によると、獨逸百十六都市中、福利局を設置せざるものは二十六である。一九一九年に於けるプロシヤの福利局は二百十二に達し、ラインに三十九、ザクセンに二十二、東プロシヤに二十一、シウレジエンに二十、ヘッセンナツソウに十九、ウエストフハリエンに十八、ポーゼンに十六、ハノバアに十四、シウレイウツヒホルスタインに十三、ボムメルンに十一、西プロシヤに十一、ブランデンブルグに八ヶ所設置せられてゐる。

キョーンの福利局が Zentralisierung des rein Geschäftlichen, Dezentralisation des rein Praktischen aufbaut の主義によつて運営する原則をたて、居るのも固定的形式と流動的形式との分配によるものであり、社會事業對象と照應するものである。集中は手段であり、分散が目的であるから、言はゞ、綜合的機能遺憾なくはたかせるために實際的活動に對して分散するのである。ゲーベルも亦…… das die Idee der technischen Arbeit und der Dezentralisierung der pflegerischen Arbeit einen wesentlichen

Fortschritt in der Organisation der Wohlfahrtspflege bedeutet と言ひ、社會事業の進歩が救護活動の分散より來るとするのも綜合的機能を重要視する意義の表現である。技術的部分は集中化することができるけれども、救護的部分は集中化することはできない。メイエル氏の Dezentralisation des rein Praktischen Theil といふところのものや、ケーベル氏の救護活動の分散化といふところのものは、實際的活動や救護活動

は綜合的なものであるから、無限の結合や全一に歸屬するものであるといふことに反譯せられるであらう。無限の結合や全一は綜合的なものであるから、専門的特殊的に取扱ふ見込みのないものである。それは綜合的に一體として存在する所謂神聖なる不可分の生命なるが故に、分斷の見地による集中化によつては如何ともすることができない。獨逸社會事業の發展は集中化に對して分散化の強調となつて現はれ、殊に、實際活動や救護活動を分散的機能の中へ編入して、これを集團的に取扱ふべからざるものであるといふ意を明かにし、特志家的機能に重要な位置を與へ、エルバアフェルド法に於けるが如き特志家制度の發達を齎らしてゐる。それに獨逸では社會事業に於ける婦人の位置を重要視し、ザロモン博士の如きは Hier ist die Königliche Dummne der Frau といふ筆法であるが、ハイント、マアル博士の如きは時代の非人格的なところから集團的社會事業といふようなものが現れるとし、 jene Flucht von dem Mechanischen in Sachliche, jene Veräusserlichung und Mechanisierung des Helfens, die spezifisch-weibliche Gaben nicht rechten Entfaltung kommen といふ、と言ひ、女子の固有性を重視し、これによつて社會事業を改造しなければならぬといふ意見である。獨逸社會事業の開展に於てこれ等の重要な學論が勝利をえつゝある所以のものは何づれも社會事業對象の綜合性に由來するのであらう。

獨逸社會事業の開展はその始より終りまで發生史的に私の所謂對象の綜合性を明白ならしむる過程で、對象の

限定に向つて漸次その歩を進めつゝあるを見る。獨逸社會事業の研究は蓋し社會事業對象の研究上重要な資料を提供するものじやない。

参 考 文 籍

1. Albrecht, Städtische Wohlfahrtspflege, S. 33—70.
2. Göbel, Das Wohlfahrtsamt, Zweck, Einrichtung und Richtlinien für den weiteren Ausbau, S. 29—61.
3. Krautwig, Organisation der Wohlfahrtspflege der Städte. S. 9.
4. Polligkeit, Das äussere und innere Gliederung der Kriegswohlfahrtspflege.
5. Maier, Das städtische Wohlfahrtsamt, S. 23.
6. Stegerwald, Wege der Volkswohlfahrt, S. 3—14.
7. Stegerwald, Vom Arbeitsgeist der Wohlfahrtsamtes. Schr. d. D. G., f. f. R. Heft 6.
8. Marie Baum, Die Wohlfahrtspflege, ihre einheitliche Organisation und ihr

Verhältnis Zur Armenpflege, S. 1—19.

9. Polligkeit, Die Frage der Kommunalisierung der privaten Fürsorge, S. 18.
10. Blaum, Das Zusammenarbeiten des Wohlfahrtsverein, S. 28.
11. Vgl. die Ausführungen von Dr. Luppe, Dr. Levy, Dr. Polligkeit, Cunno, Dr. Weber, Dr. Marie Baum, Dr. Zahn, Dr. Altmann, Dr. Marr, Dr. Schlosmann, Dr. Meyer, Dr. V. Erdberg, auf der 10. Konferenz der Zentralstelle für Volkswohlfahrt.
12. Frank, Wohlfahrtspflege in Volkstaat, S. 29.
13. Bolzan, Fürsorgerecht und Caritas.
14. Altmann-Gottheimer, Wohlfahrtsamter.
15. Richter, Kreiswohlfahrtsamt und ländische Wohlfahrtspflege.
16. Bolzan, Wohlfahrtsamter, S. 47.
17. Memelsdorf, Der Aufbau des Wohlfahrtsamtes in einer grösseren Staat, S. 16—35.

18. Muthesius, Wohlfahrtspflege.
19. Appelinus, Die Zentralisation der Privatwohltätigkeit. Zeitschrift für Kommun-
alwissenschaft, 1. Jahrgang, Heft 5,
20. Jastrow, Die Gestaltung der Wohlfahrtspflege nach dem Krieg.
21. Flotho, Das grobstädtische Gesundheitsamt. S. 25—56.
22. Hirtleifer, Die staatliche Wohlfahrtspflege in Preussen. S. 1—5.
23. Meyer, Wozu brauchen Wir ein Wohlfahrtsamt ?
24. Putter, Die Vereinigung der Fürsorgebestrebungen in einer Gemeinde.
25. Weber, Akademiker und Wohlfahrtspflege in Volksstaat, S. 25—32.
26. Witz, Einheitliche Organisation der Wohlfahrtspflege in der Großstädten.
27. Laureck, Grundlagen heutiger Gemeindefohlfahrtspflege.
28. Wronsky, Die Vereinheitlichung der Wohlfahrtspflege in Deutschin Reich.
29. Salomon, Soziale Frauenschildung und soziale Berrnsarbeit, S. 34—53.
30. Goez, Grundris der Wohlfahrtsamt.
31. Simmon, Aufgabe und Ziele der neuzeitlichen Wohlfahrtspflege.
32. Levy, Vom Wesen der Wohlfahrtspflege.

第十章 社會事業の形態心理學的解釋

一 全體的見地

社會事業の對象は綜合的であるが、綜合的の意義は要素の集合によらず、それが一定の組織による結合即「構造」を意味する。この構造は全一としての「體驗」によつて表示される。

要素心理學 (a'omnischen Psychologie) は Urgegebenen に於て遊離する多くの要素をその結合によつて精神を生ずるとするのであるが、これに對して、全體的見地を探るものは全體論 (Ganzheitslehre) としつて形態心理學 (Gestaltpsychologie) に依る。ヴェルトハイメル氏 (Wertheimer) はこの見地を言表して

Das Gegebene ist an sich in verschiedenen Grade „gestaltet“. Gegeben sind mehr oder weniger durchstrukturierte, mehr oder weniger bestimmte Ganze, Ganzprozesse, mit vielfach sehr konkreten Ganzeigenschaften, mit inneren Gesetzmäßigkeiten, charakteristischen Ganztendenzen, mit Ganzbedingungen für ihre Theil (所與はそれ自から異なる程度に於て形態化されて居る。所與は多少構造によつて貫通されて居り、多少の程度に於て、全體であり、全的過程であり、多く、全く具象的全體的

性質をもち、全體的傾向を特徴つけるといふの内的法則性をもち、且つ、その部分に對し全體的要因たるべきものである)と言つて居る。感覺說 (Sensualismus) や聯想說 (Assoziationspsychologie) に對し、形態心理學者はいつでも全體的見地をとる。一八九〇年 Ehrenfels 氏は所與の中に Gestaltqualitäten を區別し、それは單なる集合にあらず一定の關係的性質をもつことを指摘した。所與には要素があると共に、その間に一定の關係がある。即ち、そこに Ganzeigenschaften がある。ヴェント氏は構成心理學の立場にあるが、氏も亦單に要素の集合によつて現生せられる精神現象を認め、之を Schöpferischen Synthese 若くは Resultantenbildung と呼んだ。なほ、埃太利の心理學者たる Meinong, Witasek, Ameseder, Höfler, Bensusi, Marty, Kreibitz が形態問題の研究をなし、獨逸では Schumann, Cornelius, Lipps, Krüger 以下、形態心理學研究の牛耳をとり、Wolfgang Kohler 氏や Kurt Koffka 氏によつて形態心理學說が主張せられて居る。

主觀的心理學 (Subjektivierendpsychologie) 並に人格的心理學 (personliche Psychologie) は Ganzen der Person (人格の全體) よりする見地により個人をその全體より把持する主義をとる。主觀的心理學 (Hugo Münsterberg, Grundzüge der Psychologie) に於ては與へられたる客觀的に認識せらるゝ自我は直接的な真我ではないとする。自我と稱するものは能動的なもの (stellungnehmende Aktualität) である。自我は内的活動によつて直接的に知られるもので、我によつて、與へられたる客觀とは別なるものである。無限に雑多

な程度に於て意志し意志しないものであるところに、*freien Akt* としての自我が活き且現はれる。かくの如き生ける我、直接的な我を研究するものはミュンヘンブルヒ氏にあつては主観的心理學なのである。(nehme ich mich nicht wahr sondern ich fühle mich; dann ist mein Handeln nicht ein Vorgang, den ich in Bewusstsein als Inhalt vorfinde, sondern ich selber bin die Stellungnahme bin die Entscheidung bin der Wille. I kenne mich in Meinem Willenserlebnis aufs unmittelbarste in einer Weise, die Grundsätzlich von jedes Objekterkenntnis verschieden ist—Münsterberg, Philosophie der Werte, S. 105)

ステルン氏 (William Stern) の人格と *Sich-tun* のものも全體的見地によるもので、人格はその部分を區別せられるにも拘はらず、固有な統一體として在るもので、それは眞の目的的活動をなすものである (Person als ein solches Existierendes, das trotz der Vielheit der Teile eine reale eigenartige und eigenwertige Einheit darstellt und das trotz der Vielheit der Teilfunktionen eine reale zielstrebige Selbsttätigkeit vollzieht) 主観的心理學と客観的心理學との區別、人格的心理學と物的心理學 (sachlicher Psychologie) との區別はクルタイ (Dilthey) 氏に溯り、こゝからその源を發する。

ラ氏は一八九四年に *Ideen zu einer beschreibenden und zergliedernden Psychologie* なる論文に於て高等な

る精神生活並に歴史的生成は自然科学的心理學によつて説明すべからずと主張したが、一九二二年にいたり W.

Schmiel-Kovarik 氏は *Umriss einer analytischen Psychologie* なる論文に於て心理學は要素より出發すべきものでなく、von den Ganzheiten より出發すべきものであるとなし、感覺より高等なる精神にいたるべきものでなく、又現時の如く下より上にいたるは誤りであり、上より下にいたらなければならぬことを主張した。ここに、全體的見地が導入せられた。一九一五年 Felix Krüger 氏は *Entwicklungspsychologie* に於て「要素心理學は獨立し、文化に無關係なる個人の精神を分拆することを本分とするが、かくの如き方法によつては常に入間の社會生活とその精神的所産たる文化を見失ふ結果となる」と言つて居る。精神を要素に分解し、要素によつて説明するときは、個人の有機的全體を解釋することができず、従つて、價值又は目的を度外し、固有なる精神生活と、それより起る文化とを説明することができない。文化はその本質として *wertvollen zwecken gleichwertigen sinnvollen Tun von Menschen* より來る。

かくて、自然科学的心理學の要素説は漸次破析せられる運命で、心理學の發達史上要素説は全體説 (*Ganheits-theorie*) に改められ、要素は全體と意味 (*Sinn*) とに移つて行つた。全體を求め意味を求めめるのが、最新心理學の傾向である。全體的見地を指して進むものは形態心理學であり、ステルン氏の *personalistische psychologie* であり、Driesch 氏の生命生物學 (*vitalistischen Biologie*) の上に建てられたる心理學である。現

代心理學的傾向は精神的要素と共に、その關係 (und-Verbindungen) を研究し、更に「ganzheitliche」といふこと、「sinvolle」といふことを對象として研究を進める。この傾向は最もよくコフカ氏に現はれて居る。コフカ氏は心理學を以て、自然科学的心理學と精神科學的心理學とを超越するものとなし、その方法としても因果關係に依る理解の方法と目的なる了解的方法とを並せ用ゐるべきものとなし、時に理解的方法を用ひ時に了解的方法を用ひて心理現象を説明しなければならぬとする。

ヴェルタイの弟子たる Eduard Spranger 氏は一九二一年の著 *Lebensformen* に於て自然科学的心理學の外、精神科學的心理學なるものがあることを指摘し、劈頭二種の心理學を解説して居る。

ス氏は「私は自然科学へ方向つけられた心理學を方法上の理想から見て要素心理學と呼び、精神科學的心理學として構造心理學 (Strukturpsychologie) をこれと對立せしめる」といふ。要素心理學は個人意識に起れる過程を區別し得べき要素に切斷しやうとする。要素たるべきものは空間的に並立して存する部分ではない。心的要素なるものは空間的のものではないし多くの學者は一定種類の心的要素を基本的のものと解し、その他の心的要素をその契機の如きものと見做すことによつて、これを基本的のものから引き出さうと力めた。ヘルベルトは心理生活を表象の機能として造り上げやうとした。ミュンステルベルヒはその生理的心理學に於て、最單純な感覺を心的原子と見做した。ヴントはこれと異り、心を實體的本質と考へず、一の過程と見た。されど、この場

合最單純な要素の代りに最單純な過程が置き換へられたゞけである。要素や過程を單に一種類に限り、それを基本とするものは多くはないが、心的要素の一定數を設定する學者は甚だ多い。何人も知る例は表象、感情、努力の區別である——一つの複雑な心的過程を其要素に分つこと、これを全體として一層高次的な有意味な關聯の中に投げ入るゝことは全く區別されなければならぬ。精神科學の思惟は分析しうべき最後の要素に究極せずして、一層高次的概念の層に立つて内的過程を意義決定する全體と考へ、この全體は一つの精神的な Gesamtsituation に從屬し、これから意味づけをされると解する。一般に要素心理學の科學的界限はそれが心的なるものゝ意味的關聯を妨げることにある。これは細胞の生體解剖によつて例示することができる。細胞を切開すればその内部的構造を知り、その器關の生理的機能を了解することができる。但し、切開せし部分を再び接合して生ける細胞を造ることは望みなきことである。それと同じく心的要素の結合によつて全體的精神的環境に關係せしめられたる意味的關聯をもつ心的全體を造り出すことは不可能である。この逆が正しいのであり、最初に意味的關聯があり次にこれを分解することによつて要素が現はれるのである。但し、要素によつては決して全體を理解することはできない。ヴントはこの關係をその心理學的方法的基礎論に於て認め、創造的綜合原理と關係分析原理とを以てこれを説明して居る。ヴント氏も亦要素を寄せ集めて出來た形象は要素の特質から説明することができないことを見出したのである。物質的部分から一個の物體を造るが如く、要素から精神的な内界を造ることはできない、

これに反し、全體が最初に與へられて居り、要素や契機はたゞ全體に即して考へられるところに意味があるだけである。精神科學的心理學と自然科學的心理學とを比較して見る。精神科學的心理學は心理構造の全體から出發する。構造といふことを茲では活動關聯の意味に解する。そして、活動といふことを客觀的な合價値的なものゝ實現と解す。然るに、心の全體的構造の中には部分的構造たる認識の構造、技術的作業の構造、宗教的意識の構造といふようなものがある。これ等全體並に部分構造の活動が諸々の主觀に於て同一方向を指して進み、一種の客觀的(超越主觀的)沈澱をなすにいたり、集團精神が生ずる。この集團精神が更に法則的若くは合規範的たるにいたれば、こゝに批判的意味に於ける客觀的精神を造り出すことができる。これに對し、要素心理學はそれが區別しうべき最後内容を部分構造や全體構造に關係せしめて考へるときに限り方法上の權利が設定せらる。それは構造心理學に方法的に依屬する。表象、感情、意欲はそれ自づからは無意味な素材に過ぎない。要素心理學がそれだけだとすれば自然科學と同じく淺意味的な無關係な部分を取扱ふ科學とならう。一有機體の諸部分が相互に内在的な意味關聯に立つが如く、心理要素は構造の内面に於て始めて意味關係をなすのである。

現時の心理的は體驗を毛を割くが如き方法で分割し、これを寄せ集めて寄せ細工をつくり、これで精神が出来るが如く考へて居る。スプラングア氏はかやな見地に對し、Nirgends last sie ein Ganzes bestehen, nirgends gelangt sie zum Ganzen……All kunst der Menschenführung versagt, weil unsere

Welt nicht von dem zarten Geist durchwaltet, der innere Verflechtung und sichsle zu abnen weis と非難して居る。

全體を見地とする學說に對しては總ての精神生活の中、心的概念たる價値と意味とがもう一度科學に導入せられる。スプラングア氏は再びこれに對し、Verstehen geradezu als Auffassen des inneren sinnvollen Zusammenhangs im Sein und Tun, im Erleben und Verhalten eines Menschen (oder einer Menschengruppe) oder des Sinnes einer menschlichen Geistesobjektivation. Verstehen heist : in die besondere Wertkonstellation eines geistigen Zusammenhangs eindringen と言つて居る。かくて人間が内的構造と價値の異なることによつて生命の異なる意味を求むるならば、そこに、個人の範類(Grundtypen der Individualität)なるものが現はれるが、これに對し、ス氏は(一)理論人、(二)經濟人、(三)美的人、(四)社會人、(五)權力人、(六)宗教人の六を區別し、その心理學が定型心理的(Typopsychologie)たるを示す。

形態心理的は全體的見地をとり、それは價値と意味と従つて文化とを取り入れる。私の社會事業對象の研究は形態心理學の光りによつて一層その基礎を固むるにある。

社會事業對象を要素的に見るものはそれは自然科學化せしものである。かくの如きものは自然科學的社會事業

學である。心理學に於けるが如く社會事業にも自然科学的社會事業と精神科學的社會事業との二がある。自然科学的社會事業學は綜合的なるべき筈の對象を要素に分割し、或はこれを一般的對象、保健的對象、經濟的對象、教育的對象、兒童的對象といふやうに區分する。そして、かく區分されたる部門を各別に研究せんとする。されど、精神科學的思惟は分析しうるべき最後の要素に依らずして、一層高次の概念の層に行き、その内的過程を意味づける全體に依るが故に社會事業學に於ても要素の見方は失當であるといふ見解に達する。一般に要素的社會事業學の界限はそれが心的なるもの、意味關聯を阻害するところにある。社會事業學は了解科學で、自然科学的、乃至、要素的社會事業學を蔑視する。この場合、了解とは人間の生活 (Erlieben) と行動とに於てその存在と行爲との内的な有意義な結合による把握の謂ひである。了解は精神的結合の特殊な價值關係に依存する。要素の自然科学的結合による社會事業學によつては對象の眞髓を披開することができぬ。社會事業學には自然科学的社會事業と、その理解的方法とに對し、精神科學的社會事業と、その目的な了解的方法とがあり、兩者を併用することによつて社會事業の研究はなされるが、何づれかと言へば、社會事業學は精神科學的で、その方法は了解 (teleologischen Verstehen) である。

ヴント氏の創造的綜合の如く全體的見地によつて社會事業は始めて研究さるべきであり、要素的に社會事業を取扱ふことはできぬ。社會事業對象は消極的には、(一) 一般的障害、(二) 經濟的障害、(三) 身體的障害、

(四) 精神的障害、(五) 倫理的障害、(六) 形而上的障害に分れ、積極的には、(一) 一般的福祉、(二) 經濟的福祉、(三) 精神的福祉、(四) 倫理的福祉、(五) 形而上學的福祉に分たれる(「社會事業學原理」二六六—二六七頁) 但し、これ等の部分的障害や福祉は分斷してあるのではなく、彼此關聯して在るのである。要素社會事業學の科學的界限はそれが有意義的關聯を阻害するところにある。要素の見方は自然科学的に要素を理解するをうるのみで、眞の社會事業對象を理解することができない。細胞を分斷するのは細胞の内的構造を知り、その生理的機能を詳にすることができ、要素の綜合に依るところの全體的な有意義的關聯をつくすことはできない。實は有意義的關聯が最初のもので、要素はこの分析によつて始めて現れ来るのみ。要素が最初に在つて全體がつくられるのではなく、全體が最初にあつて、その中に要素が分析され求められるのみ。ヴント氏の如く心的要素を以て始り、複雑な精神形象を経て、最後に心的發達に進む研究方法は首尾顛倒である。その逆な見方と研究方法が寧ろ正しい。形態心理學的な見方と研究方法とは要素の寄本細工に依るのではなく、これによつては如何にしても全體を了解しえず、又全體に到達しえないとする見地による。一體社會事業對象なるものはその特質として意味關聯を具現して居る。意味は常に價值に關係せしめられるものである。一つの機能關聯に含まれる總ての部分的要素と過程とが有意義な全體へ關係せしめられることによつて了解せらるゝときは、其機能關聯を有意義 Sinnvoll と呼ぶ。社會事業對象は諸機能の意味的關聯であつて、その關聯によつて諸々の價值方

向は自我意識の統一により、相互に關係せしめられて居る。それ故、社會事業的生活と行動とは一つの關聯であつて、その中に諸々の意味方向を識別することができる。

何づれにしても、精神科學的社會事業學は心的構造の全體から出發する。この際、構造とは活動關聯の意味のことである。そして、活動とは客觀的な合價値的なものの實現の謂ひである。全體的並に部分的構造の活動が種々の主觀に於て同一方向をとり、超主觀的沈澱を現はすに於て、そこに集團的精神が生ずる。尙集團的精神は法則及規範によつて規律せられるときに批判的な客觀的精神を打ち立てることができる。この場合、客觀性は自我によつて實現さるゝ Transsubjektivität に依存するのみならず、多數の心的共働や交互關係による Kollektivität に依存するだけでなく、生産並に追生産の法則性たる Normativität に依存して居る。法則性たる規範性に依存するものは Kritischeobjektive なるものである。自我によつて見出される Transsubjektive なるものから集團的精神が造り出される。批判の意味での客觀的精神から超個人的形象の總體かできる。かくの如き自我の上に超個人的意味に於ける精神世界が顯現する。そこに歴史の世界が存在し生成し、發展し、變化し、且つ、破壊する。

これに對し、要素的社會事業學はたゞ區別しうべき要素に終始し、全體に及ぶやうなことはない。たゞ、それが形態心理學的な Struktur に依存するときに始めて方法論上の權利をもち、又、對象は妥當なものとなる。各種の困窮と福祉といふが如き部分構造は生存原理といふが如き全體的構造に關聯せしめられ、それに依屬して始

めてその生存權を主張することができる。部分的構造にそれ自づから意味があるのではなく、生活を充足し、それを完成し、生存原理を實現することによつて意味があるだけである。社會事業に於ては Ganzheiten と云ふことに意味があるだけで、部分的構造は全體的構造に依存しなければ何の意味もないし、又存立することもできない。社會事業は要素と部分とにより、又、それを結合することによつて研究せられるのではなく、 Ganzheiten を研究の對象となし、又要素が全體的構造に關聯せしめられて研究せられるのである。シミード、コバルツック氏の言ふように部分からではなく、全體から社會事業は研究せられるのである。こゝに、社會事業が有目的であり、了解的方法によつて研究せられる理由がある。要素を結合することによつて研究さるゝものは要素を寄せ集め寄木細工をつくるといふ器械的なものとなり、有機全體といふが如き生命そのものと言ふが如き生きたありのままの存在を觀照することができぬ。要素的社會事業學は全體を原素化するもので、要素によつてその過程の間に因果關係を設定し、全體を造り出さんとする。かくて、全體に達せしものは部分を寄せ集めたもので、その綜合體は單に „Und-Verbindung“ と云ふ程のものであり、眞の全體たり、又、全體的構造たることはできぬ。そこには要素の集積する死せし寄木細工的全體があるだけで、 Lebendige Ganzen なるものはなし。この事についてメフイストは次の如く歌ふ

“ Wer will was Lebendig's erkennen und beschreiben,

Sucht erst den Geist heraus zu treiben,

Dann hat er die Theil in seiner Hand,

Fehlt leider! nur das geistige Band.

この場合、Geistiges Band は目的の統一であり、意味の統一である。了解的社會事業學はメフィストの目的統一體であり、意味統一體であるところの geistige Band を研究する。そして、その部分や要素には關係がないとする。要素は全體的見地に於て固有な特殊な有機的結合體として觀る場合始めて全體的構造によつて了解される。要素的社會事業學はそれ自身無意味な要素的研究の集積に過ぎないもので、たかく、"Und" Verbindungs の研究を成し遂ぐることができるだけである。社會事業に於ける對象は種々の程度に於て形態化 (gestaltet) せしものであり、それは一定の全體並に全體的過程によつて durchstrukturierte されしものであり、その内的法則性によつて具象的な Ganzheitschaften をもつものである。換言すれば社會事業對象は Gestaltkategorien をもつものである。形態心理學的な社會事業の解釋が如何によく私の「社會事業學原理」に於て確定せし研究法と一致するか、その對象の研究とその方法とが如何によく全體的構造、更らに Gestalt の見地によるか、私の全一と有機的統一體としての全體が如何によく Ganzheiten を表示するか、私の綜合的對象論が如何によく形態心理學的の了解的研究方法と一致するか等、形態心理學の研究は頗る豊かに私の社會事業研究に光りを投ぐるが如く思はれる。

かくて、私は、一應、形態心理學の内容に立ち入つて吟味し、愈その成果を私の社會事業研究とその方法とに適用しなければならぬ。

二 聯想心理學と形態心理學

A 感覺と聯想と全體的構造

知覺の世界は感覺に分解されると考へられる。意識を分析すれば最简单なる部分としての感覺にほぐされる。知覺は感覺の集合によつて成り立つと考へられ、精神生活は異なる要素のできるだけ少数によつて形成されると考へられる。これは無論自然科学的見方である。一の知覺は感覺の束からでき上つて居ると見るから、ヴェルトハイマア氏はこれを Bündel-These と呼んだ。たゞに知覺が感覺の束によつて出來上るばかりでなく、想像も記憶も亦感覺によつて構成せられるのであるとせられ、最早これ以上分析することのできぬ内容の去來によつてそれが造り上げられるとせられる。思惟は表象によつて成り立つて居るが、表象は感覺が頭腦に痕跡を残して微弱な形をとらめ、記憶として再現するものである。表象はヒームに従へば微弱となつて残つた感覺であ

る。それ故、感覺から記憶として頭腦に痕跡を止めたものが表象であり、表象から思惟が出来るのである。言はゞ、表象は中樞に起つた感覺である。感覺が單位となるものは視覺、聽覺、臭覺のみならず、運動の感覺も亦然りと見られて居る。

連想派の心理學によれば、刺戟が感官を動せば、感覺は外界の刺戟に従つて併存繼續するが、精神に於てはこれは表象として残り、二の刺戟が併存乃至繼起の状態に於て痕跡を意識に残す。これに對し、再び、一の感覺が他を揺り動せば併存乃至繼起の一環をなす他の感覺を呼び起すとなし、表象にあつても同じく他の表象が呼び起されるのであるとなし、こゝに連想心理學に固有の見方が生ずる。

連想説は最初二つの存在として意識に現はれしもの即ち *und Verbindung* として存在するものが、その後連想としての統一體として存在するにいたりしものとする假定の上に立つ。連想説は假定の上に立つものであるが、それは恰も自明の公理の如く見做されてゐる。すなはち、知覺を分析すれば、要素としての感覺となり、それが、結合して生産せられしものが、知覺であると解する。こゝに於て要素の分析原理と連想説との間には聯絡があり、分析原理が正しからざれば、連想説も亦倒れるといふことになる。知覺は感覺に分析せられるが、感覺は外的刺戟によつて惹き起されるものとせられ、一定の感覺は一定の刺戟に對當し、一定の刺戟は又一一定の感覺を惹き起すと見られる。この構想に對し Köhler 氏は *Konstanzannahme* として表示してゐる。連想説は事實

の觀察によつて構成されたものではなく、一つに分析原理と不變假説 (*Konstanzannahme*) によつて成立するものである。連想説は事實に立脚するが如き趣きを呈するだけで、事實、架空な應説であり、意識に現はるゝ無意味な器機的な過程と眞の意味的な意識過程との間に打ちこゆべからざる溝渠をつくるものであり、強き感情を隨伴する目的的行動が却つて純粹知的表現の副産物の如く見られ、價値の顛倒を來すなど連想説の欠陥は到底回避することができぬ。こゝに理解的心理學から了解的心理學の分岐しなければならぬ理由がある。

理解的心理學派の中に於てさへ、連想説のみで十分説明すること能はざるを見るや忽ち他の説によつて、それを補充するものあるを見る。たとへば Wundt 氏の統覺説 (*Apperzeptions-Theorie*) では意志を以て主たる要因たりとなし Stumpf 氏の *Funktionspsychologie* は心理學全體系中連想説の占むるものは一部分でありとなし、その他の精神機能即ち注意、結合、判斷といふが如きものが主要な役割をなすとなし、Grazer 氏の *Produktion*、*Psychologie* は連想の外一方には *Produktion* なる特別な精神過程があり、他方には特別な感覺的な表象としての *ursprünglichen Gestaltqualitäten* があるとなし、Külpe 氏及其の學派の *Denkpsychologie* では連想の外に目的的な *richtiggebende Kräfte* を認め、精神生活に於て感覺や表象の如き *anschauliche* なものと共に思惟といふが如き非現象的なものを認める。

かくの如き心理學の諸派は單に感覺の堆積により寄木細工として終るものではなく、内的結合を喪失せし連想説

に對し、關係や、はたらき (Dynamik) の如き内的結合を導入せんとす。

Gestaltqualitäten, Gedanken, unanschaulichen Inhalte などは連想説の Bundelauffassung によるよりも、如何によく眞の意識状態に接近してそれを表示して居るか分らない。自然科学的には心理現象を説明することができないから、下級な精神を自然科学的に説明し、高級な精神現象を精神科學的乃至了解的に説明せんとする心理學者を生じた。Lindworsky 氏は精神生活の二元論を探り、一を意味の附着せざる中性の内容をもち Anschaulichkeit であり生理的であるものと、他を意味の附帯する中性的でなく精神的であり非感覺的である關係の把握と努力 (die Relationserfassung und das Streben) とに區別した。前者は理解的な自然科学的心理學に屬し、後者は了解的な精神科學的心理學に屬する。自然科学的心理學と精神科學的心理學とに心理學が二分する間は全的心理學として精神生活の全領野を説明することはできぬ。リンドヴォルスキ氏の如く精神を高級下級に二分するときは理解的心理學と了解的心理學とを統一し、理解と了解との矛盾を打ち越えて全的心理學を打開することはできない。自然科学的心理學の一を以てしては、人格の目的的行動を説明することができない。それ故眞の心理學に於ては下級な精神と共に高級な精神を説明し、理解と了解との對立と矛盾とを消解しなければならぬ。

B 知覺と全體

先づ知覺 (Wahrnehmung) に於て理解と了解との矛盾を消解することができるかどうかを見なければならぬ。下級精神にも高級精神にも理解的部分と了解的部分とがあり一體として精神生活はリンドヴォルスキ氏の言ふが如く二元論をとりうる。知覺に於ても二種の精神作用がはたらいて居る。下級精神から始めると、スペクトラムに於て連続的に變化する色はエネルギーの増減に應じて赤より黄、緑、青、董菜色といふ順序で推移する。これは單に事實に即してさうであるまで、波動の「性質」に關係がないやうに思はれる。果してさうであらうか。スペクトラムの色の連続する順序を變へ、赤、緑、董菜、黄、青といふやうになしうるであらうか。事實としてはそのやうな變化した順序が眼前に現はれても、性質としてはそのやうに變へることができないやうに見える。スペクトラムの色が次ぎ次ぎに排列するものゝ中相隣れる二者は最もよく相似て居り、波長も最もよく接近して居る。それ故、スペクトラムに於ける色の排列は内容的な「性質」によつてその順位が決定せられるやうに見える。すなはち、スペクトラムの色は各 inhaltliche Eigenschaft によつて彼此推移するものゝ如く思はれる。これを高級な精神について見れば一層然るを覺える。たとへば、知覺に現はれし Etwas が同一のものであると認められる場合、關係が設定せられるが、この關係は客觀として存在するものではあるまい。赤い林檎がそれと認められるのは前の内容が後の内容と同一であると認められるもので、そこに Gleichheit が設定せられる。この同一なることの關係は客觀としては存在しないもので (知覺には存在しないもので) 客觀としては同一をそれ

と把握するを要せず又把握もしないのである。然るに、精神が介在するにいたり、前の内容と後の内容とを同一と認めるから、二の同じ内容に一の關係を設定するにいたる。すなはち、精神は知覺として在る内容に存在しない關係を付け加へるのである。人間はその固有の能力を通じて關係をつくり出す。(Koffka; diese objektiv bestehenden Relationen denkend zu erfassen, und zwar unmittelbar aus den Sehdingen selbst)

精神は關係の認識に於てその固有性から知覺に etwas を付け加へる。知覺には未だ關係といふが如きものは認められないが、精神が介在するにいたりそこに或ものを付け加へて關係を設定する。そこで、關係は新内容として刺戟には少しも現はれない etwas を付け加へる。こゝに、リンドヴォルスキイ氏の二元が現はれるのである、一方には刺戟による無意味な感覺があり、それに Akt が加ふることによつて意味結合が行はれ、これに従つて意味形象 (sinvolle Gebilde) が現はれる。

かくて、知覺は單なる知覺として客觀として在るのではなく、それと共に必ず高級なる精神作用が浸入することによつてリンドヴォルスキイ氏の二元論は克服せられ、理解と了解とを踏み越えて、そこに一體としての精神生活を把握することができらる。

精神生活の二元論的釋解には Konstanzannahme がその基礎をなすのであり、不變的假説の下に、刺戟の Konstanz から必ず感覺の Konstanz が設定せられるとなす。二度現はれし客觀に同一の内容を附與することに

於て刺戟は常恒不變と認められるが、その上又感覺も常恒不變と認められ、こゝに常恒の假説が豫想せられる。常恒の假説によつて現象(知覺)は單に無意味なる感覺として把握せられず、それは有意味の方へ變化を遂げて sinnhaftenden なる關係の把握となり、茲に無意味なる感覺と意味的なる關係の二元を打ち破る。

關係の設定は理解作用によるものではなく、了解作用より生れるものと考なくてはならぬ。(Relationserkenntnis durch den Akt der Relationserfassung) 規則正しく繼起することの設定せられるのは單なる理解によるのではなく、そこには必ず眞の了解が介在しなければならぬ。リンドヴォルスキイ氏はこの意味を表して Wenn wir recht bedenken, müssen wir zugeben, das aus kein physikalischer Vorgang so verständlich ist wie der Zusammenhang zwischen der Erkenntnis der Fundamente einer Relation und der Auffassung der Relation selbst と言つて居る。

但し、リ氏の常恒の假説と分析原理から出發する感覺を以てしては知覺の本質や關係を説明することができないから、更らに、一步を進め、形態によつて説明しなければならなくなる。すなはち、二の内容を同一と見るこれまでの見地は 1+1 であり、Undverbindung の形をとるが、兩者が對 (pair) の形をとれば einheitliche Gestalt の見地に轉ずる。同一の二の内容は單なる Undverbindung につながるにあらず、形態の部分として存する見地によつて正しく同一が理解せられる。前者の見地は兩者が互に孤立する状態であるが、後の見地

は両者が互に結合し、互に影響を及ぼし合ふて存する見地である。關係も亦形態によつて説明することができる。關係は總體的形態 (Gesamtgestalt) の二つの部分として見る場合、そこに關係が如何にして現はれるかを知らなければならない。比較する「こと」を Einstellung として表示すれば、これは形態化の一種となり、それを關係として表示することができるが、この場合、關係は總體的形態の二の部分として成立する。

かくの如き構想を通じて永恒的假説は退けられ、形態説が提出せられるが、これについてコフカ氏はいふ。An stelle des Begriffs der einzelnen Empfindungen tritt der Begriff der Gestalten im Allgemeinen Sinn, in dem er sowohl die Gestalten im engeren Sinn wie die Relationen umschließt. Die Konstanzannahme ist aufgegeben, der unklare Begriff der objektiven, nicht erfassen Relationen zwischen Empfindungen fällt fort, und der Begriff des Erfassungsvorgangs ist durch den im folgenden noch prägnanter zu machenden der inneren Einstellung ersetzt. Indem wir diese zu den Bedingungen der zentralen Gählen, haben wir den fundamentalen Unterschied der Gestalten und ihrer Bedingungen entwickelt.

然らば、Einstellung とは何であるか。判断がその作用のみならず、質料に關するとすれば、判断は質料に關する限り盲目で無意味なりとせられる。されど、既に知覺に於ても意味あるは明かである。判断は多くの要因を

把握したる無意味な成果ではなく、その中には eines phänomenalen Tatbestands, den Beschaffenheit unserer Gegebenheiten, Erlebnisse の表出を認むることが出来る。判断の中には Instruktion の作用が没入する。關係現象は刺戟の集合 (Reizkonstellation) に依屬するのみならず、指示作用 (Instruktion) にも依屬する。指示作用を通じて相關々係にある二の刺戟が集合すべき傾向を生ずる。この二の刺戟は無關係のものではなく、一定の傾向を帯びることによつて eingestellt する。如何なる二の刺戟でも集合するといふのではなく、特定の二の刺戟に限り集合するのである。これを Einstellung 即ち部位につくといふ。部位づけられることによつて一定の反應が起りそこに形態が生ずる。刺戟のないときには形態は生起しないが、そこには形態化的傾向 (Gestalt disposition) があり、刺戟をきつて始めて形態的過程 (Gestaltprozess) を惹起す。phänomenalen Gestalt と Gestaltprozess と Gestalt disposition とは相互に緊密なる關係をつくる。それ故現象的形態を取扱ふ場合、それに含れる形態的過程と形態的傾向とを同時に見なければならぬ。ここに於て形態に關し Besteht eine Gestalt-Einstellung so wird ein ihr entsprechendes Gestalt-Phänomenon auch dann zustande kommen, wenn die Reizlage im „indifferenten“ Individuum ein anderes Phänomenon hervorrufen würde (一定の形態的集合あるときはそれに對當する一定の形態的現象が現生する。但し、無關係な個人に於ける刺戟によつては他の現象を生起する) といふ法則が設定せられる。

心理學がこれまで假定せし感覺はその發生に於て最初に現はるゝものではなく、終りに産出せられしものである。すなはち、遊離過程によつて自然に全體として存在するものを (die natürlichen Ganzgegebenheiten) 分離し、個別存在となせしものである。感覺は自然的な産物ではなく、人工的な産物である。

所與は異つた度に於て形態化されて居り、多少構造化されて居る。所與は多少の度に於て全的過程であり、全體である。それ故、所與は分析原理によつて要素化せしものではなく、全體的特質 (Ganzeigenschaften) によつて貫通せらるゝものである。形態に於ける部分は全體の中に在つて部位につき、全體の部分としての特質を保持し、彼此關係し合ひつゝ存するので、一の部分が他の部分に影響を及ぼさずして終ることはできない。

形態は一部分先天的であり生得的であるが、一部分後天的であり獲得的である。自然説 (Nativismus) は精神を以て自然的な産物であるとなし、それに刺激が加はることによつて變化されるとして居り、經驗説は精神はすべて經驗によつて産出されるものと見て居る。形態は内的要因と外的要因との合成せしものである。内的要因は即ち遺傳的に固定せられし特質であり、外的要因は環境により成立せしものである。そこで、形態は遺傳と環境との産物だといふことになる。形態は刺激と感覺との結合によつて成るとする見地に於ては生得的であり、従つて遺傳的である。形態は遺傳と環境との變化によつて人類の生ける長き世代の間進化し來りしものである。形態は渾沌たる状態たりしものが (chaotisch) Umdverhing の形をとり、竟に固有の形態に進化せしものである。

すべての Gestaltreaktion は内的要因と外的要因との合成するもの。内的状態 (inneren Bedingungen) は遺傳的發展に應じて自づから變化し以て今日にいたつたものである。又反應の形式即ち一定方向をとる形態は突然現出するものではなく、進化の結果産出せられしものであるから、それは個人の所有として一定の傾向として残り將來の反應を決定するものとして成立する。これ即ち Galtdisposition であるが、これ又更にその後の經驗によつて新たなるものとして變化せしめられる。自然説にしても、經驗説にしても、經驗によつて變化せられることには何の異りもない。經驗説にあつては、原始的形態は絶えず生起する經驗によつて刻々變化せしめられるから、絶えず新形態が生産せられる。但し、經驗説の如く形態と形態的傾向とを唯一經驗に歸するのは誤りである。たとへば、空間の認識に於て經驗説の如く、それはすべて經驗の所産だとするのは誤りであり、一定の遺傳的素質なくして空間といふが如き形態構造をなすことはできない。空間を以て全く生得的なものとなす自然説の誤りであるは明かであるが、空間にまつわる生得的な機能を全然拒斥する經驗説も亦正しくない。空間的知覺としての位置や方向は一部分生得的であるが、それは又後天的に刺激によつて變化せしめられる。形態に屬する Reizkonstellation 即ち Reiz-Empfindung-Verknüpfung は生得的な形態そのものであるが、これは無論經驗によつて變化せしめられ、形態の進化を喚び起す。

C 形態心理學と社會事業學

形態論は心理學の外にも適用せられるといふ構想が生じ、それは生理の範圍にも適用するものと解せられつゝある。心身の關係に於て生理に適用せられるのみで毫も心理作用をいれぬ如きことは考へ得ぬから、生理作用は心理作用に影響せられるとすなくてはならぬ。ヴェルハハイマ氏はこれに曰ふ。Wenn überhaupt der Rückschluss von Psychischem auf Physiologisches sinnvoll sein soll dann müssen wir dem Physiologisches sinnvoll sein soll, dann müssen wir dem physiologischen Eigenschaften die wir im Psychische finden, d. h. es muss auch im Psychologischen auf die Ganzeigenschaften grösserer Bereiche ankommen, u. erkennen darf nicht nur gefragt werden と言つて居り、氏は Physiischen Gestaltenなるものを考定して居るのである。この生理的形態は精神系統より成立するものであると考へられる。形態論としての全體的見地はたゞに心理學のみならず、ヴェルハハイマ氏の言ふ如く生理の世界にも適用せられ、又コンカ氏の言ふが如く生理と物理との世界にも適用せられると考へられる。コンカ氏は Er hat gezeigt, das, was wir Gestalten genannt haben, Gebilde, deren Teile vom Ganzen aus bestimmt sind wo alle Teile sich gegenseitig tragen, nicht auf das Bewusstsein beschränkt ist, das man wahrnehmer in der Physik auf Schritt und Tritt solchen Gebilden begegnet, sobald man einmal gelernt hat, sie zu sehen. Damit die Berechtigung der Wertheiner-Problems

über allen Zweifel erhaben. Es gibt auch im Geschehen der anorganischen Natur Gestalten, also es sie auch im Physiologischen geben と力強き斷定を下して居る。

形態論の全體的見地は心理學と、恐く一切の自然科学とに適用されるであらうが、社會事業學の如き了解科學には一層よく適用せられなければならぬ。社會事業學に於て如何に形態論が普く通用せられるかについては私は既に「社會事業學原理」第一篇に於て、精細に分析闡明した。私は社會事業の本質が綜合的のものであること（一篇三章）社會事業概念が消極、積極、綜合、超越の四の概念に區分せられると共に全體的見地をとり、生存原理によつて綜合せられること（一篇四章）、社會事業對象が關係的概念であつて、そこに區分せられたる消極社會事業及積極社會事業に對當する個々の對象の範疇は悉く全體的見地によつて綜合せられるものなることを闡明してゐるから私の社會事業學が如何によく形態心理學の光りを入れるかを了解することができやう。私の研究は形態心理學に依るよりも、一般に全體的見地に依りしもので、この根據から、私の社會事業に於ける Ganzheittheorie が打開されたものであるが、今又更らに形態心理學によつてその基礎を固めうることを愉快に思ふ。私は全體的見地より社會事業を研究するが、又それによつて心理學も研究するであらうし、一切の科學にも亦恐く全體論を擴張適用することができると考へて居る。

コンカ氏は理解と了解とに關し Der Gegensatz zwischen verstehender und erklärender Psychologie

verschwindet. Und er muss es, weil das Erkennen nach der hier dargelegten Ansicht kein naturrender Vorgang ist weil Wert und Sein nicht Domänen der Vernunft sind, sondern im grossen Sein der Welt selbst wurzeln und liegen. この事は心理學に於てのみならず、社會事業に於ても正しい。理解と了解については別に論述して居るが（「了解の限定」に於て）社會事業學に於ても理解と了解とは併用せられる。勿論、社會事業現象を研究するには理解的方法は用ゐられるけれども、それよりも内より把握する了解方法によるべきである。社會事業的現象に於ても、それが外的行動に局限せらるゝ場合には自然科学の如く理解的方法によつて erklären するけれども、社會事業は主として了解によつて内より把握せられ研究せられるであらう。社會事業は了解的方法によつて獨特の個性や人格を把握する。一般的な見本は個性や人格ではないから、それは純粹理解的に把握し研究する外はない。個人や人格は歴史的なもので、全一であり獨特であり、構造と全體との上に把握しなければならぬものであるから、それは形態論的に把握する外はない。こゝに形態心理學と社會事業學との相通するところがある。社會事業の對象たるべきものは獨特な個人と個人性とであるから、他と共通なものはそれによつて求められない。社會事業對象の如きものを把握しうる方法はたゞ了解あるのみである。了解は人格の固有性と構造的法則とをそれによつて把握する。自然科学は繰り返すものを對象とするから（絶對的にはさう言へないが）對象の範疇を設定することができるが、かくの如きことは歴史的な社會事業には類縁のないことである。

社會事業學は形態心理學の光りによつて益々その全體的なものであること、その構造的なものであることを知り、要素心理學的な對象と法則とによつて研究すべからざるを知り、こゝに心理學が要素心理學に對し形態心理學を設定するが如く、社會事業學に於ても要素社會事業學の外に形態社會事業學を區分確立しうるであらう。

参 考 文 籍

1. K. Koffka, Psychologie, Die Philosophie in ihren Einzelgebieten, 1925.
2. W. Dilthey, Gesammelte Schriften.
3. E. Spranger, Lebensformen, 1922.
4. W. Wundt, Grundzüge der physiologischen Psychologie 1908—11.
5. C. Stumpf, Erscheinungen und psychischen Funktion, 1906.
6. O. Külpe, Ueber die moderne Psychologie, 1912.
7. J. Lindworsky, Umrisskizze zu einer theoretischen Psychologie, Zts. f. Psychol. 89, 1922.

8. W. Köhler, Über unbemerkte Empfindungen und Urteilsäuschungen, Zts. f. psychol. 66, 1913.
9. W. Wertheimer. Experimentelle Studien über das Sehen von Bewegungen, Zts. f. Psychol. 61, 1912.
10. H. Ebbinghaus. Grundzüge der Psychologie, 1919.

第十一章 了解科學としての社會事業

一 了解の限定

了解は die besondere Werkonstellation eines geistige Zusammenhangs (精神的關聯の特殊の價值關係) である。それは存在と行動との内的有意味、若くは、人間生活並に行動の意味的關聯であり、乃至、人間の精神的客觀の意味 (des Sinnes einer menschlichen Geistesobjektivation) である。

要素心理學にあつては個人は要素の單なる集合體であり、物理的に眺むれば、それは原子の集合であり、感覺と表象との集合體である。この意味に於て、個人精神は erklären しうるだけで、 verstehen することはできぬ。自然科學的見方に於ては、すべての價值、目的、意味をみだりに分離し、除去する。要素心理學の自然科學的方法によつては Person なるものを了解することはできず、たゞ Sache を理解するだけで、その方法はどこまでも sachlich である。それ故、意味をもつ價值ある目的を對象とするものは了解によつて把握する外はなし。

了解は追驗 (Nachleben) によつて把握する。對象の見方には二ある。第一は客觀世界に關するもので、知

覺によつて把握し、これを普遍につくり上る。かくて、個々を因果關係によつて一般的法則の下に拉し來りて、これを律する。これに對し、精神世界に於ては、自我より發生せし經驗即ち與へられたる事實 (anschaulich Gegebenen Tatbestände) を自我に關聯せしめ追驗することによつて成立する。精神生活に於ては、自我による生活に依るばかりでなく、これを他の精神生活に關聯せしむる。この作用は勿論知覺の仲介を通じ、何等か Objektivaton に關係せしめられるが、その次には、これを Akte des Nachlebens (追驗作用) によつて把握する。この追驗作用によつて自我に依り他我を反省しつゝ把握する作用即ち了解である。

精神生活にも自然界に於けるが如き一般的法則によつて erklären する方法は使用せられるけれども、それよりも、精神世界に於ては了解的方法が多く用ゐられる。了解的方法の特質は内より把握するにありて存し、他の精神生活を追驗によつてその總體的結合の中に als eine Einheit (統一として) として把握するにある。即ち他の精神生活を全體としての人格によつて把握し、その個々の過程は必然的に全體より派生分出するとなす。理解は外より發して一般的法則に達し、了解は内より發して人格の個々の因果的結合 (individuellen Kausalzusammenhang der Persönlichkeit) に依存する。精神生活に於ても、それが外的行動に局限せられるに於ては、自然科学の如く外的な規則が注意せられるから、了解的方法に依存することとなる。殊に、人種を異にし、且つ、文化程度の低きものゝ精神生活の把握は了解的方法による。

了解によつて他の精神を追驗するときは二様の結果を生ずる。一は原精神よりも貧弱となるが、二は原精神よりも却つて豊富となる。第一の場合に於ては、了解によつて原精神は自我によつて部分のみ注意せられて部分化され、かくて他の精神生活は單純化される。第二の場合に於ては、他我の無意識的部分までにも突入し、他我的自省するよりも豊富な關聯を造り上ぐる。これによつて、心理學的には了解は純粹直觀につきるのではなく、reiner intuitiver Nachbildung によるのでもなく、自我が他我をそれに従つて形成することとなる。それ故他我は他我としてその儘觀照さるゝと限るにあらず、自我がそれに添加し、それを變形し、自我に従つて他我を形成し變化することが分る。

了解の特質は全く獨特の個性や人格を把握するところにある。他と置き換へられ、一般的なものとして見られるやうな個性や人格は既に純粹了解的といふことはできぬ。了解の對象は歴史にあり、歴史的存在にある。それは概念化されざる體驗そのものを取扱ふ。全一が獨特なものとして、その構造と全體 (Struktur und Ganzheit) とを現はし、心理學的には形態 (Gestalt) を現はすときに、了解が純粹にその作用をあらはし、追驗生活 (Nacherleben) が最も鮮かにその姿をあらはす。こゝに、人格は全體としてあり、本質としてあり、構造としてあり、geschlossene Einheit としてあり、獨特なものとしてある。それ故、これが把握は、一度限りのものとしてあつて、個性はその固有性の上に動き、固有な個人的法則によつて支配せられるだけである。かくの如

き獨特な固有性は他の精神生活と共通であることも、繰り返へざるゝこともできぬ。この場合、了解は人格の固有性と、その態様と、その構造的法則 (Strukturgesetz) とを直観によつて把握する。了解的方法はかやうな實體のものであるによつて、それは個人のみを對象とし、自然科学の如く對象の範類 (Gattungen von Gegenständen) を對象とすることはできない。人格の統一やその法則は理解によつて把握すべからず、追驗によつて獨特なものとして把握せらるゝのみ。

但し、了解作用と雖も以上の如き純粹なものとは限らない。それは多少客観化し、一般化する場合もありうる。最も客観化せし了解は一般的法則を用ひ、個人とは無關係に規範法則的なるものとして、對象の性質によつて、客観の邊からそれを決定する。次に、他我の精神生活もそれ自づから獨特のものとして見ず、一般的規則性によつて律するときは規範法則的なものとなる。

獨特なる個人と人格との個人性の上に了解すべく、種としての一般性の上に求むべきものではない。歴史的存在としての人間は他と共通なものとしては如何にしても考へられぬ。内より他我を追驗する了解作用は同じものとして他を捕捉するには嚴然たる界限がある。自我と他我とは各獨特なものであり、各他によつて絶對に置き換へられぬけれども、又同じと見らるゝものもあつて規則性の下に統一せられる部分もある。歴史とその世界とは決して繰り返へすことのない人間を對象としては居るけれども、歴史とその世界にもある程度の繰り返へしを認

めこれを定型によつて律する場合には、歴史とその世界にも亦認識が可能たりとの思想に達する。人間は各獨特なもので、それ自づからの統一と領域とをもつが、その間に共通なものがあつて、縦へ、自然科学の如き概念的なものを見ることはできぬとするも、そこにも亦一種の統一があり、これを Regeln, Typen によつて取扱つて行くことは避けることができない。歴史界に於ける規則性はそれを了解する一の臆説である。この假定は他の精神生活は自我と一致するものがあるとする見地による。他我と自我とが一致し、他の民族と他の文化によつて示さるゝ思惟と感性とがこちらのものと一致するとする見方によつて規則性が生ずる。精密に觀れば、そこに各差異はあるが、大體同様と見れば、その間に規則性があり、これを定型にまとめることができる。かくて、普遍的定型科學ができ、普遍的了解科學が現はれる。

併し、歴史とその世界とは竟に獨特なものとして考へるより外はない。歴史に於ける規則性は一の臆説であるけれども、これは便宜上大體似て居るとする見地によつて、一と先づ決定せられたまで、歴史の實體はあくまで個性に終始し、決して繰り返へされぬところにその實體がある。歴史は定型によつて規則化することさへ既に矛盾であると考へられる。歴史哲學的研究は多く思惟の法則に出入して、これを統一化するけれども、そこには乾固したる以而非なる人格が現はれるだけで、測り知るべからざる深さと豊かさとを有する個性はかくの如き方法によつては如何にしても捕捉することができないし、従つて洞察し了解することもできない。歴史とその世界

には個人と、個性と、人格があるだけで、そこには対象の範疇も規則性も統一もない。

個人精神の基調の類似即ち感覺の質や感情の質の類似が求められるが、客觀的には、生得的な意志や關心の方向に求められ、人間の外界に對する生得的な動作の類似が目せられる。それに、人間の倫理的若くは美的特質といふが如きものも類似すると見て規則性が設定せられる。了解科學、精神科學に於て規則性が設定せられるのはたゞこれだけのことである。すなはち、類似以上には定型は出でえず、同一といふが如きは全くありうべからざることである。個人精神間に大體同一であるとする見地によつて定型を設定するまで、嚴に同一なものとしてそれを取扱ふのではない。然らば、定型科學としての同一は假定であり、假象であつて、實在でも實體でもなく。たゞ、それは學の便宜に従つて一度び假定したる假象に過ぎない。實在にそのやうな同一があるのでもなく同一性があるのでもない。歴史とその世界には終始獨自獨特が支配し、繰り返へさないところにその特質がある。

嚴密には自然科學的現象も繰り返へすのではなく、獨自、獨特のものたるに變りはない。

これまで、普遍が専ら注意され、普遍科學の外、學なしと思はれて居たが、その後、特殊にも注意するやうになつた。こゝに普遍を対象とする自然科學から特殊と個體とを対象とする歴史科學が分岐する。すなはち、individuellen Einheiten 及 Ganzheiten が注意せられ、獨特なものとして個人が視野に現はれてきた。

歴史家はその材料を整理するにあつては恣意によつてこれに類別を施すか、対象に従つてさうするかである。恣意によつて、類別すれば、銘々勝手なものとなり、対象によるものは社會的客觀的形象に基き類別を施すこととなる。歴史はその外的な時間空間的事實と、その内側を取扱ふが、歴史が單に外的事實につくる間はこれを嚴密に科學と言ふことはできぬと考へる。事實によつて把握すると言ふけれども事實をつくすことはできぬ。事實なるものは無限の深さと豊かさとをもつが、歴史家がその一側面を抽出してこれを事實と見たからとて無論事實そのものを取扱ふとは言はれない。

歴史の対象たる個人は無限に豊富で複雑である。よつて、その統一的精神や *Einheitsgeist* を簡單に把握することはできない。さうすれば、嚴に個性的であり創造的全體である筈のものを乾固な形式に押しこめて了ふ。部分を集めて全體をつくるといふが、全體は要素と要素間の關係による全體であり、構造であり、乃至、*Gesamt* であるが故に、全體の有機的統一はこの方法によつては現はれぬし、又つくされもしない。こゝに歴史科學は個性を研究の対象とするものであるとする結論が重ねて成立する。個性の本質は全體を通觀することによつてえられ、要素の一定構造によつてえられ、全體にまとめる見地によつてのみえられる。歴史科學に於ては個性に終始するから、その普遍たるや概念的なものでなく、たゞ定型によつて齎らされる。定型はその中に獨特にして他によつて置き換へられざる無限に多き個體を抱擁する。定型は個體を收結するけれども、それは又獨特なものであ

るから、一度限りのもの獨特な存在であるといふことになり、たゞその上位の全體の部分たるをうるのみである。物理學的原子や生物學上の個體はその屬する個體や種の事實上の單位であるが、歴史上に於ける個人はたゞへ定型にまとめられても、事實上の單位たるにあらず、單に論理學的關係に於てさうだと言ふに過ぎぬ。

自然科学的存在は分析的統一 (analytic unity) で、機制 (system) によつて表示せられ、歴史的存在は綜合的統一 (synthetic unity) で、「全體」によつて表示せられる。分析的統一は全體の要素關係によつて成立し、要素が集まつて機制をつくるところにその面影がある。この場合、全體は常に要素の分析によつてその實相を明かにする。全體はそれを構成する部分と要素とを説明するから、この意味では、全體は部分に先立ると言へるが、又全體は部分によつて説明せらるゝ限り部分は全部に先行すると見られる。部分と要素とは全體に關はり合ひ、全體の機制をつくる。この機制は分析することによつて部分や要素にほゞされる。よつて部分は全體によつて説明せられ、共通的形式 (Common formula) によつて説明せられるが、全體は又部分や要素によつて説明せられる。かくの如き分析的統一若しくは全體が自然科学的存在である。

これに對し、歴史的存在は綜合的統一體であり、「全體」によつて表示せられる。綜合的統一は多が一に集合するといふよりも、多によつて成立するものは、その寄せ集め以上の全く別の創造的全體である。グント氏の schöpferischen Synthese が斯くして現はれる。この場合、統一體は部分や要素の統合によつて現はれず、そ

の構造によつて現はれる。形態心理學上の形態は全くその要素とは別の存在である。分析的統一は理論的思惟 (discursive thought) によつてほゞされるが、綜合的統一はたゞ直觀によつて洞察し把握しうるのみ。體驗や全一や綜合的統一を把握する研究方法はたゞ直觀にまつ外はない。

自然科学も歴史科學も説明するには全體の中より何か抽出しそれを基準としなければならず、こゝに基準原理 (Auswahlprinzip) が導入せられる。科學はその説明のために思惟經濟の原則によつて、何等か特殊なものを抽出しなければならぬ。リツケルト氏はこれに應じて、自然科学は法則の見地よりその資料を選み出すが、歴史科學は價值の見地よりそれを選出すると言はれる。そこで、自然科学に於ては普遍に向けられ、歴史科學は個人に向けられ、直接間接價值に關係することとなる。自然科学は法則的科學 (Gesetzeswissenschaft) であり、歴史科學は個人的なもので、價值の見地より選出する事實科學 (Tatsachenwissenschaft) である。政治的歴史家は國家を至上の價值運載者として選出し、藝術家は藝術上至上のものを、宗教家は宗教上至上のものを最高價值運載者として選み出す。かくて、歴史科學はどこまでも個人的であり、その對象は獨特なる個體であると言ふことになる。

但し、嚴密には自然科学と歴史科學との間に根本的な區別はないし、法則的科學と事實的科學との間に打ち越すべからざる差別はありえない。科學は凡て Allgemeinen によつて抽象的普遍を促えるか Ganzen によつて獨

特な個體を促えるかである。科學はその間に多少の意味の差異はあつても（自然科學と歴史科學との間に）いづれも普遍と個體との兩方に向ひうるのである。歴史科學は主として個體に向ふけれども、それは又定型によつて普遍にも向ふ。定型と普遍とは同じ性質のものではないが、特殊を取りまゝとめて共通なものとする見地からは全く同一である。自然科學は主として法則に向ひ、普遍を基準とするけれども、それは又、個別に向ひうるのである。すなはち、自然科學に於ても普遍的な自然科學と個性化的自然科學とがある。個性化的自然科學に於ては地理、地誌、歴史的地質學の如き個性的なるものがある。これ等個性化的自然科學に於ては要素や部分を集積することによつて研究されず、個々の事實によつて研究が進められる。これ等の科學は「多」について研究されず、多の中に「一」を發見することによつて研究される。すなはち、全體に意味をもつが如き個々の事實が選み出されるが、この全體は又一層高次の全體の部分たるべきものと見られる。

自然科學に於ても、歴史科學に於ても、その向ふところは何づれも Kosmos を披開せんとするにあり、二の異なる方法即ち法則と全一 (Ganzheit) とを用ゐて或は普遍的に或は個性的にその實相をつくさんとする。この二の異なる方法は自然科學と歴史科學とに併用せられるけれども、主として個性的に究明するものは歴史科學であり、主として普遍的に究明するものは自然科學であるといふに過ぎぬ。歴史科學と自然科學との間に何等根本的差異なるものはない。自然科學に於ても嚴密には繰り返す現象を發見しないのであるから、かくの如き意味に於けるが、この全體は又一層高次の全體の部分たるべきものと見られる。

自然科學は又歴史科學と見做すことができる。これまで區分されたる自然科學と歴史科學とはその當然行くところまで辿りついて居ない憾みがある（科學の分類については拙著「社會事業學原理」第二章参照）

個別的見地からは自然科學も歴史科學も選擇原理によつて價值あるとするものを選び出して全體を説明する。自然科學に於ても歴史科學に於ても全體と部分とを分ち、すべての個體は全體を説明するに役立つべきものとして價值的見地から選擇せられる。

實在は竟に捕捉することはできず、Kosmos は竟に接近し披開することはできない。自然科學方法によつて能きなければ、歴史科學的方法によつても未だ不完全である。それ故、實在やコズモスは竟に披開することができないのである。理解的方法によつてそれを披開することの能きないのは無論として、了解的方法によつても十分に披開することはできない。いくら了解作用によるとは言へ、そこに或種或程度即ち多少の symbolisch なくして實在を把握することはできない。歴史的存在は無限に多様で無限に奥祕であり、更らに、それは全一として多様とも奥妙とも名づくべからざる超越體であるから（神祕的なものではなく、自がまゝ存在するものとしては自然物ではあるが）實はこれを捕捉する術がないのである。普遍といふが如き實在の斷片によつて實在そのものを捕捉しうるとは考へられないが、追驗によつて内的に實在を捕捉せんとする了解によつても竟に如何ともすべからざるを見出す外はない。了解によつても無限に多様な複雑な他の精神生活の一部分を選み出す外はないから、そ

れを以て全體に擬することはできない。この場合、完全なる *Nachleben* といふが如きものはない。歴史的方法を以て了解的方法によるとするも、その間にいくらかの抽象が施されざるを免れない。實在に直面するのでなければ、實在そのものを見入つたのではなく、抽象として出来上つた實在の一部分を見とどけるだけである。歴史的存在は超個人的な *Wirkungszusammenhänge* であるが、それは實際は部分に分離し遊離するようなものではない。そこには分離すべからざる全體があり全一が横はるだけである。それ故、歴史上の説明と雖も *Wirkungszusammenhänge* の中より一部分を取り出すだけのことで、如何にしても抽象化の作用を免れることはできない。歴史的實在なるもの竟に捕捉することができなと言ふことになる。かくて理解を以てしても、了解を以てしても、全き *Kosmos* は竟に不可知として終る外はない。最も實在に近接する方法は洞察と悟了とがあるだけで、その研究方法は直觀の外にはない。

二 了解的方法

最近、獨逸では社會科學に關し積極論を排して了解 (*Verstehen*) に依り、説明、概括 (*Begreifen*) 若くは理解 (*Erkennen*) に對立して居る。獨逸の社會學者は了解を以て唯一の妥當なる社會學的認識方法だと見る傾きを生じたが、これはゾンバルト氏によつて先づ明示せられた。ゾ氏は社會學は自然科學に對立して文化科學

であり、次に精神科學であり、最後に了解科學であるとなし (... *das Soziologie eine Kulturwissenschaft das heist eine Geisteswissenschaft, das heist aber verstandene Wissenschaft sei*) 精神科學として了解の認識方法のみが妥當だと考へる。社會學は唯一了解科學である事に關して、ゾ氏は獨逸社會學者は絶對的支持をそれに捧けると言つて居る。但し、ゾ氏は當時社會學を了解科學であるとする事については詳細なる論議を發表しなかつた。

ゾ氏についてズバン氏も亦社會學的方法を以て自然科學的方法とは全く別なるものと見た。ヅキゼ教授は明かに社會學を了解科學と解し、了解的方法を以て社會學的方法となすべきだとし、オツパンハイマア氏がゾ氏に對する非難としての *Erst wenn er (der 2 Teil Allgemeine Soziologie von Wiese) vorliegt, werden wir erkennen können, of sein Verfasser seinem programm durchaus hat tren bleiben können die gesellschaftlichen Institution nur von innen aber nicht als ausserhalb der subjektiven Beziehungen vorhandene und wirkende Objektivitäten zu betrachten* に答へて、ヅ教授は唯一了解的方法のみが社會學に用ゐられ、外的としての *faits sociaux* に對し、それは内的に研究さるべきものだと言つてゐる。ゾンバルト氏は自然科學的認識一元論に對して認識方法の多元を支持し、社會科學には多くの認識方法があるが、殊にその中に説明的なるもの (*Begriffend-erklärende*) と了解的なるものがあるとした。また、

ゾ氏は理解的方法はただ自然科学に用ゐられるだけで、社會科學には用ゐることができぬと考へる。ゾ氏は自然科学的方法と精神科學乃至社會科學的方法とを峻別する。社會科學的方法は外より内へではなく、内より外への方法に依る。自然科学は外を認識し *begreift* するが、社會科學は *von innen nach ausen erkennt, d. h.*

den "versteh" だとする。ゾンバルト氏はいふ「了解は文化科學に對してのみ言はるべきで、了解は自然の領域に擴張することはできぬ。それは高等動物に適用する場合の如く似而非了解である。眞の了解はそんなものではなく、それは固有の領域に止まらねばならぬもの。私は犬を了解することができぬ。なぜならば、犬は精神をもたぬからである。私が犬の行動を了解することができないのは如何なる意味にもそれを關聯させることができなからである。それは、つまり似而非了解である。文化領域に於て了解が妥當なる認識的形式であるとする私の説が何等他の領域にそれを適用することを拒みはせず、又事實適用せられて居るのであるが、ただ私は如何なる權利に於てそれを適用するかを反問するだけである。哲學はそれ自づからの自由なる權利を全然保有する。そこに有意味的に文化哲學若くは社會哲學を實行すること、すなはち、人間的結合生活を形而上學の領域に取り入れてならない何の理由もない。然るに、自然科学的認識方法を精神科學や文化領域に適用することについては全くこれに反す。一般に自然科学的方法是社會的乃至文化領域に適用せられて居り、高き認識の形式たるが如く考へられて居る。これに對し、了解的認識方法は未だ一般に知らるゝにいたらない。私は自然認識は單なる代用

物たるを明かにしなければならぬ。それは最も精確なる場合に於てさへもさうである。自然認識を以てしては本質的認識に達することはできない。それは單に自然現象を組織して法則につくり上げるだけである。神に對しては自然に於ける法則といふやうなものは存しない。神はその精神を了解するが如く、自然をも了解するであらう。恰も我々人間が固有の精神を了解するやうに。了解は文化に對しては獨立な有効な認識方法である。併し自然科学的方法を適用せざるべからざる場合があり、その方法を用ゐて社會的文化過程を取扱はざるべからざる場合がある。然る場合にはそれに相當する認識方法が現はれる。そこに了解の界限に達する場合が考へられる。了解的領域の見地からは了解は意味關聯 (*Sinnzusammenhangs*) の範圍内に限られるが、その下その上の場合が考へられる。了解領域の界限下の場合は無意味なるときである。たとへば、個々の外的表章などの如きもので何の意味もないものであり、人間の行動を附加しても何の意味も生ぜざるものゝ如きそれである。無意味なるものは了解することができぬ。非合理は合理に對して了解することができるとしても、無意味は了解することができぬ。或は人間の行爲、文化が自然に固着せしとき、たとへば、血の精神、身體の精神、人種の精神、總ての環境の影響、總ての遺傳的程度、總ての性格の影響などを考へうるが、それは總て了解することができぬ。また生物學的過程、時に兒童の生産といふが如き人間に重要なことさへも了解することができぬ。こゝに自然科学的認識はたゞ所與の組織的認識 (*blos ordnende Erkennen des Gegebenen*) として存するだけである。自然の過

程、その規則性は不了解なものとして人間に蒞むのみ。了解の上の方への界限は經濟、證據、直接的體驗を超越する場合、思惟が超越界に衝突するとき、たとへば、經驗的超越であるとき、意味關聯が文化思想を通じて與へられる界限を超越するときに現はれる。世界の意味、人間の意味、生命の意味などは了解することができぬ。神の恩寵のはたらきは天才の人間、天才的創造の形を以て了解することができぬ。すべて精神的な創造は了解することができぬ。」

Rothacker氏は社會と經濟との領域は了解を以て取扱ひべきものとなし、その上、精神科學或は文化科學—藝術、宗教、言語などは了解によつて取扱はるべきものであるとす。了解への知識はゾンバルト、マックス、ウエーバア、デルタイ、ベック (Boeckh) ヘルデルによつて増加され、その度を増した。自然科學的な理解的方法の一によつては世界の祕密を悉く披開することはできぬ。積極論によつては表面的な狭小な世界を考察することができぬのみで、その内秘に入り込むことはできぬ。積極論は生命の内秘と具象とを探るには不適當で、それは外的な鎖未な知識を露出するだけである。それは Rothacker氏が Bedeutende と名付けしものを把握することをうるのみで、ただ計算されるべきものが把握せられるだけである。それ故、それは直接的に感得しうる質料を蒐集し、それを組織立てるだけである。この方法によつては現象のうちで最も重要な部分としての精神を取り残すこととなる。この方法によれば認識は外的に止り、鎖未なもののみが把握され、それを深化し、Sphäre

des Menschentums の内秘を披開することができぬ。人格の内的豊富や世界の無限の内秘の把握は自然科學若くはその方法によつて如何ともすることができぬ。

そこでゾンバルト氏の論旨は次の五に要約することができるであらう。(一)精神と動機的了解 (Seel-oder Motivationsverständnis) のみが了解せられる。(二)了解の他に二種たる意味了解と物的了解 (Sinn und Sachverständnis) は了解の範圍に入らずして理解 (Begriffen oder Erklären) の範圍に入る。(三)社會學は總て他の文化科學の如く了解と理解とによつてその研究を達成す。(四)動物に對し人間は Seelenverstehen としの特徴をもつ。(五)人間は心靈化し、單に神をもつにあらざる故に (weil wir beseelt sind, nicht, weil wir Geist haben) 了解することができる。これに對し、ツキゼ氏は一より三までが社會學の研究對象となり、第四は人間社會學を超越し動物社會學に突入することとなり、第五は一般認識の範圍に入るべきものであり、ゾ氏が Geist と Seele とを分立するのはソクラテス、プラトーン、ヘーゲルの傳統をくみ唯心哲學に出入するから不可であると言つて居る。

文化科學に於ける單なる ordnende な外的に感得せらるるに過ぎざる認識は人間行動の動機の把握によつて補はれなければならぬ。ゾ氏の Seelenverstehen は文化科學の認識方法に關するものである。ロートハツケル氏は「了解とはただ道德的現象に關する。了解は實在それ自體に關することではなく、人間に關係する實在に關す

る。人間はただに存在物としてではなく、存在と行動とを不可分なものとして取扱ひつゝ、はたらくつゝ、改めつゝ、威張りつゝ、神與へるものとして、熱心に、合理的に動きはたらき乍ら進むところの道德的存在物である」と言つて居る。ゾ氏は「自然科学では因果關係の性質探究に深入りせぬ。現代の自然科学は因果の探究を形而上學に譲つて居る。但し、文化の範圍では因果は明かなる實在であると言ひえられる。併し、社會生活を原因とするところの促進するところの力と解するとも、それを動機に止めなければならず、動機以上に進むことは禁ぜられる。然らざれば、無限に溯らなければならぬ。動機外に在るすべてのものは人間行動の、根據、その條件となるものであり、文化領域の因果關係はたゞそれだけのことで、原因即動機である。我々は Geist を通して Seele を了解する。心靈の參與する精神によつて了解するのであり、かくて、精神によつて特定の所與に對する意味的行動が了解され、意味の充足する行動が了解されることになる。なほ、すべての行動は Geistbezogen であるが、人間社會のすべての行動は少くも ordnungsbezogen である' (d, h, einer Ordnung eingefügt ist, so ist auch jedes Motiv in einen Geisteszusammenhang, in ein besonderes Beziehungssystem einzuordnen, so wie, wie wir vorhin sahen, in einen Sinnzusammenhang die Einzelercheinung einzuordnen ist. Dieselbe Handlung ist also verschieden motiviert, je nach dem Sachzusammenhang, in dem sie sich vollzieht) それ故社會學に於けるすべての心理的範疇は歴

史的であると言ふ斷定に達する。動機はただ特定の客觀的歴史的 Kultursituation に gelten するのみである。ゾンバルト氏の因果の觀念を精神界に導入せしむるに關しては無論異論がある。Wack 氏は「psychischen Verstehen を以て Kausalen verstehen と同一視する」とはできぬ。精神界に Kausalverstehen を導入することはできぬ。そこにはただ Motivationsverstehen と Sachverhalt が言はれるだけである」と言つて居る。ヴェゼ氏に據れば、了解は一部分因果的、一部分目的的 (final) であり、一部分原因に關係なく目的によつてのみ進むところの内的過程であり、一部分因果的で、其精神的なものは了解作用を通じて因果を把握し理解的外的因果として現はれる。

ゾ氏は人間の行動の動機の外に原因を求むる要なく、精神的なものは非精神的なものに還元することができぬと言ふに對し、ヴェゼ氏は精神的なものは少なからざる部分を社會的なものに還元し、又、社會的なものは非精神的な要求に還元せられると言ふ。非精神的なものはゾ氏に従へば單に Bedingung であるが、ヴェ氏は原因と要件とは嚴密に區別することをえず、彼此出入するとすつて居る。その外、ゾ氏の Seele durch Geist によつて了解すといふに對し、ヴェ氏は Seele durch Seele にならねばならぬとす。

こゝに、ゾ氏は三種の了解を區別する。第一 Seele-oder Motivationsverstehen によつて了解するとすやが、ゾ氏の Seele-oder Motivationsverstehen といふもののものはその對象が handelnden Menschen である

ある場合である。第二、その Sinnverstehen といふもののものはその対象が Ideen, Formen, Schemata である場合で、了解が第一条件たるものである。第三、Sachverstehen といふもののものはその対象が歴史に於ける客観的精神たるべきものである。

Sachverstehen には實際は本質的な精神的活動が介在する。それは人間の動機の了解には補足たるべきものであり、その過程によつて人間的造成としての客観體が意味關聯に於て整序 (ein geordnet) される。このはだらかは文化科學には不可欠なものであるが、それは自然科学による Begreifen たるものと共通である。Sachverstehen は理解に關する。それ故、こゝでは了解と理解とは區別しがたきものとなる。社會科學に於ても理解の作用は自然科学の場合と同じく重要である。了解を精神科學の範圍に限るとも、社會科學は了解の一を以てつくすことはできない。人間界の複雑多岐なる動機の深き了解のみを以てつくすことはできない。それ故 Sinn- und Sachverstehen にも理解がいり、それは Seelenverstehen を欠くことはできない。

ツキゼ氏は了解と理解とは畢竟同じ思惟活動によるものだとして次の如き斷定を下して居る。

Verstehen scheint mir in einem inneren Mit- und Nacherleben, des meist unvollkommen bleiben muss, zu bestehen. Das Organ des inneren Erlebnisses ist nur das Gefühl oder die Empfindung. Wie wir nachträglich das was wir fühlen, zu denken versuchen, so ist mit

dem Verstehen ein gleichfalls nachträglicher Akt des Rationalisierens verbunden. Bei dieser Verstandesoperation, dem zweiten Akt des Verstehens handelt es sich aber um genau dieselben Denkopoperation wie bei Begreifen—Ich weis sehr wohl das Verstehen nicht nur in „Einführung“ besteht, und verweise auf die Fülle von Arten des Verstehens, die Müllers Freireifels unterscheidet. Es gibt auch ein erkannt-rationales Verstehen; es scheint sich mir jedoch deutlich als eine der vielen Mischerscheinung von Begreifen (Erkennen, Erklären) einerseits und Verstehen anderseits zu erweisen.

かくてツキゼ氏にあつては結局自然科学と自然科学的理解法が主位を占め了解的方法是副として補充するものとして坐位を占むるに過ぎないのである。ツキゼ氏に従へば了解とは Seelverstehen のことであり、Seele versteht Seele たるべきものである。但し、すべて Seeliche なるものは自然の内に存し、その部分であるから、了解は自然認識の斷片といふことになる。それ故ツキ氏にあつては Wissenschaftliche Erkenntnis ist von allem Begreifen und Ordnen. Aber das Ordnen ergänzt und vertieft durch das Verstehen und ist ein Ding, das durch das Verstehen und Verstehen zu verstehen ist.

ウェーバア氏の了解的方法是志向 (Intention) 殊に主觀的に思はれたる意味 (Subjektiv-gemeinter Sinn) に關

係する。ウ氏の社會學では意味 (*Meaning*) が中心をなして居る。社會的行動の志向が社會學の中樞をなして居り、社會學とは社會的行動を解釋し了解し、それによつて行動の経過と結果とを因果的に説明する科學である。社會學に於て取扱ふ行動は交互的な社會的行動である。交互的社會的行動とは *soziale Beziehung* のことであるから、この意味に於て、社會的關係を社會學の中心問題だとするウ氏の説はジンメル、ヴェーバー、フイアカントに相通するものであると言へる (但し、ウ氏は社會的關係のみを社會學の中心問題だと見ないが) ウ氏の交互的社會的行動とは二人若くはそれ以上の人間が志向によつて交互に集結するものをいふ。

はたらく個人の行動には意味が付着するが、それは客觀的意味ではなく、また、形而上學にいふ眞の意味でもなく、現實的に思はれたる意味である。尤も、行動の意味は顯明なものであるとは限らない。意味づけられたる行動には程度の差がある。意味の最も顯明な行動は明かに限定せられ、その實現に向つて合理的に適當なる手段を動かすものであり、意味最も不明なるか若くは無意味で、その實現の手段が先見を以て選擇されざる反射運動の如きものは意味に關係のあるものとは言へない。この兩端の間には意味程度の異つた無數の階段が存在する。行動の意味を了解することが中心問題であり、行動の解釋が大切であるが、この場合解釋とは特定行動に意味を付することである。了解可能であり、解釋によつて意味づけうるは人間の行動に特有なもので、自然現象にはかくの如き意味づけや解釋はなく、自然現象の意味づけは餘分といふ外はない。

社會學は意味づけを行ひ、それを了解しなければならぬ底のもの。顯明なる意味によつて因果關係が設定せられるが、意味は行動が特定の方向にをもむく志向のことである。志向 (動機と目的) によつて社會學的行動が生ずる。但し、動機と主觀的意味によつての解釋は心理學的な解釋によるのではない。心理學的解釋と了解的解釋とは全くその性質が異ふ。

心理學的解釋は心理的過程たる本能とか基本的慾望とかに人間の動機の行動を還元することによつて説明するが、了解的方法は人間の行動が働く個人によつて客觀的立場に與へられたる限定若くは解釋によつてなされる。すなはち、心理學的方法では社會的行動の了解はそれを原素的な心理的事實にほぐることにあつて存するが、了解的方法では一定行動に主觀的な思はれたる意味の付着することに依つてなされる。かくの如き立場は *Dilthey* まで行く。

デルタイ氏は心理學を二種となし、一を實驗的方法に用る自然科學的に究明するものとなし、二を精神科學的に究明するものとなす。前者は外的な自然現象を扱ふもの、後者は直接經驗によつて與へられたるものを扱ふものとする。これに對し、二の異なる研究方法が現はれなければならぬ。自然現象は外的に把握せられるが、實在と *lebendige Zusammenhänge* は内的に把握しなければならぬ。これに應じ、自然現象の關聯は假説の手段によらなければならぬが、精神科學に於てはその對象は *Zusammenhänge des Seelenlebens* であつて、内觀に

よつて、直接的に把握せられるだけである。自然は *erkennen* しうるが精神と文化とは *verstehen* される。よつて、歴史、精神生活及社會には自然科学的方法と異なる了解的方法が用ゐなければならぬ。直接経験を對象とする精神科學的心理學は社會、歴史、藝術宗教にはたらく内的關聯の分析を事とする。かくの如き心理學の研究方法は *innere Wahrnehmung* によるものとなり、それを唯一のたよりとして、感官の中介を通さず對象を分析把握する。

ウェーバ氏の了解とはフイアカント氏の如く哲學的な現象論的なものではない。文化的乃至社會的現象は人間の行爲に付着する意味を離れざるもの、行爲者より主觀的に思はれたる意味に基くものである。人間の行爲は客觀體に向けられるが、それは一定の結果を齎らすべく志向し、その結果を確定することによつてそれを意味づけ、かくる行爲のみが(その他の行爲にあらざる)行はれると了解するところにウ氏の了解的方法の眞義がある。了解は人間行爲の解釋に基き主觀的に思はれる意味を設定することに關する。かくの如き意味を把握すること即ち了解である。かくて、すべての文化科學若くは社會科學は意味科學となり、社會學も社會事業學も意味科學のうちへ編入せられる。

ウェーバ氏の精神科學、社會科學に於ける普遍化は定型によつてなされる。社會科學に於ける一般的法則は繰り返り返へすことによつて因果關係を設定するところの自然科学に於ける法則と同じ構造をもつが、社會科學に對しては法則といふ程のものは設定せられぬから、定型を以てこれに應ずる外はない。社會科學に於ける法則は蓋然 (*probabilities*) によるもので、一定條件あればそれに従つて、恐く一定の結果あるべしといふ程の蓋然的なものである。社會科學は定型によつて自然科学の普遍化と略同一な結果を行ふ。社會的行爲は歴史的なもので、端倪すべからざるものはあるが、その中に略繰り返り返へす *typical chances* なるものがあり、それによつて社會的行爲を捉えて普遍化する。

但し、かくの如き社會行爲の普遍化は經驗的なもの、科學的なものであつて、超經驗的若くは哲學的なものではない。社會科學的研究方法と雖も何等主觀的な恣意に居るのではない。それは矢張り精神過程の分離、抽象、概化によるもので、客觀的に正確なものである。それは事實的な資料によつて確めべきもので、經驗と觀察とによつて概化されるものである。かくの如き概化は自然科学にあつては數學的に確定しうる相關係であるけれども、文化科學、社會科學にあつては偶然的結果にいたるべき性質をもつ *probable chance* による定型である。社會科學は具體的な現象のうち経験的に定型をつくり出す。これは歴史の如く本質的で獨特な對象を取扱ふものではないが、定型として社會現象に概括を與へる。かくて社會學も亦行爲に關する一般的法則を設定し、それを定型的概念に變化し、行爲の定型と、その規則性とを設定する。但し、定型的概念やその規則性はそれ自身目的にあらず、たゞ手段たるべきものであり、それは具象的な歴史を固定し説明する道具たるに過ぎぬ。定型

は客觀的實在たるべき精神的描寫による生産物ではなく、また、それは客觀と存在とに關するよりも、カントの言ふが如き形式原理であり、單に、經驗的に與へられたるもの、混亂を組織化する手段たるに止る。それ故、定型は類型化することによつて客觀化するのではなく、従つて固定し硬化して不變な態様をつくるのでもなく、立場の異なるに従つて變轉自在に再造され、改造さるべき性質のものである。

次に、社會的知識は相對的である。社會科學に於ては如何なる立場 (situation) から問題が提起されるかに従つて概括が異ひ、社會生活が變化することによつても亦それが異ふ。社會科學は經驗的な實在に形體を付與し、對象の活動に應じて新形體をつくり出す。社會科學を以て自然科學の如く固定し確定する概括をつくり出すとするのは誤りで、それは單に實在を把握する手段たる行爲の規則並に型式を用ゐて對象を類型化する。普遍的概括を相對的なものと解し、それを取扱ふのであるが、素より實在としての歴史は測り知るべからざる無限に豊富なもの變化限りなきものであるから類型を以て精神現象を固定しうるが如く考へるのは謬妄であり迷想である。その外、眺める見地に従つて概括は異はなければならぬ。人生は無限の流動と變化とより成るが故に恣意にこれを固定しなければその見地も亦無數と考へなくてはならぬ。實を言へば、歴史は流動と變化と創造そのものであるから、これを固定することは全く望みなきことである。個體を形ちづくる要素の集合體は獨特なもので、他によつて置き換へることの能きるものではなく、これが社會科學の特殊の對象となつて居る。かくの如き變化と流動

との中に、また、獨特の個性のうちに概括を求め普遍を欲する事がそれ自づから矛盾する。それは自然科學的な法則や概括により、又、類型によつて固定しうると考へるのは誤りであり、社會的實在の具象性を法則や概括から引き出さうとするのが既に對象の性質を誤認するものである。唯法則や概括は社會現象を固定し、それを靜視する方便に外ならぬ。社會科學に於ける概括は一般的に個々の場合に應じて斷定を下すべきものとして役立つにはあらずして、たゞ因果關係の妥當を表示するものたるのみ。

社會科學的對象が歴史的實在に近く、一方、抽象的であらなければならぬと共に、他方具象的であらなければならぬから、これに對して自然科學の如き嚴密なる法則や概括をつくり出すことはできず、又、能きても、それは社會科學的對象に相應しない。社會科學的對象は抽象的であるが、それと共に具象的でもあるから (それが自然科學的對象と異るところ) 歴史を抽象化することの妥當でないやうに、社會科學的現象を抽象し概括することも妥當であると言へない。それ故、社會科學に於て法則をつくり出すとしても、成るべく流動を殺さないやうに、變化を除かないやうに、ゆるやかなる抽象と概括とを施し、經驗的實在に即して十分具象的であるが如く作爲しなければならぬ。この場合、自然科學に於けるが如き嚴密なる法則や概括をつくる誘惑にかゝつてはならぬ。

歴史は最も具象的で、實在そのものであるが、次に、文化科學乃至社會科學的對象も亦半ば具象的で歴史に近

くそれは歴史と自然科学との中間にあるものであるから、一方歴史に似て變化と創造と個性とにより、具象に近づくが、他方自然科学に似て抽象と概括とによつてその対象を固定しやうとする。社會科學は自然科学の如く法則化するが、又歴史の如く流動と變化とを保存する。かゝる性質をもつ社會科學はたとへ法則化すると雖も十分具象たるべく力めるは當然であり、それが抽象化する極社會現象を了解することの困難となるは諸易き道理である。

社會現象は歴史に次いで變化と個性とに富むから、それは雜多であり、その一方を高揚するにあらざれば顯明性を高むることができぬ。歴史的行進としての社會現象には諸々の要素が混合し、それが又有機的に結合するから、何が何やら正體の分り兼ねるものではあるが、その要素の一々を切り取りこれを高揚し、*einseitig* なものとなせば、その顯明性の高まるは自明である。ウエーバ氏の理念型概念はかくして生ずる。理念型概念は疑ひなく意味を付與し、対象の顯明性を高むるために、混合する實在の中より一要素を取り出だし、それを一方的のものとして明瞭なもの確定するものにつくりかへる。これ即ち純粹型として対象を確定する方法であつて素より實在としてかゝるもの有りうべからざるは自明である。それは實在ならぬ理念的なものであると言へる。自然科学に於ては *reine Typus* としふが如き概括は現實としとありうるけれども、社會科學に於てはそれは現實ならぬ理念としてあるだけである。複雑を極むる精神現象社會現象に對しては其明確を期するに當り、現象中の雜多

な側面より一側面のみを切り離し、これを人為的に遊離して理念的構成物となし、これによつてそれを代表せしめ、その實在を彷彿せしめて了解する外に途がない。

Idealtypus は綜合的対象の一方的強調によつて一以上の側面を高揚し、その *Steigerung* によつて人為的に対象の性質を確定する。勿論、一方的に高揚する類型はその立場の異なるに從つて異なるものとして選み出されるので、確定不動のものではない。諸々の理念型はその立場によつて各異なる出來事を表明するであらう。理念型概念は具象的な出來事を比較し測定する道具である。かくて理念型概念は社會科學に於けるグラハム法則ニュートンの引力の法則の如き役目をつくす。自然科学に於ける概念の如く社會科學に於て理念型概念は同様の働きをなす。

ウエーバ氏の理念型概念は *Gattungsbegriffe* と *Durchschnittsbegriffe* ともなる。

社會的事實に對し一般的概念は用をなさぬ。個々の出來が種に統括さるゝといふように、一般的概念を以てしては社會的事實を概括することはできぬ。多くの出來事に共通するが如き事象は一般的概念によつて取扱ふことができるが、事象のうち特殊なる性質を強調せざるべからざるが如きものにあつては一般的概念は用をなさぬ。平均も亦社會科學に適用することはできない。平均は同一なる意味による行動が、たとへ程度を異にするとは言へ、同じやうに現はれるときに用ゐられるが、社會科學にあつては異質的動機に影響せられるを免れぬから、平均

などといふが如き方法は用をさせぬ。

それに對し一若くは數側面の具象的事象の一方的高揚を行ひ、これを Einseitiges Gedankenbilde とするときには所謂理念型概念を構成する。側面の選擇は具象的事象を分析せんとする見地の如何に従つて定められる。理念型概念は如何なる點に於ても社會科學の概念的表出構成の要求に一致するものである。理念型概念は現實的なものではなく観念的なものである。理念的構成は單に論理的要求に應ずるもので、それは經驗的に實在し妥當するか否かを問はぬ。なほ、それは歴史的實在の眞の内容をなすか、その本質をなすか關するところではなく、また、それは論理的構成物だといふまで、その中に價值づけられたる何ものもない。それは論理的完成體である外何でもない。但し、理念型概念は偶然的な構成物ではなく、客觀的蓋然性をもつものであり社會的行爲とその動機との經驗的知識に合一するのである。

理念型概念によつて歴史に若干の統制を施し、抽象を加ふることの能きるやうになり、こゝに、了解的な社會學も社會事業學も成立するにいたる。

參考文獻

海野幸徳「社會事業學原理」一篇九章 「社會事業研究方法」に用ひし參考文獻に同じ。

第十二章 技術的社會事業と科學的社會事業

一 技術的社會事業

社會事業は技術 (art) であつて、科學的でないといふ見解がある。Harold A. Phelps 教授は It may not be scientific Social work と言ひ、科學的な社會事業はありえぬと言ふて居る。但し、社會事業は科學の基礎に立ち、それを應用するものであるから、humanitarian social work といふものとも異つて居るといふ。人道的社會事業とは素人社會事業の別名であつて、單に善心の故により、單に宗教的熱情によつてなされる社會事業の謂ひである。そこで、社會事業は科學的社會事業でもなく、人道的社會事業でもないといふことになり、科學にあらぬ非科學にもあらぬといふことになる。然らば、科學にもあらぬ非科學にもあらぬ社會事業とは何の謂ひであるか。

科學にもあらぬ非科學にもあらぬ社會事業は職業的社會事業 (Professional social work) のことである。職業的社會事業とは科學を適用せし技術的社會事業のことである。すなはち、社會事業は技術社會事業であり、職業社會事業である。技術社會事業と職業社會事業とは「科學を適用する技術」に關する社會事業の謂ひである。こ

の技術は社會的技術 (social art) のすべてを含む。すなはち、社會的事業は社會的技術の綜合によつて成り立つ。ヘルプ氏は *The more comprehensive definitions of social work would include all social art* と言ひ、社會事業とは總ての社會的技術を含むものだとする。但し、社會技術の中、營利行動の如きものゝ入り込むものは社會事業に於て取り除かれなければならぬから、社會事業は人類の福祉に適用される社會技術の總てを指稱することとなる。社會的技術として社會事業はそれの一切の形式に於て、社會がその應用を許すならば諸々の科學の法則を適用するが、この場合、科學法則の適用はただ人類福祉のために向けられるだけである。戰爭などにあらゆる科學の法則や原理が應用されるが、斯くの如き科學應用は社會事業に所謂科學の應用ではないし、又それによつて社會技術なるものも生じない。社會技術は人類の福祉に向けられたものに限る。人類の福祉の何であるかについてはヘルプ氏はそれは主觀的であつて、科學の如く客觀的たるを要しないが、これは社會事業が技術であつて科學でないから關まはないと言ふて居る (*The interests of human welfare are simply prevailing group judgments. It is primarily on this score that the objectives of social work are distinguished from generalizations of science. But this is the usual difference between an art and the science upon which it may draw for facts*) 私の如く社會事業を以て科學であるとなし、社會事業に於ける應用たる技術は該原則に依存するものであつて、他の科學の應用に依屬するものではないとするものにあつては (勿論、他の關係科學を基礎として應用をなすが) ヘルプ氏の如く人類福祉の觀念を主觀的だと見ることはできず、必ず、それは客觀的ならなければならぬとする。ヘルプ氏は私の社會事業對象たる「生存」の觀念を無論知らないし、「生存學」を以て社會事業學の骨子たりとの思想にも出入して居ないから人類の福祉を客觀的に科學として研究することの何であるやについては極く微弱な觀念にさへ到達して居ると見做すことはできない。人類の福祉はベ氏の考へるが如く集團的判斷であり、集團によつて異ひ、時代によつて異ふが如き主觀的なものではない。福祉の觀念は竟に生存の觀念に置き換へられるから、生存を客觀的に科學として研究するものが社會事業であるといふことになる。社會事業は科學であるが、この科學によつて開拓されし原則を適用するところに社會事業技術なるものが現れるのである。

技術的接近は職業的社會事業である。 (*technical approach is professional social work*) 社會技術としての社會事業は診察、治療の技術に對し科學的方法を要する。こゝに於て、社會事業は應用的社會技術として、科學にその指導を乞ふこととなる。技術としては社會事業は *social art* である。人道的形式の社會事業は技術なき素人社會事業であつたが、社會事業は時の進むに連れ、科學の新發見をいれて主觀的狀態より脱却し、職業的社會事業として成立するにいたつた。職業的社會事業は科學的社會事業ではないけれども、社會診察に科學の原則をいれしものである。かくて、社會事業は客觀的な方法論の上に立つこととなり、一定の方法によつて運用されるに

たつた。現代社會事業はその取扱ふ諸問題の觀察並に評價をなすことに依存するがこれが現代社會事業の前代のもとの區別せらるゝ特徴である。Halbert氏は現代社會事業の特徴を指示して There have been people for centuries who have been making a special business of helping the poor and delinquent. Since the rise of the social sciences, there has been an attempt to reduce this work to a scientific basis. Now only that portion of the business of helping the unfortunate which takes advantage of social science and tests its worth by scientific standards is entitled to call itself social work in modern sense と言つて居る。ヘルプ氏は社會事業にはいつでも三の要因があると言ふ。すなはち、(一)社會組織を變化若くは調整すること、(二)人類の福祉として認識せられる標準の實現を企圖すること、(三)科學的標準を採用すること之れである。社會事業に於けるかゝる思想の進展によつて素人社會事業は後退し、職業的社會事業が入來したのである。

職業的社會事業は技術的社會事業である。現代社會事業は職業的社會事業と言はれ、技術社會事業と言はれる。但し、これが尙一步を進み、科學的社會事業たるにいたるものであるか否かについては未だ意見の一致を見ない。ヘルプ氏等は社會事業は科學たるを得ずとして技術たるべしと主張する。Shenton氏は社會事業は純粹な技術たるべきもので、應用科學にもあらぬものと斷定し、It is first of all made clear that no social

art should be called applied social science or applied sociology. One is a science made available for practical application, the other is a practice in which the science is used (H. N. Shentons, The Practical Application of Sociology, 1928) と言つて居る。Nels Anderson氏は社會事業が科學たることについては異説紛々たるものあり、社會事業は技術として存立しなければならぬものであると言ひ (Social work must remain an art without sacrificing its objectivity) 社會事業の科學たりうることに疑を抱いて居る。これ等の人々は社會事業は科學の基礎をもつが、それは畢竟技術であるとなし、それ以上、科學として成立することのできぬものと信じて居る。

二 科學としての社會事業

私の社會事業對象は生存である。生存を學として研究するもの即社會事業である。社會事業が他の科學の基礎に立つと考ふるが故に、その應用であり、技術であるとするのであるが、社會事業に謂ふ技術はその直接的なものは他の如何なる科學にもその基礎を仰ぐことを得ない。生存を研究する科學は未だ存在せず、従つて、生存を基礎づける科學なるものなく、社會事業の基礎を仰ぐ科學も従つて存在しない。社會事業は人類の福祉に關する一切の科學の補助を受くるが、人類の困窮と福祉とを一體として研究する科學なるものが一もない。これを研

究するもの即社會事業學としての一新科學であつて見れば技術としての社會事業は先づ（その他の科學にも依存するが）社會事業學の基礎の上に立つべきものなることが斷定せられるであらう。然らば、生存を對象として研究する一科學が成立するはつであつて、單に社會事業を技術と見ることはできない。私にあつては社會事業學は人類の生存を研究する普遍了解科學である。

生存を一體として體系的に研究することが科學でないなど、は言はれない。素より、學科間なるものがあつて新科學は容易に科學として容認されず、又、大學へ入り込みえないのである。これ、人類の集團的本能による偏見が科學の世界にも入り込んだまで、學者の偏見と科學そのもの、本質とは全く別問題である。社會學は今尙獨逸あたりの大學では嚴密なる科學として認められないが、今日、社會學を以て科學だとするのには何の防げありとも思はれない。學科間によつて社會事業の如き新參な學科は容易に科學の伍班に列することを肯ぜないであらうが、偏見によつてそれを肯じないまで、既に科學たる事實とは全く別問題である。大學にも現に見るが如く社會事業を導入することを躊躇するあり、是又學科間たるまで、ある。科學以前にも社會の要求著明なるものあればそれを大學に導入し、そこで高等な知識としてそれを教授する外に途がないではないか。何づれにしても、社會事業は人類の集團的偏見によつて、科學として認むることに難色を示すであらう。但し、それが科學たるの事實を寸毫も動搖せしむることはできない。

科學は多少の假定の上に成立し、一定の認識目的の下に合目的的選擇を加へ、内外一切の経験を經驗的若くは先驗的方法によつて合理的にまとめたる體系的知識の謂ひである。科學がかくの如き性質の知識なるからには、それが如何なる種類の知識なるに關せず、科學たるに何の防げもない。社會事業に於ても、それが一定の認識目的によつて合目的的選擇され、経験を合理的にまとめ、これを體系に編みさへすれば、科學たることに何の支障あらうとも思はれぬ。マツハ氏に據れば、科學は思惟經濟によつて成立するものであり、それは個々の経験を一般的法則によつて律し、思惟經濟を圖るものたるに過ぎぬ。科學はすべて生存の要求によつて現はれ出でしものであり、科學は知識を獲得する補助具である。科學は一定の經驗範圍に適應する必要上起りしもので、その適應が終りを告ぐれば消失して、他の適應を求むることによつて再現するのである。シイラアによれば科學とは

The sciences are all cases fruits of special attention and inquiry directed upon some salient aspect of (apparent) reality; Consequently they all rest upon human interest and human selection であり、*ケニウイニョレバ* The objects of science, like the direct objects of the arts, are on order of relations which serve as tools to effect immediate havings and beings...
...What makes any proposition scientific is its power to yield understanding, insight, intellectual at-homness, in connection with any external state of affairs, by filling events with

coherent and tested meanings である。コヘレントに據れば科學は Alle Wissenschaften nichts anderes als Zusammenfassende Beschreibung der Erscheinung durch Aufgabe der Gesetzmässigen Zusammenhänge, welchen dieselben sich einordnen である。オストワルト氏によれば 科學は die Aufgabe der W. die in ihr auftretenden Mannigfaltigkeiten in solchen Weise darzustellen……, das nur die tatsächlich in den darzustellen Erscheinungen angetroffenen und nachgewiesenen Elemente in die Darstellung aufgenommen werden, alle andern ungeprüften Elemente ab fernzuhalten と言つて居る。

科學は人間生存の興味と要求とに従つて一切の經驗を合理的にまとめし體系的知識であり、上學諸家の限定を貫く思想即それが生存の興味と要求と體系的知識であるといふことによつて科學は成立するのである。

社會事業は生存を對象とし、生きることの興味と要求とに従つて、一切の經驗を経験的若くは先驗的方法によつて合理的に組織したる體系であるからには、それは又嚴たる一科學であるといふことにならう。たと現今、社會事業にあつて直ちにこの目的を充足することができないため、未だ完全なる科學にはなり得ないが、いつか斯くの如き科學たる性質を有するものなりと斷定することに何の差支へあらうとも思はれぬ。

三 社會事業學と他科學との關係

社會事業は他の科學の基礎の上に立つ技術ではなく、それは又他の科學と同列にある一新科學たるべきであるが、それは最もよく社會的、經濟的變化に關係して發達して來りしを以て、それに關する社會科學にも關係するであらう。社會事業は社會科學、經濟學に從屬すると考へられる。社會事業が絶えず變化し、複雑を極むる人生に處することができるのは、他の科學の助けをかりるからである。社會事業は個人をして社會的調整をなさしむることを主要の任務とするから、それは集團的關係を一般的にと特殊のにと分析研究する科學に最も密接なる關係をもつと考へられる。社會事業は需要に應じて自然科學や社會諸科學の一或はそれ以上を適宜利用して人間の困窮並に福祉を研究する。かくて生物學、心理學、社會學などは社會事業の一般的並に特殊の範圍の研究に用ゐられる。醫學的社會事業は醫學に依存し、精神的社會事業は精神病學に依存するなど、社會事業は經濟學、生物學、心理學、社會學、醫學から絶えず助力をうくる。人類の社會生活は複雑で多岐であるから、それに關する生物學的側面、經濟學的側面、心理學的側面、社會的側面などは夫々の科學より助力を受けなければならぬ。社會事業はつねに一以上の科學を利用するけれども、複雑なる社會生活を研究するものとしてはそれに要するだけの科學を悉く利用するのである。

社會事業は社會學に關係するからとてそれを應用社會學だと考へることはできぬ。(社會事業と應用社會學との關係については次項に述べる) ヘルプ氏は社會事業は社會技術であるが、社會學は科學であるからこれによつても兩者は區別せられると言つて居る。但し、私の解釋するが如く、社會事業も亦科學であるからには、この筆法によつて社會事業と社會學とを區別することはできぬ。社會事業と社會學の用ゐるものは同じ現象であり、その研究方法も同じでありうるが、社會學の取扱ふ問題は關係と關係形象なるに對し、社會事業は困窮と福祉、更らに、これを結合してその根底をなす生存を研究するものである。シエンソン氏は社會事業と社會學とを區別して左の如く言つて居る。

Social work is at present the most highly integrated of the social arts. It has developed an extensive technology of social work which has several distinct subdivisions. Its technology has drawn heavily from economics, biology, psychology and sociology. The more Comprehensive definitions of social work would include all social arts; It is customary to limit the use of this term to those social arts practised in the interest of human welfare and in which the profit motive either does not appear or else is a very minor factor..... Although there most certainly are sociological bases for social ethics and social policy, the latter are more

than applied sociology and they do not begin to represent all the possible applications of sociology.

社會學は關係と關係形象とを研究し、集團的行動の範疇を取扱ひ、それに関する一般的法則を設定するが、社會事業は社會に調整せざる人間を取扱ひ、その困窮を輕減除去することに關心し、その目的たるや、最上の社會的調整にありて存し、その外、積極的に人類の福祉を増進することに關する學理を究研する。調査に於ては社會學は客觀的たることを期し、集團生活の知識を増加することを實際の側面に於ける唯一の目的とするが、これに對し、社會事業は困窮と福祉とに關する實際的側面を抱擁する。

社會事業學の法則は個人若くは集團を主として社會環境に調整適應することに關し、風俗傳習に適應させてその生存を維持保存させる。これによつて、社會事業は反社會的若くは反法律的個人乃至集團を調整する法則を探究するものなるを知る。その目的とするところは倫理的で、ヨリよき適應をなし遂げしむるにある。

社會事業が個人と人格との社會調整のみを研究の對象となし、その困窮を輕減除去し、福祉を増進する方向のみをとるならば、社會事業はそれによつて個人の困窮と福祉を残りなく解決することはできない。社會事業にも集團的な側面がある。たとへば個人が困窮する場合、それが個人的な社會不調整の結果なることもあらうが、又集團そのものが不調整であつて、個人は該不調整なる集團の產物であると見られることもある。この場合、集團

の不調整を改めぬ限り、個人の不調整をいくら改めても無効に終るべきは明かである。これに對し、社會學が出勤し、社會事業に助勢して、集團的行動の法則に照らし社會的統制の技術を進むれば問題は始めて解決の緒に就くであらう、社會事業は個人の不調整のみならず、集團の不調整をも取扱ふ。これによつて、社會事業が集團と集團的行動をその範圍とする社會學に交渉し且つ依存することを知る。個人と社會とは相關々係にあり、個人の問題はすべて又社會の問題であり、社會の問題は又個人の問題である。この見地が社會事業の中に入り込まなければならず社會事業が單に社會的個別事業 (social case work) 及その技術につくると考へる間は社會事業の社會學に依屬するとする思想は確立することができない。社會事業は一方個人の社會的關係を研究し、他方集團との關係を研究する。この見地が歩を進むに従つて社會事業の研究が完全になる。然らば、社會事業の社會學に依存するは一見明瞭である。ペルプ氏は社會事業と社會學との間には技術の有無によつて分界が劃せられるけれども、その他では兩者相出入し共通であるとなし、*Aside from technical distinctions referred to preventively, sociology and social work are growing mutually dependent and complementary.* と言つて居る。こゝに於て、社會事業の中には必ず社會學的取扱法が入り込むのであり、社會事業家は必ず社會學の知識を所有しなければならぬことが解る。この見地に於て蒐集されし社會事業の材料は逆に社會學によつて利用せられ、その研究の用具たることができる。社會事業と社會學とに共通に關係するものは極めて多い。社會

事業と社會學との資料、問題、方法の共通なものは甚だ多い。但し、社會學と社會事業とに獨特のものゝ多いことも亦言を俟たない。

社會事業が科學的でなく、素人社會事業若くは人道的社會事業たりしときには素より科學的取扱も技術もなく従つて社會學とも聲息相通するが如きことはなかつた。社會學は初期には歴史哲學として哲學的に空想を弄してゐた。近頃まで社會事業が素人社會事業の域に止まつたことも止むをえない。されど、現時に於て、「現代社會事業」と言はるべきものは既に技術社會事業や職業的社會事業を意味するにいたりし限り、更らに一歩を進めて科學的社會事業に進出することも亦極めて短時期のうちであらう。今日では未だ社會事業は技術に終始するなどといふ構想が蔓り、科學的社會事業の成立を疑ふものであるがこの事は社會學史を觀ても思ひ半ばに過ぐるものあり、ついに社會學が一科學たるに至りしが如く、早晚、社會事業も亦一科學として成立するにいたるであらう。拙著「社會事業學原理」は社會事業を科學として組織せし一の試みであつた。

四 社會事業と應用社會學

社會事業を社會的技術と見る人々は社會事業は技術であるから應用社會科學若くは應用社會學と呼ぶことはできないことゝなる。シホントンは *applied Sociology must not be confused with the social arts:*

They are actual performance of acts involved in effecting social change と云ふ流儀で、社會技術としての社會事業と應用社會學とを混同してはならないとする。應用社會學は實際に適用されたる科學であるが、社會事業は科學を用ゐてなす practice であると見る。更らに、シエントンは應用社會學を以て

It means the scientific determination of relation among clearly defined social data which may be useful to social artists in making the adjustments that are approved by the community and limited to, and by, social technical procedures and actual procedures of the social work. 應用社會事業は應用社會學と混同せられるけれども、それは科學と技術との相異と見る。併し、この見方の誤りであることについては向きに分析闡明せしが如くである。社會事業は科學たりうるものであつて、技術に終るべきものではない。

應用社會學は純粹社會學の一側面である。ヘーン氏は *It is a point of view with respect to the bearing of sociological principles in the world of affairs. Any sociologists who envisages the ends of his study in terms of usefulness or welfare and who seeks out practicable means of attaining those end is, in so far as he does these things, an applied sociologist* と云つて居る。純粹社會學を實際に應用せしもの即ち應用社會學なるからには、それは明かに社會事業と異ふ。社會學は關

係と關係形象の上に立つが、社會事業は困窮と福祉とを研究し、更らに、生存をその對象とする。従つて、社會學の應用たるべき、その實際的な一側面に過ぎざる應用社會學の課題と社會事業の課題とは自づから異ふ。社會事業と應用社會學とは決して同一ではない。社會學はそれ自づから一の科學とすれば、社會事業は社會學に關係するばかりでなく、少くも數個科學の法則をも利用するものであり、社會學と社會事業との範圍は彼此異つて居る。社會學は集團と集團間の關係とを課題として取扱ひ、客觀的見地よりそれに關する法則を設定する。社會事業は先づ *maladjusted persons, atypical cases* を取扱ひ、その社會調整をなし遂ぐることを目的とするものであり、更らに、その福祉を増進することを目標とするから、客觀的に集團と集團關係とを研究する社會學の課題とは全く別なるものがある。然るに、應用社會學は社會學の實際的側面に關係し、それを研究するものであるから、その課題は社會學のものであつて（その應用たるころの）社會事業のものではない。従つて、社會事業と應用社會學とを同一視し、この兩者を混同すべきではない。個人並に集團の社會環境に調整することを目的とする社會事業は集團と集團關係の應用たる應用社會學とは全く別のものである。我國でも一部の學者は單純に社會事業を以て應用社會學なりとなし、應用社會學の研究を以て社會事業を進めんとするが、これが誤解であることは今や明瞭となつたであらう。

純粹社會學も、應用社會學も、社會事業も人類の福祉に關係し、それを實現せんとするに於ては同一である。

現代の社會諸科學は十九世紀の初期からその行進を起せしものであるが、それは何つれも實用 (utilization) と表裏し、それと密接の關係をもつて發達して來た。十九世紀に於ける英國及米國の人道的傾向が社會科學の發達を促したもので、それによつて、現時の社會事業の前身たる社會的並に法制的改良と慈善的活動とが行はれた。F. N. House 氏に據れば、これが社會學を獨立科學として促進した原因であり、氏はこれについて

As a matter of fact the last mentioned of these (social reform) was probably more directly responsible than any other influence for the rapid growth of sociology as a separate field of instruction and research in American universities (Range of Social Theory, p. 5) と言つて居る。米國の社會學は社會改良を以て始り、初期の社會學は何づれも社會改良問題を課題として居た。すなはち、慈善事業、犯罪學、貧民問題などが社會學によつて取扱はれ、米國諸大學は社會學の名の下に社會問題を講じて居た。社會學そのものが大學で講義されるやうになつたのは漸次的であり、今日、尙ほ、社會學を以て、實際的社會問題とその治療とに充てゝ居るものもある。すでに、コント社會學に於て社會改良の觀念は導入せられて居た。コントは積極哲學としての社會學を基本とする傍ら、當時危險状態にありと考へられし歐洲諸國家を救ひ出すものは獨り社會學の應用に外ならずと考へた。コントは政治家が社會學的原理を社會に應用することによつて國家の崩壊を防止することができると思ふた。スペンサー氏も亦社會學を理論的に研究したが、社會改良の觀念

を混入することを避けることはできなかつた。スモール教授によれば十九世紀の獨逸の政治家、歴史家、經濟學者などは社會科學を客觀的に研究すると共にそれを實際に用ゐたが、この傾向は獨逸を宗とする米國の社會學研究にも影響を與へた。かくの如く、社會學と社會改良若くは社會事業とは相表裏して發達し來り、初期以來、社會科學、社會學は社會事業と無關係なるものではなかつた。米國初期の社會學は社會學と言つても社會事業と言つても宜いやうなものであつた。

かくて、純粹社會學が應用社會學たるにいたるべき運命のものであることは自明と考へられる。社會學者の中には福祉とか進歩とか實際問題とかの混入を嫌ひ客觀的に問題の取扱を限らんとするけれども、以上の如き社會學に於ける實際的傾向は如何ともすることができぬ。科學には純粹な側面と應用の側面とが併存するから、社會學を in its applied phase に於て研究することは回避することができぬ。こゝに應用社會學が成立し、それは社會事業とは異ふが、社會學的に(社會事業的にあらず)人類の福祉問題に關與せんす。

社會學をして實際問題に與らしむることは科學的研究を濁濁せしむる所以であると考へられるが、他面、社會學が實際問題に接觸せずして止むことはできない。社會學は科學として集團や集團的關係を客觀的に研究するが、それに附着し來る人類生活と人類の目的と價值とを回顧することを避けることができない。科學が客觀的に眞理を研究するを目的とすることはその第一義であるが、それと共に、研究しえたる法則を用ゐて、人生を指導する

ことは第二義でなければならぬ。人生を指導するなど實際問題に深入りすることによつて、客觀的研究に障害を與へてはならぬが、科學が研究によつてえたる法則を人生に應用することは毫も不可なるなく、科學が利用厚生の具たるは當然でなければならぬ。社會學は人類生活を指導するから理論と實際とは抱合するのであり、社會學の發達にあたり、社會學は理論を用ゐて實際を指導し、こゝに理論社會學が應用社會學ともなつて現はれつゝあるのである。社會學の法則を實際に應用すれば、その法則によつて集團の機能の欠陥を容易に指示することができ、集團の政策を決定することができる。かくて、貧民問題、犯罪者問題、住宅問題、娛樂問題などに社會學が參與し來つたのであつて、社會學は自づから應用社會學たらなければならぬ運命のものである。

社會事業も、純粹社會學も、應用社會學も、人類社會生活の改良については何づれも關心するが、その立場は各異つて居る。社會事業は人類の困窮と福祉とに關し、人類の生存を合理的に設定するを目的とするが、應用社會學は關係と關係形象とを研究する社會學の一側面たる實際問題のみを社會學の範圍で取扱ふものである。應用社會學は社會學の原則を日常生活に適用せしもので、生存を研究する社會事業學とは異つて居る。

如何なる科學でも規範的たる一側面を有するのであり、殊に、社會諸科學は價值とは切り離すことのできぬものである。價值は社會現象であり、社會科學は恰も自然科學がその確立せし法則を用ゐて、工業や器械に應用するが如く、純粹社會學はその發見せし法則を適用して社會の諸問題を解決する。應用社會學は純粹社會學の獲得

せし法則を用ゐて社會問題を解決するを目的とするものである。應用社會學の用ゐる見地や方法は純粹社會學の如く科學的である。米國に於ては純粹社會學は應用社會學の下風に立つにいたり應用の範圍益々擴張しつゝある。この事は社會事業團體に於ける調査が益々増大し、時間と金とを用ゐること大となりしこと、照應する。公私社會事業及工業に於ける福利事業は日新月异の趨勢を呈し、應用社會學も亦純粹社會學を壓倒せんとす。これによつて、現代人が應用問題、福祉問題の解決に全力を傾倒する狀顯然たり。社會が科學を應用し、すべての社會的技術に科學を適用して人類の福祉を圖らんとする現代的趨勢に關しベレン氏及ローヘン氏は *So we close our discussion with a reiteration of the faith that the time will come when all social technology will be dominated by science; when social engineers will be honored as highly as mining engineers; when mankind will reap the rich rewards of harmonious social integration and consciously controlled communal development by applying to social organization the scientific knowledge made available by the applied sociologist and physical sciences* と言つて居る。

社會事業も應用社會學も人類の福祉を増進する時勢に乗つて進出しつゝあるまで、時勢と切り離してその進動を眺むることはできない。

五 社會事業と社會技術學

社會技術學とは social technology のことである。社會技術學と社會學との問題と範圍とは異ふ。従つて社會學の應用的側面たる應用社會學と社會技術學とも問題及其範圍を異にする。社會問題と社會學との範圍は異ふ。社會學は人間の結合關係と、その構造、範疇及過程に關心するばかりである。社會問題は無論社會學的側面をもつが、それは唯一社會學にのみ關するものではなく、具體的な社會問題はそこに種々な科學を參加せしめ、その協力によつて問題をほぐして居る。社會問題では相關々係にある科學を等しく重視しなければならぬ。たとへば、犯罪問題については人類學、經濟學、生物學、政治、法律、社會學、社會心理學、心理學及歴史などに關係をもち、それ等の協力によつて問題を闡明する主義をとる。それ故、社會問題の範圍は社會學よりも廣く、社會問題を取扱ふ範圍の分化によつて關係諸科學となり、社會學もその一として社會問題の解釋に當ることゝなつた。社會學は日常生活といふが如き複雑なる相關々係的な社會問題の範圍よりも著るしく狭く、且つ、限られて居る。

應用社會學は社會學の問題と範圍とに止るが故に、すべての科學に等しく參與し必要なだけの諸科學を取入れ社會問題の解決を圖る社會技術學とはその問題と範圍とに於て異なるものあるは自明である。純粹社會學な研究の

應用たる限りに於ては應用社會學につきるが、それが數個の科學の相關々係を入れるやうになれば社會技術學となる。

社會事業學と社會技術學との問題と範圍とも異ふ。社會技術學の問題は犯罪の場合に於けるが如く、それに関するすべての科學の參加を求め、それを總收するのであるが、社會事業學は生存なる特殊部門の研究に向けられるもので、彼と此とは自づから異つて居る。社會技術學的は社會問題を研究し解決するに足るだけの幾個かの科學を用ゐるが、社會事業學は他の科學の助力を受くるだけで、その固有な特殊範圍を有し、獨特なる研究題目と對象とを有つものである。よつて、屢々、社會技術學と社會事業とは混同せられるけれども、兩者の間には嚴然たる界限がある。

参考文献

1. Trend in American Sociology, edited by Lundbery, Anderson and others, 1929.
2. F. N. House, The Range of Social Theory, 1929.
3. F. Giddings, Studies in the Theory of Human Society, 1922.
4. L. A. Halbert, What is professional Social Work ? 1923.

5. H. N. Shenton, *The Practical Application of Sociology*, 1928.
6. Park and Burgess, *Introduction to the Science of Sociology*, 1924.

第十三章 學校に於ける社會事業教育

一 學校と社會事業

兒童は精神的に知能の發達を促さるゝのみならず、身體の發育にも注意され、更らに、徳性の開發も亦行はれなければならない。現今、兒童の發達は漸次國家の關與する重大なる任務となつたから、私團體は兒童の世界より後退する機運に向つた。但し、兒童の完全なる發達には到底學校のみによつて目的を達することができないことも漸次明かになり、私團體も亦その分擔を省略すべきではないとする見解に達した。兒童の發達は貧困、無智放任によつて阻害せられ、家庭の積風乃至環境により兒童は健全なる發達をなすことができない。現今學校は學齡以上の兒童の發達を支配する重要な機關となつたが、單り學校のみによつて兒童の發達をはかることはできない。兒童の發達といふが如き複雑多岐且つ廣汎なる事業に對しては種々雑多な機能と機關とを綜合しなければならぬ。それに對し、各種の社會事業團體も出動してその分擔を受持たなければならぬ。こゝに社會事業團體の學校に於ける直接的な教育に附隨してその職能を動かす必要があり理由がある。

國際聯盟のゼネバ會議は學校に於ける兒童福利事業を左の如く定めて居る。

- 一、全學年を通じ醫師によつて身體検査を行ひ、兒童の身體的欠陥を治療すること。
 - 二、學校には醫師と看護婦とを常置することとし、看護婦は兒童の検査に助力し、かつ醫師の命令の行はれたるや否やを査察するため家庭訪問をなすべきこと。
 - 三、咽喉、眼、耳、皮膚を治療し、痘瘡その他の疾病を治療するため治療所を特設すべきこと。
 - 四、兒童の疾病に對し病院設備を十分にし、適當なる監督の下に豫防且つ治療的なホームを特設すること。
 - 五、林間學校乃至林間學級をつくり、在校中休養することの能きるやうにし、肺病などに罹る兒童に對しては醫師の必要と認むる場合これを林間學校で保養せしむること。
 - 六、疾病の治療乃至豫防に關する施設をなし、且つ、鈍魯兒、不具兒、盲兒、聾啞者、精神薄弱者を看護し教育を加ふべきこと。
 - 七、異常兒童の心理學的研究に關し、特別な研究所を開設すること。
 - 八、大都市に居住し、乃至、健康上障害ある兒童に對し田舎又は海邊で保養する設備を起すこと。
 - 九、貧困なる孤兒、浮浪兒に對し國家はなるべく正常なる家庭状態によつて保護すべきこと。
 - 一〇、貧兒にして食物をえがたきものに對しては食物を供給すべきこと。
- 現今、歐米諸國及我國では兒童愛護の思想が普及し、競ふて各独自の保護法を講じつゝある。我國では學童の

身體検査に相當の成績を挙げつゝあるが、英國では學校看護婦制を導入し、國を通じ都市と農村とに拘はらず學童の嚴重なる醫學検査と治療とを施し、ロンドンでは最初の不具兒學校を創設し、米國では營養學級と兒童相談所 (child guidance clinic) とを設け、瑞典では身體鍛練、ウイースバーデンでは學童の完全なる醫學検査、ストラスブルグでは學校齒科検査、シャーロットンブルグでは林間學校を夫々特設して居る。イングランド及ウェールズ教育局醫長 Sir George Newman は學校醫術は左の要件を具備しなければならぬとして居る。

- 一、兒童をして國家の命する教育を受けしめんとすればそれに相當する體力が要る。こゝに兒童生理學の必要が生ずる。
- 二、正常なる生理状態に達せず、かつ、發育悪しく、障害、異常、欠陥、疾病 (身體的、精神的) あるものは須らくこれを矯正治療しなければならぬ。
- 三、外的若くは内的な欠陥及疾病は豫防につとむるを要す。
- 四、學校では衛生教育をなし、兒童をして衛生上の知識を獲得せしめ、かくて健全なる國民を造り出さなければならぬ。

學校に於ける衛生の基礎は醫學検査である。醫學検査はその度を異にするとはいへ、既に歐米諸國に確立した。但し、醫學検査なるものは兒童の身體的福祉を圖るため欠陥や疾病を發見し、直接それを治療するだけで、

その由来する病因に溯り家庭を整へ環境を改むることはできぬ。後者は社會事業家の任務である。日本では一八九八年以來學童検査が施行せられ、人口五千人以下の小都市が除外されるだけである。佛蘭西では一八八六年以來學童の醫學検査が行はれ、獨逸では州と都市とによつて異なるけれども醫學検査は普く勵行され、一八九一年ライプツヒを先頭となし、次いでウイースバーデンが模範的學童検査を開始した。米國でも州によつて異つては居るが普く學童検査を行ふ。一八九七年、紐育市は傳染病防遏のため百五十人の醫師を任用した。一九〇五年には常例の傳染病検査より學校看護婦及醫師を用ゐて學童検査をなし、身體的欠陥を矯正し、それを親に通告する仕組をたてた。但し、一九一八年以來、學童検査熱衰へ、紐育市ではそれ以來特に學童の増加に比例して検査を勵行するあるを見ず。ヴァジニアでは學童の身體的欠陥や疾病の取扱は教師に放任され、醫師はそれに關與しない。一九〇七年以來、イングランド及ウエールスでは學童の醫學検査を義務的となし、一九二一年の法令によつて不具兒の検査をも義務的とした。歐洲諸國の學童検査は完備の域に達して居る。諾威では模範的な法律をつくり、瑞典は學童検査の元祖で、既に一八六一年以來醫學検査を施行して居た。瑞西では郡毎に醫學検査を施行し、そのあるものは完備の域に達して居る。

チウリツチでは學童検査を行ひ、一年を通じて朝食と晝食とを給與して居る。更らに齒科検査をも行ひ、耳、鼻咽喉の疾患は専門醫によつて診察され治療される。不具兒に對しては特殊學校が開設され、盲啞兒に對しても特別なる學校がつくれ、近視、遠耳に對しては特別學級が編成せられて居る。更らに不具兒に對しては私團體が出勤して院舎をつくり、治療所、學校、工場を設置して居る。チウリツチ市では肺結核を病む兒童に對し田舎に療養所を特設して居り、田舎に休日殖民の一年を通じ開設せらるゝもの二ヶ所あり、健康を障害し、かつ、病弱なる兒童を收容し休養せしめて居る。但し、チウリツチでは學校治療所に於て醫師の助手として看護婦を使用するが、それを家庭訪問に使用せず、従つて、チウリツチには訪問看護婦なるものはない。なほ、チウリツチでは癩麻質斯や花柳病に對しては何の設備も講ぜられて居らぬ。

チツコスロバキアでは學童検査は入學と卒業時に施行せられ、概して一年一回施行の定めである。全學校中約三〇%が規定による醫學検査設備を有するのみ。學校の食物給與もたゞ大工業都市に行はれて居るに過ぎない。治療所の特設されしもの少なく、たゞ齒科治療所が開設されて居る。赤十字社も亦この種の施設をなして居る。精神薄弱兒、不具兒、盲啞兒には特殊の學校が開設されて居るが、近眼並に遠耳は放任されて居る。浴室は學校に設けられて居り、肺結核に對しては療養所、健康殖民、保養ホーム、林間學校が特設されるを見る。十二の支部をもつ休暇福利協會なるものがあり、赤十字社、都市、保健省では休暇にあたり兒童を保養せしむる設備をつくり、これを伊太利の海邊にまで及ぼして居る。チエツク、スロバキアでは家庭訪問は看護委員によつて行はれ、學校看護婦制は二十二の大都市に施行されて居る。

ユーゴスラビアでは毎學年の始めと終りとに検査を行ひ、疾病發生毎に特別検査をなす。學校の給食は一般に行はれず、牛乳も時に貧兒に與へられるだけである。但し、齒、眼、耳、鼻、咽喉及皮膚病に對しては學校治療所が開設されて居る。不具兒、盲兒、その他欠陥を有つ兒童に對しては特別な學校は設けられて居ないが、保健省管轄の院舎がつくられて居る。學校には浴場が設けられ、肺結核についても特別の注意が加へられて居るが、儂麻斯並に花柳病については何の施設もない。家庭訪問は學校看護婦によつてなされるが、家庭訪問をなす私團體は一もなし。

匈牙利では入學と卒業の際醫學検査を施行するが、毎年一二回規則正しく醫學検査をなす。學校給食は都市に行はれて居る。齒科治療所の開設されるもの九で、八千人の學童に對し、治療を施す。その他、眼、耳、鼻、咽喉及皮膚病に對しても治療所が特設されて居る。魯鈍兒に對しては特別學級を編成するが、精神薄弱兒と近眼に對しては特殊學校は開設されて居ない。啞學校は啞兒のために特設されて居る。病弱兒に對しては田舎で保養せしむる仕組みで、時に、白耳義、和蘭、瑞西近くまで送られる。學校看護婦は家庭訪問をなし、社會事業及衛生事業にあつて居る。

二 學校と私團體の社會事業

現今、兒童保護は何づれの國に於ても重要な問題となつて居り、従つて、國家は極力保護の實を擧ぐるに努むるが、素より兒童保護は官公の獨占たるべきものではないから、官公の活動が旺盛となればこれに伴ふて又私團體の活動も活潑となりつゝあるを見る。

英國で不具兒學校がロンドンの Tavistock セットルメントに特設されたのは有名な小説家 Humphry Ward 夫人の誘導によるが、それまで不具兒は放任され、たゞ慈善家の一團が毎朝不具兒を集めて、これを學校へ連れて行く慣例あるに過ぎなかつた。學校に於て不具兒は精神に刺戟をうけ知能の上進を見たが、精神の發達はやがて身體にも影響を及ぼし、教育の助長となつた。かくて、乞食たるべき運命にあつた不具兒は職業教育を與へられ、獨立自助の生活を始むる糸口を見付けた。毎朝婦人によつて學校へ不具兒が連れ行かる光景は市役所の忍ぶ能はざるところで、竟に市によつて不具兒學校が特設さるゝにいたつた。

歐米諸國及我國の赤十字社は兒童の衛生保護の範圍にも出動し、諸々の社會事業殊に兒童保護を行ひつゝある。

ロツクフェリア兒童基金は歐洲大戰によつて惹き起されたる中部歐羅巴の慘害を軽減するに與つて力があつた。ロツチエスタアのイーストマン齒科研究所、米國心臟治療協會は學童の保健について著明なる貢献をなしつつある。

私團體の社會活動は無論欠くことの出来ないもので重要な役割をなすが、歐米諸國を通じて公私團體の關係は概して圓滿でなく、到るところに反目嫉視誤解排擠が行はれて居る。これは畢竟分業の觀念が未だ發達せざるのいたすところで、やがて、兩者の分界が分明しその補充關係が明かなるにいたれば兩者は必ず提携すべきもので排擠すべきものでないことが分らう。私團體は無用であるとか、官公團體は横暴であるとか、私團體は無力であるとか、官公團體は官僚的で専制であるとかといふ非難は歐米諸國の現業界に跋扈する常例であるが、かゝる反目争鬪は分業の觀念の成立によつて一掃さるべきものである。官公團體は官僚的で、器械そのものであり、頭はあつても心のない乾枯した窮窟なもので、個々に即して融通無礙な救助をなすことができない。これに對し、私團體は無力で、劣弱で、到底大規模な救助をなすに堪えぬであらう。官公社會事業は能率と効果とに優るけれども、人間味を欠き、器械化し、私的社會事業は創意と柔軟性に富むけれども、大規模な救助組織をつくることのできない。兩者の間には一長一短あり、補充することによつて各完全となるべき性質のものである。現時に於けるが如き兩者の誤解と反目とは嘆すべきことである。但し、社會事業が順潮に發達しつゝあるところでは必ず公私社會事業は補充關係をとりつゝある。トマス氏は巴里萬國社會事業會議の報告中に In most places where voluntary agencies flourish they do so side with state institutions, a satisfactory delimitation of spheres of activity having been established so that by respecting one another's

foundaries sources of friction have been eliminated と言つて居り、更にロンドンに於て公團體は私的機能を加ふることによつて其硬化を避け、社會事業の機能を整ふる所以を述べ、私の統合社會事業學論に接近する意を明かにしてかく述べ居る。In London alone is found an attempt to achieve the indispensable and to weave an official system on a voluntary basis: The London system which I shall presently describe in detail, by its fundamental reliance upon voluntary effort, its eager acceptance of voluntary help and its subordination everywhere of the bureaucrat to the voluntary worker, has provided itself with a heart as well as a brain and presents the spectacle not of a machine but of having sentient organism. It bleeds wherever it is pricked. 現今到るところ公私社會事業が未だ補充的な機能を自覺するにいたらず、官公社會事業漸く全盛の形勢にあり、私團體事業後退しつゝあるは社會事業の本然の機能の上から痛嘆すべきことである。

三 學校社會事業の原則

學校社會事業は文部省の管轄か内務省社會局の管轄かに屬し、府縣及都市では社會課の管掌とし、それが一層教育的たるにいたれば學務課の管掌となすべきで、衛生局や衛生課所屬となすべきものではない。學校福利事業

はその衛生に關する範圍に於ても教師の協力を要し、教師の仲介なくして行はるべきものでないから、それは學務課教育課若くは社會課の協力なくして所期の効果を擧ぐることはできないであらう。

學校社會事業と雖も綜合形態に依るべきもので、單獨に行はるべきではない。それ故、それは學校所在地區内公私團體と連絡をとり、重複を避るのみならず、これ等の機關を利用することによつてその専門と特殊機能とを用ひなければならぬ。綜合形態の要こゝに於てか生ず（綜合形態については「社會事業學原理」三篇二章參照）

學校に於ける醫學的社會事業はその根源に溯るが如き方針を探らなければならぬ。醫學は單に當面の疾病を治療することを以て満足するが、社會事業家は更らに疾病の由來に溯り、その病根を杜絶するが如き方針をとらなければならぬ。たとへば、トラホーム治療に於て醫師は單にそれを療治しさへすれば宜いが、社會事業家は更らにその家庭に於て傳染するが如き状態を變化しなければならぬ。よつて、社會事業家は親の無智を啓發し、社會的教育をなし、且つ、家庭的環境を改善することに努めなければならぬ。肺結核に罹りし兒童を治療することは醫學的方法であるが、更らに、家庭の状態を變化し、その環境を改むることは社會事業的方法である。學校社會事業にあつては常に病源を求めてそれを杜絶するやうな方針をとるべきである。

學校社會事業に於ては獨立自助の精神を作與することを方針とする。貧兒の救助にあつても無意義に何の方針もなくこれを救助するにあらずして、兩親の獨立自助の精神を挫かぬやうにする。更らに、學校社會事業は兩

親の責任を解除するが如き感を起させてはならず、それを旺盛ならしむるが如き手段を探らなければならぬ。よつて救助にあつても無料を原則とするのではなく、支拂能力に應じて料金を徴收するやうにする。

四 英國の學校社會事業教育

英國學校社會事業の中心機關は school care committee である。學校保護委員は一千若くはそれ以上の學校を一團として、それより一名つゝ選任せられ、學校社會事業について全權を握る。學校保護委員はロンドンの County Council の教育委員に屬する central childrens care-committee の支配の下に置かれる。ロンドンでは公團體が徒らに私團體の既成領野を蠶食することなく、なるべく私團體を誘導して事に當らしめ、私團體の既に實行するものに對してはそれを尊重し、一層その機能を發揮せしむるやうな方針を探つて居る。ロンドンの學校社會事業は公的であるが、全く私的組織の下にその運用を企圖して居る。

學校保護委員は無給な特志家で、醫學検査にあつては、醫師並に看護婦と共に検査の現場にいたり、親に面談し、欠陥のある兒童を搜出し、兩親に對しそれを検査所に連れ來るよう勸告し、病院及治療所に對し治療券を發行し、或は割引或は無料として取扱ふ。家庭訪問は看護婦の役割であるが、保護委員も亦家庭訪問をなす。學校看護婦制によつてロンドンでは學童の疾病を減少し、その出席率を高むることができた。保護委員は學童の給

食についても參與し、給食の場合には無料か有料かを決し、有料なるときは親より徴収する額を定める。保護委員は児童の退學後の保護をもち、學校後見會議を開き校長及醫師の報告に基き親と會見して児童の將來について相談し差圖する。必要と認めれば職業紹介所員をも招致し、児童の職業を指導しその就業をはかる。現今、ロンドンにはかくの如き學校保護委員は五千人より六千人に上るが、それは有給吏員としての熟練なる組織家の下にをかれ、その指導統率の下に糸亂れざる活動を期す。私の學論では特志家と特志家的機能は重要で欠くことの能きぬものであるが、その量に於て多數たるを要するが如き救助事業は特志家をまつて行ふ外に策はない。昨今、獨逸では特志家無能の聲高く、エ法に於ける救護委員の如き戰後廢止の議起りつゝあるが、それは如何にしても有給吏員の如く有能化することは竟に空想であるとしても、それに依らなければ行ふ能はざるものあるに於て、如何にしてもこれを省略することはできぬであらう。特志家はついに學習もしないであらう。經驗を積む熱誠にも乏しいであらう。一言にして、それは有給吏員に比し無能であらう。併し、それは有給吏員の持ち合せぬ個別的機能としての特志家的機能を持ち、集團的機能につくる官公社會事業や有給吏員によつて代辯することはできぬであらう。その上、大量救助といふが如きものは到底限られたる有給吏員を以て應ずることはできぬから、任意に自由に所要の特志家を起用しなければならぬであらう。方面委員は幾百幾千と自由に任用して居るが、これが如何に無能で不熱心であるからとて、有給吏員を以て代ふることはできない。但し、特志委員制とし

て徹頭徹尾運用することの能きるものではなく、たださへ時に廢止しなければならぬ程の無能不熱心が鼻につくから、これに有給吏員を配し、organizerとしてこれを組織化しなければならぬであらう。特志委員制によるは如何なる社會施設でも可であると私は主張するが有給吏員はなるべく多く任用してこれに配することを原則としなければならぬ。但し社會事業の特志家による自治制などいふことは空想である。ロンドン保護委員は五千人より六千人の間にあるといふが、かくの如き多數な有給吏員を任用することは不可能なるべく、有給吏員制としてこれを組織すれば保護委員制といふが如きものは畢竟實行不可能とならう（この事については「社會事業概論」一層詳しくは「社會事業學原理」に於ける公私社會事業學論を通讀されたい）

ロンドンに於て保護委員を統率する組織家としての有給吏員は婦人で、大學で社會事業を専攻せしものである。女組織吏員は新保護委員を教育し、保護委員に忠言を與へ、それに助力し、それを補充する。十二の教育地區毎に一名の組織吏員があり、地區の學校社會事業を管轄する。組織吏員は地區内の各種の公私社會事業團體と連絡をとり綜合の實を擧ぐること力むる。全組織地區を監督するものは組織長としての婦人であり、高き才能と、力量とを有つものを選任するが、組織長は事業會議、一般保護教育官、児童保護醫官長に報告を提出する義務がある。

學校内の児童保護は保護委員によつて行はれるが、校外の児童は私團體の精勵に依る方針である。児童の醫療

は迅速に行はれるが、一般病院若しくは特殊病院と連絡を取り、醫療の完全ならんことをつとめる。病院では取扱兒童の數によつて料金を徴収するものもあるが、病院の官僚化を虞れ、これを忌避するものもある。なほ、齒、耳、鼻、咽喉、眼などの治療に對し開業醫を利用して居る。開業醫は概して厚意をもち進んで學童醫療センターをつくり、治療をなすといふ。但し、開業醫に於て治療センターをつくるのが能きなければ、社會事業團體がこれに代つてその任務を果す。現今、ロンドンには七十の治療センターがあり、總て特志組織であるが、そこでは一年十二萬の兒童が齒科治療をうけ、三萬の兒童が眼鏡の相談をなし、一萬五千の兒童が咽喉の治療をなす。眼鏡の購入をなす能はざるものに對しては保護委員會に附設せらるゝ特志眼鏡協會なるものが代つて購入して與へる。輕微な疾患に對しては輕症治療部によつて治療する仕組であるが、それに治療を依頼する兒童は一年六萬に達する。

組織吏員は病院や治療センターに臨席し、兒童の出入を監督し、足らざれば、それを保護委員に移牒して、出席を促す。また、治療すみのものは保護委員に移牒する。かくて、醫療に任ずる醫師と、更らに、病因に溯つて家庭や環境を整ふる社會事業家とが協力して、兒童の保健をはかる仕組である。病院でも組織吏員の効用を認めその臨席を希望するが、これによつて治療の効果を増大し、その期間を短縮するを見る。我國の官公社會事業は多く形づくつて魂を入れぬものであるが、能率と効果との問題が重要視さるゝにいたり、社會事業はこゝに初め

て素人社會事業より女人社會事業たるであらう。

保護委員は田舎や海邊に於て療養すべき兒童に對しては田舎學校、保養所、*residential school*をつくる。兒童が田舎や海邊に去つて留守の間に保護委員は兩親並に社會事業團體と共に家庭改善の相談をなし、兒童をして重ねて病弱に陥り疾病に罹らぬやうにする。保護委員は又不具兒、盲聾啞兒、近眼、遠耳、癲癩、言語障害ある兒童を特殊學校に送るよう盡力する。

ロンドンに於けるかくの如き宏大で組織的且つ人道的精神の輝く兒童保護事業は兒童保護界に革命を與へ、兩親の責任感を増大し、家庭の福祉を増加すること顯著で、世界兒童保護の範例たるべきものである。我國の兒童保護もやうやく地平線に上つたが、例によつて形式的で、精神と主義とを欠き、兒童の完全に保護せらるゝいつの日なるか豫め知るべからず。

参考文献

1. C. I. Thomas, *Social and Health Work in School.*
2. L. H. Gulick and L. P. Ayres, *Medical Inspection of Schools.*
3. Reeves, *Care and Education of Crippled Children in the United States.*

4. Abbott and Breckinridge, Truancy and Non-Attendance in the Chicago School.
5. Claypon, The Child Welfare Movement.

第十四章 大學に於ける社會事業教育

一 大學に於ける社會事業教育の特質

大學は社會事業教育機關としては分科的知識の傳授を分掌し、綜合的全體及人間的見地による社會事業教育はこれを特殊社會事業學校に譲る。

大學に於て社會事業を教授すること可能なりや。この問に答ふるには大學の特質と社會事業との關係を分析考察しなければならぬ。綜合的全體や人間的見地による社會事業教育機關としては特殊社會事業學校にまつ外はないが、綜合的に對して分析的、人間的に對して科學的教育は大學制に依る外はない。大學教育は主として主知的となり、感情と意志とをそれに加ふることができぬ。知的でありながら情意的でもあり、全體的人間的見地による社會事業教育は特殊社會事業學校の分擔であり、大學に於てかくの如き人間的教育を施すことはできぬ。特殊社會事業學校からは社會事業の現業に働く實際家を造り出し、大學からは知的で分析で科學に従事する理論家や學者を造り出すべきである。

社會事業教育に於て、大學と特殊學校とは分業の觀念に支配せられる。社會事業教育を特殊學校のみで完了す

ることでもできなければ、大學で獨占することもできない。特殊學校と大學とは各その特質に應じて夫々異つた社會事業教育を分掌しなければならぬ。大學では分析的に社會事業を教へるが、特殊學校では綜合的に教へるし、大學では知的、特殊學校ではそれと共に情意的に、大學では科學的に、特殊學校では人間的に社會事業教育を進める。大學教育は科學的であるが、それによつて實驗的で體験的（本源状態たる）な社會事業教育を施すことにはできない。分析的は綜合的に對しては不完全であり、知的は體験的に對して斷片的であり、科學的は人間的に對して無限に無内容で空疎である。眞の社會事業教育が科學人といふが如き簡單なるものを造り出すだけであれば、實際的で同時に理論的であり、知的で同時に情意的であり、分析的で同時に綜合的あり、科學的で同時に人間的であるが如き複雑なる機能を有する特殊社會事業學校を特設する要を見ない。科學といふが如き知的な理論的なものはそれに相應する部分だけを體験から切り取つたもので、無論不完全である。科學は體験に比ぶれば無限に無内容であり、空疎で貧弱である。科學は萬能でもなければ、實在を洞觀する方法でもない。科學はたゞ實在を知的な理論的な一定の方法によつて曲けて把握する道具にすぎぬ。科學によつて實在を把握するが如く考へるのは誤解である。

大學は分科的科學的で、實在の知的な一側面を把握學習するところである。實在の全景の把握は科學的な大學教育の如何ともなす能はざるところである。大學は分業によつて科學的な側面のみを切り離して、これが研究に

精到を期する。よつて、この側面に於ては大學に於ける研究は最も優れたるものであると言へる。大學教育は部分的に優れたもので、全體の見地は別の機關と方法とに依らなければならぬ。科學とか科學人とかいふものは分断によつて纒かに分立することができるが、無論それ自づから價值あるものではない。たゞ實在を分断して把握しなければならぬ認識の要求上如何ともなし能はず、かくの如き不完全な方法を採用するまで、ある。然らば、大學に於ける社會事業教育はたゞ次の如き見地によつてその分立の必要と權能とをうるであらう。大學に於ける社會事業教育は第一、體験のうちより理論的な部分のみを切り離すものであるから空疎で不完全である。但し、部分的に把握する方法はその範圍に限り精到で細密であるから、この範圍に於ては他のこれを凌駕するものなく、最も優れた研究方法たりうる。こゝに大學に於ける社會事業教育の分擔がありその必要がある。人間的な實際的な全一的な社會事業教育は特殊社會事業學校で遂行されるが、分析的理論的な科學的研究は特殊社會事業學校の短しとするところで、そこでかくの如き研究と教育とを遂行することはできぬ。それ故、如何に特殊社會事業學校制が完備しても大學に於ける社會事業講座を廢止するか、又そのやうな講座の特設が不用になるとかといふようなことはない。このような講想は社會事業教育の精細な見解に出入しないため、社會事業教育のすべてをつくすには一は特殊社會事業學校に依り、他は大學に於ける社會事業講座制に依らなければならぬ。特殊學校よりは現業家、社會事業家、人道家を出す、大學よりは理論家、指導者、學者を出す。こゝに特殊學校と大

學との分業があり、一が他に取つて代ることもできなければ、一が他を廢止することもできず、兩々併存しなければならぬ所以を知る。

社會事業教育は全體として総合的でなければならぬ。この事は特殊學校に於けると大學に於けると異りはない。社會事業は多角で多様であるから、一時に多くの知識、諸々の科學に出入しなければならぬ。社會事業に於ては分科といふようなことは許されない。單科大學で社會事業を完全に教授するには多少の困難がある。社會事業は必ず綜合大學に於て総合的に教授されなければならぬ。大學に於ける分科的見地に於ての綜合は單に孤立して併存關係にあるのみであるが、特殊社會事業學校に於ては人間的見地、若くは、全體としての人間的見地より眺められ、該方針によつて綜合されたるものである。人間的見地によつての総合的研究は經濟的困窮を對象とする場合と雖も、それは身體的、精神的、乃至、倫理的困窮より切り離すことをせず、それを交互に關係する全的見地より取扱ひ、それを部分的な社會生活に關するものとせず、社會的範圍を全體として取扱ふ主義をとる。

分析的科學の見地より大學に於ける社會事業教育は行はれるが、なるべくこれを総合的なものとしなければならぬ。社會事業學は一社會科學として文學部に編入せられ、社會學と併立する一講座を特設すべきである。現今、我國の大學で（多く私學）社會事業は社會學の附屬として取扱はれて居るようであるが、これは初期のこと、漸次、特別な講座制をとり、社會學と併立するであらう。獨逸のウエーバ氏は社會事業は獨立なる講座

として特設せられるべく、更らに、それは獨立なる一分科として他の分科に何等所屬せざるものとなさなければならぬと言つて居る。但し、社會事業の對象たるべき困窮は經濟的なものでもあり、生物學的のものでもあり、倫理的なものでもあるから社會事業に關しては総合的な講座制としなければならず、各分科各學科と連絡をとりながら、それ自づから獨立する ein einheitlicher Lehrstuhl たらなければならぬ。社會事業は他の學科と異り、総合的なものであるから、その研究方法も亦総合的でなければならぬ。他の學科は單獨に研究し教授するとしても、社會事業はそれに關係する一切の學科に關係し、それに綜合して全體的見地より研究され教授されなければならぬ。それ故、社會事業學は文學部に所屬し、獨立なる講座として特設し、その教授方法はそれと關係する一切の學科と分科とに連絡をとり、その加擔により総合的なものとして教授されなければならぬ。但し、大學に於ける各分科による綜合は孤立しながら併存するもの isoriert nebeneinander たるべきが故に、これを Totalität des Menschen の見地により全一的な綜合に進めなければならぬ。併し、大學に於ける社會事業講座は各分科が對立し反目し嫉視する態度を避けえざるが故に、これを全一的見地によつて綜合することは困難であり、又多くの場合不可能であらう。そこで、大學に於ける綜合は併存關係より以上に出づることはできなくなる。一機關内に於ける各種の知識は全一的に綜合することができるが、機關を異にし分科的に割據する制度上の綜合は併存的たらざるをえざるべく、全一的綜合に達することはなか／＼困難であらう。併し、大學に於ける社